

ShadowImage

ユーザガイド

Hitachi Virtual Storage Platform G1000, G1500

Hitachi Virtual Storage Platform F1500

Storage Navigator を使ってストレージシステムを操作する場合は、必ずこのマニュアルを読み、操作手順、および指示事項をよく理解してから操作してください。また、このマニュアルをいつでも利用できるよう、Storage Navigator を使用するコンピュータの近くに保管してください。

著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 2014, 2024, Hitachi, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

商標類

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

DFSMSdss は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

FlashCopy は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

IBM は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

S/390 は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2024 年 11 月（第 38 版）

目次

はじめに.....	9
対象ストレージシステム.....	10
マニュアルの参照と適合プログラムバージョン.....	10
対象読者.....	10
マニュアルで使用する記号について.....	10
マニュアルに掲載されている画面図について.....	11
変更履歴.....	11
 1.ShadowImage の概要.....	15
1.1 ShadowImage とは.....	16
1.2 ShadowImage の利用法.....	16
1.3 ShadowImage の構成要素.....	16
1.3.1 ShadowImage のペアボリューム（プライマリボリュームとセカンダリボリューム）とは.....	18
(1) ShadowImage のカスケードペアとは.....	18
1.3.2 Storage Navigator の GUI.....	20
1.3.3 RAID Manager からの ShadowImage ペア操作とコンシステンシーグループ作成とは.....	20
1.4 ShadowImage ペアの作成と更新コピーとは.....	20
1.4.1 ShadowImage ペアの作成から初期コピー完了までの流れとペアの状態.....	20
1.4.2 ShadowImage の更新コピーとペアの状態.....	21
1.5 プログラムプロダクト名の略称について.....	22
 2.ShadowImage のシステム要件と運用計画.....	23
2.1 ShadowImage のシステム要件の概要.....	24
2.2 ShadowImage のライセンス容量の要件.....	25
2.3 ShadowImage ペアボリューム作成の計画.....	26
2.3.1 作成できる ShadowImage ペア数の計算方法.....	27
(1) 1 ペアあたりに必要な差分テーブル数とペアテーブル数を計算する.....	28
(2) 最大ペア数を計算する.....	29
2.3.2 ShadowImage 用ボリュームの準備.....	29
2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計.....	30
2.4.1 ペア数とコピー速度（データコピー率）が性能に与える影響.....	31
2.4.2 パリティグループの負荷分散とは.....	31
2.4.3 複数のプログラムプロダクトを同時に使用する際の注意事項.....	31
2.4.4 AIX ホストサーバを使用する際の注意事項.....	31
2.4.5 ShadowImage の Quick Restore による再同期を実施する際の注意事項.....	32

2.5 ShadowImage のシステムオプション.....	32
2.5.1 保守員が設定するオプション.....	32
2.5.2 Storage Navigator または RAID Manager で設定できるオプション.....	35
2.6 Thin Image と ShadowImage の特性の違いおよび使い分け.....	38
2.6.1 Thin Image と ShadowImage の特性の違い.....	38
2.6.2 Thin Image と ShadowImage の使い分け.....	38
3.ShadowImage と他のプログラムプロダクトとの併用.....	41
3.1 ShadowImage と Cache Residency Manager の併用.....	42
3.2 ShadowImage と LUN Manager の併用.....	42
3.3 ShadowImage と Data Retention Utility の併用.....	42
3.3.1 Data Retention Utility のアクセス属性と ShadowImage のペア操作.....	42
3.3.2 ShadowImage のペア状態と Data Retention Utility のアクセス属性の設定.....	44
3.4 ShadowImage と Volume Migration の併用.....	45
3.5 ShadowImage と Universal Volume Manager の併用.....	46
3.6 ShadowImage と TrueCopy の併用.....	46
3.7 ShadowImage と Universal Replicator の併用.....	47
3.8 ShadowImage と TrueCopy および Universal Replicator の組み合わせ.....	49
3.8.1 TrueCopy 同期リモーストレージでの ShadowImage 操作の可否.....	51
3.8.2 Universal Replicator リモーストレージでの ShadowImage 操作の可否.....	52
3.8.3 TrueCopy / Universal Replicator ローカルストレージでの ShadowImage 操作の可否.....	52
3.9 ShadowImage と Dynamic Provisioning の併用.....	53
3.10 ShadowImage と Thin Image の併用.....	55
3.10.1 Thin Image プライマリボリュームと ShadowImage プライマリボリューム共有時の ShadowImage の操作.....	56
3.10.2 Thin Image プライマリボリュームと ShadowImage セカンダリボリューム共有時の ShadowImage の操作.....	57
3.11 ShadowImage と Resource Partition Manager の併用.....	58
3.12 ShadowImage と global-active device の併用.....	58
4.ShadowImage ペア作成前の事前準備と注意事項.....	61
4.1 ShadowImage ペア作成に必要なボリュームの作成.....	62
4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項.....	62
4.2.1 ShadowImage ペア作成時の注意事項.....	62
4.2.2 Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペアの作成.....	64
(1) Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペア構成の考え方.....	64
(2) Storage Navigator の GUI 操作でペア構成の異なる複数の ShadowImage ペアを同時に作成する方法.....	64
4.2.3 ShadowImage ペアの分割の種類.....	66
4.2.4 ShadowImage ペアの中断時の注意事項.....	67
4.2.5 ShadowImage ペアの状態が PSUS に変わる契機.....	67
4.2.6 ShadowImage ペアの分割時の注意事項.....	68
4.2.7 ShadowImage ペアの再同期の種類.....	68
4.2.8 ShadowImage ペアの再同期時の注意事項.....	70
4.2.9 ShadowImage の Reverse Copy および Quick Restore の制限事項.....	70
4.2.10 ShadowImage ペアの削除時の注意事項.....	71

5.ShadowImage ペアの操作.....	73
5.1 ShadowImage ペアの操作とは.....	74
5.2 ShadowImage ペアの状態を確認する.....	74
5.3 ShadowImage ペアを作成する.....	74
5.4 ShadowImage ペアを分割する.....	76
5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能.....	77
5.5.1 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能とは.....	78
5.5.2 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能操作の流れ.....	80
5.5.3 RAID Manager からコンシステンシーグループの ShadowImage ペアを分割する.....	80
5.5.4 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能実行可否と実行後のペア状態.....	81
5.6 ShadowImage ペアを再同期する.....	82
5.7 ShadowImage ペアを中断する.....	83
5.8 ShadowImage ペアを削除する.....	83
6.ShadowImage ペアの状態確認とメンテナンス.....	85
6.1 ShadowImage ペアの情報を参照する.....	86
6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する.....	86
(1) ShadowImage ペア状態の定義.....	86
(2) カスケード構成の L1 ペアへの操作指示と L2 のペア状態との関係.....	88
(3) カスケード構成の L2 ペアへの操作指示と L1 のペア状態との関係.....	89
(4) カスケード構成の L1/L2 ペアの状態によるノードボリュームの Read/Write 操作.....	89
(5) カスケード構成の L2 ペアの状態によるリーフボリュームの Read/Write 操作.....	90
(6) ShadowImage ペアの操作指示とペア状態の関係.....	90
(7) プライマリボリュームを複数のセカンダリボリュームで共有する場合の ShadowImage ペアの操作指示と実行できる操作.....	90
6.1.2 ShadowImage ペアのプロパティを参照する.....	91
6.1.3 ShadowImage ペアの一致率を参照する.....	92
6.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの情報を参照する.....	92
6.2.1 ShadowImage のコンシステンシーグループ数を参照する.....	92
6.2.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの一覧を参照する.....	93
6.2.3 ShadowImage のコンシステンシーグループのプロパティを参照する.....	93
6.3 ShadowImage ペア操作の履歴を参照する.....	94
6.3.1 「操作履歴」画面の「説明」に表示される ShadowImage の操作とは.....	94
6.4 ライセンス容量を参照する.....	95
6.5 ShadowImage システムを保守する.....	96
6.5.1 ShadowImage のローカルレプリカオプションを変更する.....	96
6.5.2 システムおよびデバイスの保守中の ShadowImage ペア操作.....	97
(1) ShadowImage システムの物理デバイスおよび論理デバイスの保守.....	97
6.6 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する.....	97
6.6.1 ShadowImage ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する.....	98
6.6.2 プログラムプロダクトを連携した状態で DP-VOL の容量を拡張する.....	100
(1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方.....	101
6.6.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング.....	102
(1) ShadowImage ペアの一部のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順.....	102
(2) ShadowImage ペアの一部のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ.....	103

7.ShadowImage のトラブルシューティング	105
7.1 ShadowImage のペアに対する操作と表示に関するトラブルシューティング	106
7.2 ShadowImage のボリュームにピントラックがあるときのトラブルシューティング	106
7.3 ShadowImage のコピー処理時間が長いときのトラブルシューティング	106
7.4 RAID Manager のエラーログからエラーコードを特定する	107
7.5 RAID Manager のトラブルシューティング（エラーコード一覧）	108
7.6 コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用するときのトラブルシューティング	118
7.7 お問い合わせ先	119
付録 A RAID Manager コマンドリファレンス	121
A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表	122
A.1.1 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド（ペア操作）	122
A.1.2 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド（コンシステンシーグループ操作）	123
A.1.3 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド（その他の操作）	124
A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲	124
付録 B ShadowImage GUI リファレンス	125
B.1 [レプリケーション] 画面	126
B.2 [ローカルレプリケーション] 画面	129
B.3 [ペアプロパティ参照] 画面	139
B.4 [ペアー致率参照] 画面	144
B.5 [操作履歴] 画面	147
B.6 [コンシステンシーグループプロパティ] 画面	150
B.7 SI ペア作成ウィザード	153
B.7.1 [ペア構成選択] 画面	153
B.7.2 [プライマリボリューム選択] 画面	155
B.7.3 [セカンダリボリューム選択] 画面	159
B.7.4 [設定確認] 画面	165
B.8 ペア分割ウィザード	167
B.8.1 [ペア分割] 画面	168
B.8.2 [設定確認] 画面	170
B.9 ペア再同期ウィザード	171
B.9.1 [ペア再同期] 画面	172
B.9.2 [設定確認] 画面	174
B.10 [ペア中断] 画面	176
B.11 [ペア削除] 画面	177
B.12 [ミラーユニット編集] 画面	178
B.13 [オプション変更] 画面	179
B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード	179
B.14.1 [ローカルレプリカオプション編集] 画面	180
B.14.2 [設定確認] 画面	186
付録 C このマニュアルの参考情報	187
C.1 操作対象リソースについて	188
C.2 マニュアルで使用する用語について	188

C.3 このマニュアルでの表記.....	188
C.4 このマニュアルで使用している略語.....	188
C.5 KB（キロバイト）などの単位表記について.....	189
用語解説.....	191
索引.....	207



はじめに

このマニュアルは、Hitachi Virtual Storage Platform G1000, G1500 および Hitachi Virtual Storage Platform F1500（以下、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 と略します）用の『ShadowImage ユーザガイド』です。このマニュアルでは、ShadowImage の概要と操作について説明しています。

- 対象ストレージシステム
- マニュアルの参照と適合プログラムバージョン
- 対象読者
- マニュアルで使用する記号について
- マニュアルに掲載されている画面図について
- 変更履歴

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示す VSP G1000, G1500 および VSP F1500 のストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

VSP G1000

- ・ A-65AD
- ・ H-65AD

VSP G1500 および VSP F1500

- ・ A-65AE
- ・ H-65AE

このマニュアルでは特に断りのない限り、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 のストレージシステムを単に「ストレージシステム」と称することがあります。

マニュアルの参照と適合プログラムバージョン

マニュアルを参照されるときは、ご使用の「DKCMAIN」プログラムと同じ梱包内のプログラムプロダクト用のメディアに添付されているマニュアルを使用してください。このマニュアルは、DKCMAIN プログラムのバージョン「80-06-9X-XX/XX」以降（XX は規定外）に適合しています。

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ・ ストレージシステムを運用管理する方
- ・ UNIX®コンピュータまたは Windows®コンピュータを使い慣れている方
- ・ Web ブラウザを使い慣れている方

使用する OS および Web ブラウザの種類については、『Hitachi Device Manager・Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。



注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

マニュアルに掲載されている画面図について

このマニュアルに掲載されている画面図はサンプルであり、実際に表示される画面と若干異なる場合があります。また画面に表示される項目名はご利用環境により異なる場合があります。

このマニュアルでは、Windows コンピュータ上の画面を掲載しています。UNIX コンピュータ上でご使用の Storage Navigator の画面は、マニュアルに掲載されている画面の表示と異なる場合があります。Storage Navigator の画面や基本操作に関する注意事項については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

変更履歴

版番号	発行年月	変更内容
初版	2014 年 3 月	新規（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-01-2X-XX/XX」以降）
第 2 版	2014 年 7 月	初版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-01-4X-XX/XX」以降）
第 3 版	2014 年 9 月	第 2 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-02-0X-XX/XX」以降）
第 4 版	2015 年 1 月	第 3 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-02-2X-XX/XX」以降）
第 5 版	2015 年 4 月	第 4 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-02-4X-XX/XX」以降）
第 6 版	2015 年 7 月	第 5 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-03-0X-XX/XX」以降）
第 7 版	2015 年 10 月	第 6 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-03-3X-XX/XX」以降）
第 8 版	2016 年 1 月	第 7 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-04-0X-XX/XX」以降）
第 9 版	2016 年 4 月	第 8 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-04-2X-XX/XX」以降）
第 10 版	2016 年 5 月	第 9 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-04-2X-XX/XX」以降）
第 11 版	2016 年 8 月	第 10 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-04-2X-XX/XX」以降）
第 12 版	2016 年 9 月	第 11 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-05-0X-XX/XX」以降）
第 13 版	2016 年 11 月	第 12 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-05-0X-XX/XX」以降）
第 14 版	2017 年 2 月	第 13 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-05-2X-XX/XX」以降）
第 15 版	2017 年 4 月	第 14 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-05-4X-XX/XX」以降）

版番号	発行年月	変更内容
第 16 版	2017 年 6 月	第 15 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-05-4X-XX/XX」以降）
第 17 版	2017 年 11 月	第 16 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-0X-XX/XX」以降）
第 18 版	2017 年 12 月	第 17 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-0X-XX/XX」以降）
第 19 版	2018 年 2 月	第 18 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-2X-XX/XX」以降）
第 20 版	2018 年 5 月	第 19 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-4X-XX/XX」以降）
第 21 版	2018 年 9 月	第 20 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-4X-XX/XX」以降）
第 22 版	2018 年 9 月	第 21 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-6X-XX/XX」以降）
第 23 版	2018 年 11 月	第 22 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-6X-XX/XX」以降）
第 24 版	2019 年 6 月	第 23 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-6X-XX/XX」以降）
第 25 版	2019 年 9 月	第 24 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-7X-XX/XX」以降）
第 26 版	2019 年 12 月	第 25 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-7X-XX/XX」以降）
第 27 版	2020 年 4 月	第 26 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-7X-XX/XX」以降）
第 28 版	2020 年 4 月	第 27 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-7X-XX/XX」以降）
第 29 版	2020 年 9 月	第 28 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-8X-XX/XX」以降）
第 30 版	2021 年 5 月	第 29 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-8X-XX/XX」以降）
第 31 版	2021 年 10 月	第 30 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-8X-XX/XX」以降）
第 32 版	2022 年 5 月	第 31 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-9X-XX/XX」以降）
第 33 版	2022 年 12 月	第 32 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-9X-XX/XX」以降）
第 34 版	2023 年 3 月	第 33 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-9X-XX/XX」以降）
第 35 版	2023 年 6 月	第 34 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-9X-XX/XX」以降）
第 36 版	2023 年 10 月	第 35 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-9X-XX/XX」以降）
第 37 版	2024 年 7 月	第 36 版を改訂（適合 DKCMAIN プログラムバージョン：「80-06-9X-XX/XX」以降）

版番号	発行年月	変更内容
第 38 版	2024 年 11 月	• コンシステンシーグループ指定のペア分割機能を使った、ShadowImage ペアの分割操作が可能な TrueCopy または Universal Replicator のペア状態について、記載を追加した (3.6 ShadowImage と TrueCopy の併用、3.7 ShadowImage と Universal Replicator の併用、5.5.1 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能とはを参照)。 • DP-VOL の容量を拡張の前提条件とメモを修正した (6.6.1 ShadowImage ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張するを参照)。 第 37 版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-06-9X-XX/XX」以降)

ShadowImage の概要

ShadowImage は、内部ミラーリング技術を使用してストレージシステム内の任意のボリュームをコピーし、維持します。

- 1.1 ShadowImage とは
- 1.2 ShadowImage の利用法
- 1.3 ShadowImage の構成要素
- 1.4 ShadowImage ペアの作成と更新コピーとは
- 1.5 プログラムプロダクト名の略称について

1.1 ShadowImage とは

ShadowImage を使用することで、同じストレージシステムにあるデータボリュームの複製ボリュームを作成できます。また、複数の複製ボリュームを作成できます。

1.2 ShadowImage の利用法

次のようにボリュームを指定して、新規に ShadowImage ペアを作成すると、初期コピーを実行します。

- コピー元のボリュームを選択します。これが、プライマリボリュームになります。
- コピー先のボリュームを選択します。これが、セカンダリボリュームになります。

初期コピー中には、プライマリボリュームは、読み取りや書き込みが可能な状態となっています。初期コピーが完了したあと、プライマリボリュームに書き込まれた内容を定期的にセカンダリボリュームにコピーします。

ShadowImage ペアは、ペアの分割指示を受け取るまでペアの状態を保ちます。ペアが分割すると、プライマリボリュームは更新されますが、セカンダリボリュームは分割した時点でのプライマリボリュームの内容を保証します。

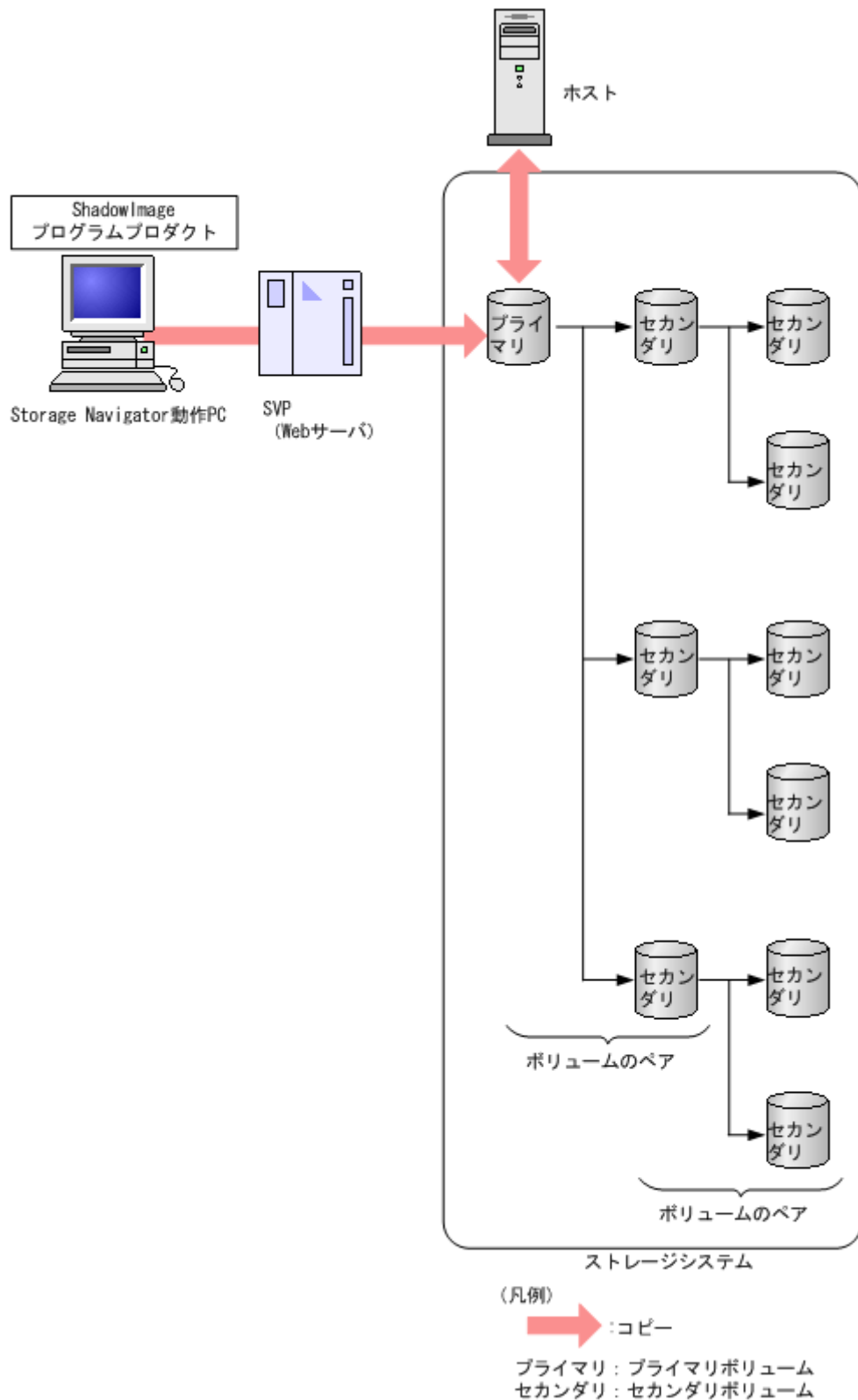
- 分割後のセカンダリボリュームに対して、ホスト側のアプリケーションによる読み取りや書き込みなどのアクセスができます。
- プライマリボリュームとセカンダリボリュームの更新データは差分ビットマップで管理します。
- 用途に応じて、プライマリボリュームからセカンダリボリューム、またはセカンダリボリュームからプライマリボリュームへの再同期を実施することで、更新データをコピーし、再びペアを作成できます。

1.3 ShadowImage の構成要素

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 で使用する代表的な環境は、ストレージシステムと接続したホスト、ShadowImage ソフトウェア、プライマリボリューム、1 個または複数のセカンダリボリューム、および ShadowImage 操作用のインタフェースツールです。

インタフェースツールには、Storage Navigator のグラフィカルユーザインタフェース (GUI)、RAID Manager のコマンドがあります。

2 つの階層のペアを持つ ShadowImage 環境を、次の図に示します。



関連概念

- [1.3.1 ShadowImage のペアボリューム（プライマリボリュームとセカンダリボリューム）とは](#)
- [1.3.2 Storage Navigator の GUI](#)
- [1.3.3 RAID Manager からの ShadowImage ペア操作とコンシステンシーグループ作成とは](#)

1.3.1 ShadowImage のペアボリューム（プライマリボリュームとセカンダリボリューム）とは

1 個のペアは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームから構成されます。各プライマリボリュームは、3 個までのセカンダリボリュームとペアを作成できます。したがって、1 個のプライマリボリュームで 3 個のペアを作成できます。

ShadowImage 操作中は一部のペア状態を除いて、ホストからプライマリボリュームに対してアクセスできます。PAIR 状態では、プライマリボリュームに対する更新データを受け取ると、新しいデータを差分ビットマップに保存し、定期的にセカンダリボリュームにコピーします。ただし、セカンダリボリュームは、非同期に更新されるため、プライマリボリュームとセカンダリボリュームとは一致しません。セカンダリボリュームは、ペアを分割、または解除したあとにホストからアクセスできます。

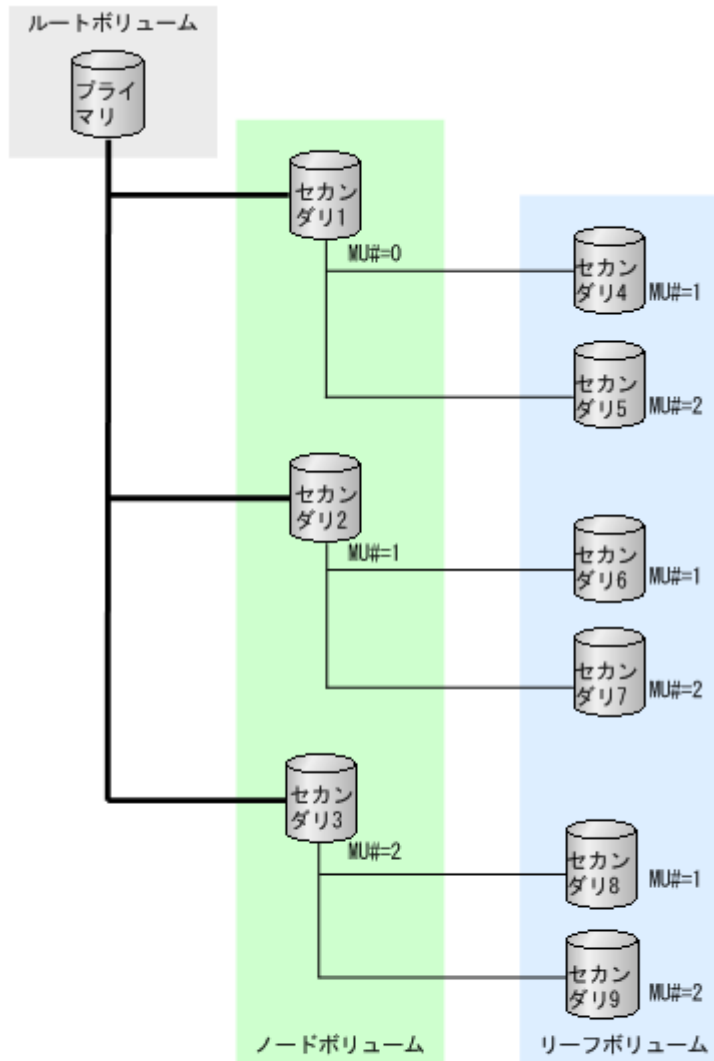
関連概念

- [1.3 ShadowImage の構成要素](#)
- (1) [ShadowImage のカスケードペアとは](#)

(1) ShadowImage のカスケードペアとは

ShadowImage のセカンダリボリュームはそれぞれ第 2 階層のセカンダリボリュームともペアを作成できます。第 1 階層 (L1) のセカンダリボリュームは、第 2 階層 (L2) の 2 個のセカンダリボリュームともペアを作成できます。したがって、1 個のプライマリボリュームに対して最大 9 個までのセカンダリボリュームを使用できます。

L2 ペアをカスケードペアと呼びます。カスケードペアの構造を、次の図に示します。



(凡例)

プライマリ : プライマリボリューム
 セカンダリ : セカンダリボリューム
 — : L1ペア
 — : L2ペア
 MU : Mirror Unit

- L1 ペアのプライマリボリュームは、ルートボリュームです。
- L1 ペアのセカンダリボリュームは、ノードボリュームです。
- L2 ペアのプライマリボリュームは、L1 のセカンダリボリュームであり、ノードボリュームです。
- L2 ペアのセカンダリボリュームは、リーフボリュームです。

ShadowImage のカスケードペアに使用されているボリュームは、TrueCopy のペアボリュームとしても使用できます。TrueCopy 側からはノードボリュームかリーフボリュームかを区別せずに、どちらも ShadowImage ペアのセカンダリボリュームとして扱います。

関連概念

- [1.3.1 ShadowImage のペアボリューム（プライマリボリュームとセカンダリボリューム）](#) とは

1.3.2 Storage Navigator の GUI

Storage Navigator から GUI を使用して、あらかじめ設定した TCP/IP 接続を経由してストレージシステムのサービスプロセッサ (SVP) と通信します。Storage Navigator はシステムに LAN 接続しています。

この GUI で、ShadowImage のペア操作が実行できます。

関連概念

- [1.3 ShadowImage の構成要素](#)

1.3.3 RAID Manager からの ShadowImage ペア操作とコンシステンシーグループ作成とは

RAID Manager は、Storage Navigator とほぼ同じ操作を実行でき、コマンドラインインタフェースを使用します。ペア操作コマンドはホストから直接発行します。RAID Manager からスクリプトを使用して、ShadowImage ペア操作を自動的に実行することもできます。

RAID Manager を使用して、コンシステンシーグループとして複数の ShadowImage ペアを指定できます。コンシステンシーグループを使って、複数のペアを一度に作成できます。また、グループ内の全ペアのペア状態を同時に遷移させることもできます。

RAID Manager でコンシステンシーグループを使用する場合は、コンシステンシーグループを予約する必要はありません。

関連概念

- [1.3 ShadowImage の構成要素](#)

1.4 ShadowImage ペアの作成と更新コピーとは

ShadowImage ペアを作成した場合、ストレージシステムは初期コピーを実行します。初期コピーの完了後、ストレージシステムは非同期にプライマリボリュームの更新データをセカンダリボリュームにコピーします。これを更新コピーと呼びます。

関連概念

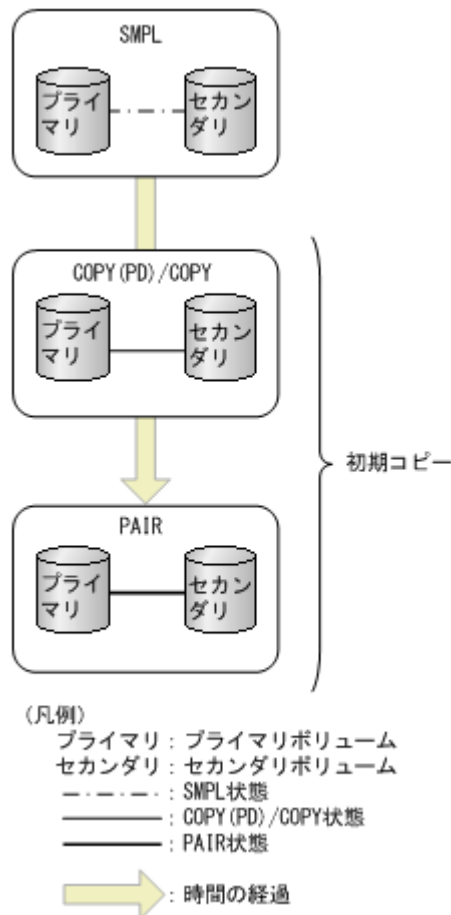
- [1.4.1 ShadowImage ペアの作成から初期コピー完了までの流れとペアの状態](#)
- [1.4.2 ShadowImage の更新コピーとペアの状態](#)

1.4.1 ShadowImage ペアの作成から初期コピー完了までの流れとペアの状態

ペアを作成すると、ストレージシステムは初期コピーを開始し、プライマリボリュームのすべてのデータをセカンダリボリュームにコピーします。

- ペア作成の前は、ペアの状態は SMPL (単一ボリューム) です。
- ペア作成のあとは、ペアの状態は COPY(PD)/COPY になります。
- 初期コピーが完了すると、ペアの状態は PAIR になります。

ペアの作成の流れとペアの状態を次の図に示します。



プライマリボリュームは、初期コピー中でもホストからの更新を受け付けます。ストレージシステムはプライマリボリュームの更新データを非同期でセカンダリボリュームにコピーします。

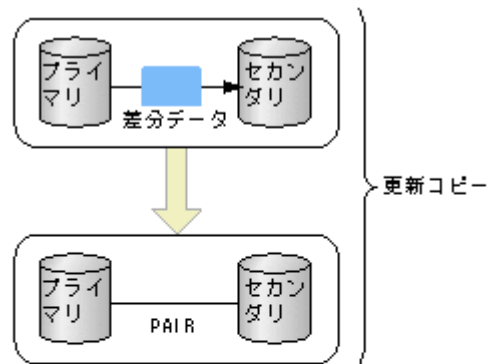
関連概念

- [1.4 ShadowImage ペアの作成と更新コピーとは](#)

1.4.2 ShadowImage の更新コピーとペアの状態

プライマリボリュームの更新データは、差分ビットマップとして保存されます。更新コピーは、ストレージシステムが非同期に実行します。更新コピーは、蓄積した差分ビットマップの量と前回更新したときからの経過時間などを基に実行されます。

更新コピーとペアの状態を次の図に示します。



(凡例)
 プライマリ：プライマリボリューム
 セカンダリ：セカンダリボリューム
 — : PAIR状態
 → : 時間の経過

更新データのコピーを非同期にしているため、初期コピーが完了し、ペアの状態が **PAIR** に変わっても、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容が一致しないことがあります。特定のタイミングでプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータを一致させたい場合は、ペアを分割する必要があります。



注意

コピー中にホストからプライマリボリュームへの書き込みがなかった場合も、プライマリボリュームのデータとセカンダリボリュームのデータが一致しないことがあります。プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータを確実に一致させるためには、ペアを分割して、**PSUS** 状態にする必要があります。

関連概念

- [1.4 ShadowImage ペアの作成と更新コピーとは](#)

1.5 プログラムプロダクト名の略称について

このマニュアルでは、プログラムプロダクト名について、次に示す略称を用いる場合があります。

- **FCSE** : Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE の略称です。
- **FCv2** : Compatible FlashCopy® V2 の略称です。
- **GAD** : global-active device の略称です。
- **SI** : ShadowImage の略称です。
- **SIMF (SI-MF)** : ShadowImage for Mainframe の略称です。
- **TC** : TrueCopy の略称です。
- **TCMF (TC-MF)** : TrueCopy for Mainframe の略称です。
- **TI** : Thin Image の略称です。
- **UR** : Universal Replicator の略称です。
- **URMF (UR-MF)** : Universal Replicator for Mainframe の略称です。

ShadowImage のシステム要件と運用計画

システム要件と ShadowImage システムを計画するにあたっての推奨事項について説明します。

- 2.1 ShadowImage のシステム要件の概要
- 2.2 ShadowImage のライセンス容量の要件
- 2.3 ShadowImage ペアボリューム作成の計画
- 2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計
- 2.5 ShadowImage のシステムオプション
- 2.6 Thin Image と ShadowImage の特性の違いおよび使い分け

2.1 ShadowImage のシステム要件の概要

ShadowImage に必要なシステム要件を次の表に示します。

項目	要件
ShadowImage ライセンス容量	購入したライセンス容量を使用できます。 2.2 ShadowImage のライセンス容量の要件 を参照してください。
ライセンスキー	詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。
RAID レベル	RAID 1、RAID 5、RAID 6
RAID Manager	RAID Manager のコマンドを In-Band 方式で実行する場合は、コマンドデバイスが必要です。Out-of-Band 方式で実行する場合は、コマンドデバイスは不要です。詳細については、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。
ペアボリューム	- セカンダリボリュームごとのプライマリボリュームの数：1 個 - プライマリボリュームごとのセカンダリボリュームの数：1～3 個 L1 ペアでは、各プライマリボリュームには最大 3 個のセカンダリボリューム。 L2 ペアでは、各プライマリボリュームには最大 2 個のセカンダリボリューム。 ペアの階層についての情報は、(1) ShadowImage のカスケードペアとはを参照してください。 - ボリューム容量：プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量は同じである必要があります。 [論理デバイス] 画面の [オプション] で [容量単位] を [block] にして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が同じであることを確認してください。[容量単位] を [GB] などのバイト単位で表示すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量に僅かな差があった場合に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量の差異が表れないことがあります。 - プライマリボリュームとセカンダリボリュームの最大サイズは、システムで作成できるボリュームの最大サイズと同じです。詳細は、『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。 - サポートするエミュレーションタイプ：SMPL の場合と同等です。プライマリボリュームとセカンダリボリュームのエミュレーションタイプは同じである必要があります。 - サポートするボリュームの種類は、以下のとおりです。 - 内蔵ディスクを使用した内部ボリューム。 - Universal Volume Manager で設定した外部ボリューム（Universal Volume Manager のライセンスが必要です）。 - VLL を使用して作成した可変ボリューム（CV）（ペアボリュームは同じ容量で同じエミュレーションタイプである必要があります）。 - MU 番号（ミラーユニット番号）：L1 ペアに対しては、0、1、または 2 を使用します。L2 ペアに対しては、1 または 2 を使用します。 - 他のプログラムプロダクトとの共有ボリュームをサポートします。詳細は 3 ShadowImage と他のプログラムプロダクトとの併用を参照してください。 - 次のボリュームはペアボリュームとして使用できません。 - Universal Replicator ジャーナルボリューム - 仮想ボリューム（Dynamic Provisioning ボリュームを除く） - プールボリューム - 容量拡張設定が有効なパリティグループに属するボリューム

項目	要件
	- 重複排除用システムデータボリューム - プライマリボリュームの T10 PI 属性とセカンダリボリュームの T10 PI 属性は、同じ値を設定する必要があります。 - ShadowImage のペアボリュームを作成する前に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に対して、LU パスを設定しておく必要があります。またペアボリュームとして使用している間は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に、LU パスを 1 本以上設定しておく必要があります。
最大ペア数	ストレージシステムの最大作成可能ペア数は 32,768 ペアです（1 個のプライマリボリュームに対して 1 個のセカンダリボリューム）。実際の個数は、追加共用メモリの量に基づきます。詳細については 2.3.1 作成できる ShadowImage ペア数の計算方法 を参照してください。
コンシステンシーグループ	- ストレージシステムに設定できるコンシステンシーグループの数は、ShadowImage、ShadowImage for Mainframe、および Thin Image のコンシステンシーグループを含めて最大で 2,048 個です。ShadowImage、ShadowImage for Mainframe のコンシステンシーグループは最大で 128 個です。ShadowImage ペア、ShadowImage for Mainframe ペア、および Thin Image ペアは同じコンシステンシーグループの中には共存できません。 - コンシステンシーグループには、最大で 8,192 個の ShadowImage ペアを定義できます。 - 各コンシステンシーグループには 0～7FF の番号が割り当てられます。コンシステンシーグループ ID の 00～7F(0～127)までは ShadowImage、ShadowImage for Mainframe、および Thin Image が共有して使用できます。コンシステンシーグループ ID の 80～7FF(128～2047)からは Thin Image 専用です。

2.2 ShadowImage のライセンス容量の要件

ShadowImage ボリュームの合計容量は、購入したライセンス容量の合計より少なくなければなりません。

運用開始後も、ShadowImage ボリュームの合計サイズが購入したライセンス容量を超えないように維持していく必要があります。

- ライセンス容量には、ShadowImage プライマリボリューム、およびセカンダリボリュームを含んでいます。これらのボリュームの合計容量が購入したライセンス容量以下でなければなりません。
- 複数の目的で使用するボリュームの容量は一度だけ計算します。使用する目的の数に応じて容量を加算する必要はありません。
- 利用可能なライセンス容量を超過するペア作成はできません。
- Dynamic Provisioning ボリュームを ShadowImage プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして使用するとき、ボリュームに割り当て済みの Dynamic Provisioning プールの容量が ShadowImage ライセンス容量の対象になります。ただし、容量削減機能が有効なボリュームの場合は、削減前のデータ容量が ShadowImage ライセンス容量の対象です。Dynamic Provisioning ボリュームのライセンス容量はリアルタイムに更新しません。したがって、プールに対して複数のデータの書き込み要求を実施することで、ShadowImage のライセンス容量が、購入したライセンス容量を超えてしまうことがあります。

- ShadowImage ボリュームがライセンス容量を超えた場合、通常ボリューム、Dynamic Provisioning ボリュームのどちらを使用するかに関わらず、その後 30 日間は使用できます。30 日間を超えたあとは、ペア削除以外の操作ができなくなります。容量をライセンス容量内に戻すことで、容量超過の状態を解消することができます。ただし、警告メッセージの表示はすぐには消えません。容量超過の表示は一日一回更新のため、容量超過を解消していれば 24 時間以内に表示は自動的に消えます。

ShadowImage の使用容量として計算されるボリュームと容量を、次の表に示します。これらを合計した容量が、購入した ShadowImage ライセンス容量より少なくなければなりません。

加算対象のボリューム			加算対象の容量
プログラムプロダクト	ボリュームの種類	通常 VOL ^{※1} または DP-VOL ^{※2}	
ShadowImage	プライマリボリューム	通常 VOL ^{※1}	ボリュームの容量
		DP-VOL ^{※2}	ボリュームが使用しているプールの容量
	セカンダリボリューム	通常 VOL ^{※1}	ボリュームの容量
		DP-VOL ^{※2}	ボリュームが使用しているプールの容量

注※1

通常 VOL : Dynamic Provisioning のボリュームとして指定していない内部ボリュームまたは外部ボリュームを指します。なお、外部ボリュームとは、Universal Volume Manager によって外部ストレージシステムのボリュームをマッピングした内部ボリュームのことです。

注※2

DP-VOL : Dynamic Provisioning、Dynamic Tiering、または active flash で使用する仮想ボリュームのことです。

2.3 ShadowImage ペアボリューム作成の計画

ShadowImage のプライマリボリューム用、セカンダリボリューム用のボリュームは、ShadowImage ペアを作成する前に作成しなければなりません。また、次に示すオプションを使用できます。

- RAID Manager を使用する場合は、ペアのグループをコンシステンシーグループに対応付けることができます。コンシステンシーグループを使用すると、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使いながら、グループ内の全ペアに対してペア操作を実行できます。コンシステンシーグループの設定とペア操作の実行についての情報は、『RAID Manager ユーザガイド』および『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

関連概念

- [2.3.1 作成できる ShadowImage ペア数の計算方法](#)

関連タスク

- [5.3 ShadowImage ペアを作成する](#)

関連参照

- [2.3.2 ShadowImage 用ボリュームの準備](#)

2.3.1 作成できる ShadowImage ペア数の計算方法

1 個の ShadowImage ペアに対するシステムリソースの数の計算方法を説明します。作成できるペアの最大数を計算できます。

ShadowImage ペアを作成する場合、差分テーブルとペアテーブルが必要となります。作成するすべてのペアを扱うために必要な数の差分テーブルとペアテーブルが利用できなければなりません。

現在のシステム内にある差分テーブル、およびペアテーブルの数は、搭載した増設共用メモリによって決まります。したがって、ペア数を扱うために必要な増設共用メモリを搭載する必要があります。

増設共用メモリに応じて許可する差分テーブルおよびペアテーブル、およびボリュームの数を次の表に示します。ペアの最大数は、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが 1 対 1 の関係のとき、表で示す数の半分になります。

例えば、増設共用メモリがない状態では、システムボリューム数は 16,384 で、作成できるペア数は半分の 8,192 になります。この例は、1 つのプライマリボリュームに対して 1 つのセカンダリボリュームでペアを作成した場合の値です。もし、1 つのプライマリボリュームに対して複数のセカンダリボリュームでペアを作成する場合は、作成できるペア数は、少なくなります。

64KLDEV/SI/VM Extension/TPF/iSCSI/dedupe and compression の増設共用メモリがある場合は、ペアの最大数は 32,768 です。

ShadowImage への増設共用メモリ	差分テーブル数	ペアテーブル数	システムボリューム数
Base(16KLDEV/SI/VM/DP/TI/FC) (増設共用メモリなし)	57,600	8,192	16,384
64KLDEV/SI/VM Extension/TPF/ iSCSI/dedupe and compression	419,200	32,768	65,536

ShadowImage ペアを作成するのに必要なシステムの差分テーブル数とペアテーブル数を計算することで、システムで作成できるペアの最大数を決定できます。この数は、ストレージシステム内の差分テーブルおよびペアテーブルの合計数から他のプログラムプロダクトで使用するテーブル数を引いた数以下でなければなりません。

次のプログラムプロダクトも、差分テーブルを使用します。

- ShadowImage for Mainframe
- Volume Migration※

注※

ホストからドライブ（以降、ハードディスクドライブ、SSD および FMD を指します）へのアクセス性能をチューニングして最適化したり、ボリュームを移動したりするプログラムプロダクトです。

次のプログラムプロダクトもペアテーブルを使用します。

- ShadowImage for Mainframe
- Volume Migration（移動プランの適用時）

ShadowImage ペア作成時に必要な差分テーブル数を確認するために、RAID Manager の inqraid コマンドを使用できます。このコマンドは、ストレージシステムで使用していない差分テーブル数

を確認することもできます inqraid コマンドの詳細については『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- [2.3 ShadowImage ペアボリューム作成の計画](#)

関連参照

- (1) 1 ペアあたりに必要な差分テーブル数とペアテーブル数を計算する
- (2) 最大ペア数を計算する

(1) 1 ペアあたりに必要な差分テーブル数とペアテーブル数を計算する

ボリュームのエミュレーションタイプは差分テーブル数とペアテーブル数に影響します。

OPEN-V 以外のときの差分テーブル数およびペアテーブル数を計算する

ペアごとの合計差分テーブル数 = (ボリューム容量 KB ÷ 48 + 管理領域容量 (シリンダ数) ※1 × 15) ÷ (20,448 ※2)

注※1

『オープンシステム構築ガイド』にある、エミュレーションタイプごとの CV 容量 (オープンシステム) の表を参照

注※2

1 つの差分テーブルで管理できるスロット数

総合計数をいちばん近い整数に切り上げます。例えば、分割したボリュームの容量が 2,403,360 KB の場合、差分テーブルの総合数の計算は次のようになります。

$(2,403,360 \div 48 + 8 \times 15) \div 20,448 = 2.4545\dots$

2.4545 をいちばん近い整数に切り上げると、3 となります。この例では、1 つのペアに対する差分テーブルの合計数は 3 です。1 つのペアテーブルは 36 までの差分テーブルで使用するから、この例での、1 個のペアに対するペアテーブルの総合計数は 1 です (ペアに割り当てられたペアテーブルは、該当するペアが削除されるまで他のペアで使用できません)。

OPEN-V のときの差分テーブル数およびペアテーブル数を計算する

DP-VOL が 4TB を超える場合、共用メモリではなく階層メモリという領域に差分テーブルを配置するため、共用メモリの差分テーブルを使用しません。このため、4TB を超える DP-VOL については差分テーブル数の計算は不要です。

ペアごとの合計差分テーブル数 = (ボリューム容量 KB ÷ 256) ÷ 20,448 ※

注※

1 つの差分テーブルで管理できるスロット数

合計数をいちばん近い整数に切り上げます。例えば、分割したボリュームの容量が 3,019,898,880 KB の場合、差分テーブルの合計数は次のようになります。

$(3,019,898,880 \div 256) \div 20,448 = 576.9014\dots$

576.9014 をいちばん近い整数に切り上げると、数値は 577 となります。この例では、1 ペア当たりの差分テーブルの合計数は 577 です。1 つのペアテーブルは 36 までの差分テーブルに使用するため、1 ペア当たりのペアテーブルの合計は 17 となります（OPEN-V だけが 1 つのペアに対して 1 つ以上のペアテーブルを使用できます。ただし、ペアに割り当てられたペアテーブルは、該当するペアが削除されるまで他のペアで使用できません）。

ストレージシステムのペアごとに必要な差分テーブル数、およびペアテーブル数を決定したら、最大ペア数を計算します。

関連概念

- [2.3.1 作成できる ShadowImage ペア数の計算方法](#)

(2) 最大ペア数を計算する

ストレージシステムで作成できる最大ペア数を計算する

次の計算式を使用して計算します。

$$\Sigma \{(\alpha) \times (\text{ShadowImage ペアの数})\} \leq (\beta) \text{ および}$$

$$\Sigma \{(\gamma) \times (\text{ShadowImage ペアの数})\} \leq (\delta)$$

- (α) : (前回の計算で) 1 ペアあたりに必要な差分テーブル数。
- (β) : システム内で利用可能な差分テーブル数。
- (γ) : (前回の計算で) 1 ペアあたりに必要なペアテーブル数。
- (δ) : システム内で利用可能なペアテーブル数。

例えば、差分テーブル数が 57,600 のストレージシステム内で、OPEN-3 ボリュームのペアを 10 ペア、OPEN-V ボリュームのペアを 20 ペア作成する場合、次のような計算になります。

エミュレーションタイプが OPEN-3 のとき、ボリュームの容量は 2,403,360 KB で、1 つのペアに必要な差分テーブル数は 3 となり、1 つのペアに必要なペアテーブル数は 1 です。

エミュレーションタイプが OPEN-V の場合、ボリュームの容量が 3,019,898,880 KB で、1 つのペアに対する差分テーブル数は 577 となり、1 つのペアに必要なペアテーブル数は 17 となります。これらの数値を方程式に当てはめると、次のようになります。

$$3 \times 10 + 577 \times 20 = 11,570 \leq 57,600 \text{ がかつ}$$

$$1 \times 10 + 17 \times 20 = 350 \leq 8192$$

したがって、OPEN-3 の 10 ペアと OPEN V の 20 ペアは作成できます。

関連概念

- [2.3.1 作成できる ShadowImage ペア数の計算方法](#)

2.3.2 ShadowImage 用ボリュームの準備

ペア作成前に、ShadowImage 用のボリュームを準備しておく必要があります。ボリュームの準備に必要なボリューム情報の例を次の表に示します。

CU	ポート	GID:L UN	ペアボリューム タイプ	対応 L1 セ カンダリボ リューム	対応 L1 プ ライマリボ リューム	対応 L2 セカンダ リボリューム	対応 L2 プラ イマリボリ ューム
0	1A	0:00	L1 プライマ リボリューム	1B-0:00, 2A-0:00, 2B-0:00	適用してい ない	適用してい ない	適用してい ない
0	1A	0:01	L1 プライマ リボリューム	1B-0:01, 2A-0:01, 2B-0:01	適用してい ない	適用してい ない	適用してい ない
0	1B	0:00	L1 セカンダ リボリュー ム L2 プライマ リボリュー ム	適用してい ない	1A-0:00	3A-0:00, 3A-0:01	適用してい ない
0	1B	0:01	L1 セカンダ リボリュー ム L2 プライマ リボリュー ム	適用してい ない	1A-0:00	3B-0:00, 3B-0:01	適用してい ない
0	2A	0:00	L1 セカンダ リボリュー ム L2 プライマ リボリュー ム	適用してい ない	1A-0:00	4A-0:00, 3B-0:01	適用してい ない
0	2A	0:01	L1 セカンダ リボリュー ム L2 プライマ リボリュー ム	適用してい ない	1A-0:00	4B-0:00, 3B-0:01	適用してい ない
0	3A	0:00	L2 セカンダ リボリュー ム	適用してい ない	適用してい ない	適用してい ない	1B-0:00
0	3A	0:01	L2 セカンダ リボリュー ム	適用してい ない	適用してい ない	適用してい ない	1B-0:00

関連概念

- [2.3 ShadowImage ペアボリューム作成の計画](#)

2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計

ペア操作は、ストレージシステムへの I/O 性能に影響を与えます。システムを運用設計する場合に役立つ情報を次に示します。

関連概念

- [2.4.1 ペア数とコピー速度（データコピー率）が性能に与える影響](#)
- [2.4.2 パリティグループの負荷分散とは](#)
- [2.4.3 複数のプログラムプロダクトを同時に使用する場合の注意事項](#)
- [2.4.4 AIX ホストサーバを使用する場合の注意事項](#)
- [2.4.5 ShadowImage の Quick Restore による再同期を実施する場合の注意事項](#)

2.4.1 ペア数とコピー速度（データコピー率）が性能に与える影響

ペア数とコピー速度（データコピー率）は性能に大きく影響します。

- 複数のセカンダリボリュームをプライマリボリュームに割り当てると、多くのシステムリソースを使用し、性能が下がります。
- コピー速度が遅くなるほど、I/O 性能に与える影響は軽減し、コピー速度が速くなれば、I/O 性能に与える影響は増加します（作成、分割、再同期の動作中にコピー速度を割り当てます）。

関連概念

- [2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計](#)

2.4.2 パリティグループの負荷分散とは

- パリティグループには、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを均等に分配してください。
- 複数のペア操作を同時に実行する場合は、異なったパリティグループにペアを置いてください。
- コピー速度は、作成時、分割時、再同期時には「低速」に設定してください。
- 同じパリティグループで複数のペアにコピー操作を実行する必要がある場合は、一度に 1 ペアの操作を行ってください。
- システムが過負荷となった場合は、パリティグループ、キャッシュ、チャネルアダプタ（CHA）またはディスクアダプタ（DKA）を増やしてください。新しくインストールしたパリティグループにセカンダリボリュームを割り当ててください。

関連概念

- [2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計](#)

2.4.3 複数のプログラムプロダクトを同時に使用する場合の注意事項

複数のプログラムプロダクトを同時に使用する場合、十分な量のキャッシュを搭載するなどして、ストレージシステムの性能を最適化するようにしてください。詳しくは、お問い合わせください。複数プログラムの同時使用は性能や他のプログラムプロダクトの操作に影響を与えます。

関連概念

- [2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計](#)

2.4.4 AIX ホストサーバを使用する場合の注意事項

プライマリボリュームを 1 つの AIX ホストサーバに接続し、セカンダリボリュームを別の AIX ホストサーバに接続してペアを作成する場合は最適な環境になります。しかし、1 つの AIX ホストサーバをプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方に使用する場合にホストサーバを再起動すると、再起動後にボリュームを誤認識したり、セカンダリボリュームをプライマリボリューム

として認識したりすることがあります。それは、ペア作成またはペア再同期操作で、プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同じ PVID を持っているためです。

関連概念

- [2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計](#)

2.4.5 ShadowImage の Quick Restore による再同期を実施する場合の注意事項

プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを入れ替える Quick Restore 操作中は、2 つのボリュームの RAID レベル、HDD タイプ、および Cache Residency Manager の設定も変わります。性能への影響を防ぐには、次の点を検討してください。

- Quick Restore の実行前に、両ペアボリュームとも同じ RAID レベルと HDD タイプであることを確認します。Quick Restore の実行後に、ペアを分割して再度 Quick Restore を実行することで、元の RAID レベルに戻すことができます。
- Quick Restore の実行前に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの Cache Residency Manager の設定位置を同じにします。
または、Quick Restore の実行前に、Cache Residency Manager の設定を解除し、操作が完了したときに Cache Residency Manager を再設定します。
設定の詳細については、『Performance Manager ユーザガイド(Performance Monitor, Server Priority Manager, Cache Residency Manager)』を参照してください。



注意

プライマリボリュームとセカンダリボリュームが異なる CLPR に属する場合、Quick Restore を実施しないことを推奨します。このような環境で、Quick Restore を実施すると、Quick Restore 終了後にプライマリボリュームとセカンダリボリュームの CLPR が入れ替わります。

関連概念

- [2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計](#)

2.5 ShadowImage のシステムオプション

ShadowImage には保守員が設定するオプションと Storage Navigator または RAID Manager で設定できるオプションがあります。保守員が設定するオプションについては、保守員にご連絡ください。

関連概念

- [2.5.1 保守員が設定するオプション](#)
- [2.5.2 Storage Navigator または RAID Manager で設定できるオプション](#)

2.5.1 保守員が設定するオプション

オプション	説明
コピーしきい値オプション (システムオプションモード 467)	ストレージシステムへの負荷が高いときに、コピー処理を一時的に停止します。ホストサーバの I/O 性能の低下を最小限に抑えます。 作業負荷が掛かる場合だけコピーしきい値オプションが有効になります。コピーしきい値オプションを設定した場合、次のプログラムプロダクトに対して機能が有効になります。

オプション	説明						
	- ShadowImage - ShadowImage for Mainframe - Compatible FlashCopy® V2 - Thin Image - Volume Migration						
ホストサーバからプライマリボリュームへの I/O 時に動作するコピーしきい値オプション (システムオプションモード 789)	ストレージシステムへの負荷が高いときに、ホストサーバからプライマリボリュームへの I/O 時に動作するコピー処理を一時的に停止します。セカンダリボリュームが属する CLPR の各ボリュームへの I/O 性能の低下を最小限に抑えます。 - ON : セカンダリボリュームが属する CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が 70%以上のとき、ホストサーバからプライマリボリュームへの I/O 時に動作するコピー処理を抑止します。ただし、Write ペンディング率が高い場合は、ホストサーバからプライマリボリュームへの I/O 性能が低下する可能性があります。 - OFF (デフォルト) : セカンダリボリュームが属する CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が以下の状態の場合に、プライマリボリュームへの I/O 時に動作するコピー処理を抑止します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>DKCMAIN プログラムバージョン</th><th>コピー処理が抑止される Write ペンディング率のしきい値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80-06-90-XX/XX 未満</td><td> - プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合 : 75%以上 - その他のボリュームの場合 : Write ペンディング率に関わらず、抑止されない </td></tr> <tr> <td>80-06-90-XX/XX 以降</td><td> - プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合 : - ローカルレプリカオプションの HOST I/O 優先モード 1~5 のどれかが有効 : 70%以上 - ローカルレプリカオプションの HOST I/O 優先モード 1~5 のどれも無効 : 75%以上 - その他のボリュームの場合 : 90%以上 </td></tr> </tbody> </table>	DKCMAIN プログラムバージョン	コピー処理が抑止される Write ペンディング率のしきい値	80-06-90-XX/XX 未満	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合 : 75%以上 - その他のボリュームの場合 : Write ペンディング率に関わらず、抑止されない	80-06-90-XX/XX 以降	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合 : - ローカルレプリカオプションの HOST I/O 優先モード 1~5 のどれかが有効 : 70%以上 - ローカルレプリカオプションの HOST I/O 優先モード 1~5 のどれも無効 : 75%以上 - その他のボリュームの場合 : 90%以上
DKCMAIN プログラムバージョン	コピー処理が抑止される Write ペンディング率のしきい値						
80-06-90-XX/XX 未満	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合 : 75%以上 - その他のボリュームの場合 : Write ペンディング率に関わらず、抑止されない						
80-06-90-XX/XX 以降	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合 : - ローカルレプリカオプションの HOST I/O 優先モード 1~5 のどれかが有効 : 70%以上 - ローカルレプリカオプションの HOST I/O 優先モード 1~5 のどれも無効 : 75%以上 - その他のボリュームの場合 : 90%以上						
ホストサーバからセカンダリボリュームへの I/O 時に動作するコピーしきい値オプション (システムオプションモード 790)	ストレージシステムへの負荷が高いときに、ホストサーバからセカンダリボリュームへの I/O 時に動作するコピー処理を一時的に停止します。セカンダリボリュームが属する CLPR の各ボリュームへの I/O 性能の低下を最小限に抑えます。 - ON : セカンダリボリュームが属する CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が 60%以上のとき、ホストサーバからセカンダリボリュームへの I/O 時に動作するコピー処理を抑止します。ただし、Write ペンディング率が高い場合は、ホストサーバからセカンダリボリュームへの I/O 性能が低下する可能性があります。 - OFF (デフォルト) : セカンダリボリュームが属する CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が以下の状態の場合に、セカンダリボリュームへの I/O 時に動作するコピー処理を抑止します。						

オプション	説明						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="746 181 1013 280">DKCMAIN プログラムバージョン</th><th data-bbox="1013 181 1420 280">コピー処理が抑止される Write ペンディング率のしきい値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="746 280 1013 510">80-06-90-XX/XX 未満</td><td data-bbox="1013 280 1420 510"> - プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合：75%以上 - その他のボリュームの場合：Write ペンディング率に関わらず、抑止されない </td></tr> <tr> <td data-bbox="746 510 1013 705">80-06-90-XX/XX 以降</td><td data-bbox="1013 510 1420 705"> - プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合：75%以上 - その他のボリュームの場合：90%以上 </td></tr> </tbody> </table>	DKCMAIN プログラムバージョン	コピー処理が抑止される Write ペンディング率のしきい値	80-06-90-XX/XX 未満	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合：75%以上 - その他のボリュームの場合：Write ペンディング率に関わらず、抑止されない	80-06-90-XX/XX 以降	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合：75%以上 - その他のボリュームの場合：90%以上
DKCMAIN プログラムバージョン	コピー処理が抑止される Write ペンディング率のしきい値						
80-06-90-XX/XX 未満	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合：75%以上 - その他のボリュームの場合：Write ペンディング率に関わらず、抑止されない						
80-06-90-XX/XX 以降	- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが容量削減機能が有効なボリュームの場合：75%以上 - その他のボリュームの場合：90%以上						
容量削減機能用のコピーしきい値オプション（ストレージシステム単位） （システムオプションモード 1254）	容量削減機能が有効なボリュームに対して、ホストサーバの I/O 性能（レスポンス）の低下を防ぎたいときに使用する、容量削減機能用のコピーしきい値オプションです。 このオプションは、ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときに使います。コピー先の CLPR ごとに機能の適用を変えたいときはシステムオプションモード 1260 を使います。 このオプションを使うと、コピー先のボリュームの CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止するかどうかを選択できます。 - ON：コピー先のボリュームの CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 - OFF：コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）の設定に従います。 [注意事項] - コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『オープンシステム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。						
容量削減機能用のコピーしきい値オプション（CLPR 単位） （システムオプションモード 1260）	容量削減機能が有効なボリュームに対して、ホストサーバの I/O 性能（レスポンス）の低下を防ぎたいときに使用する、容量削減機能用のコピーしきい値オプションです。 このオプションは、コピー先の CLPR ごとに機能の適用を変えたいときに使います。ストレージシステム内のすべての CLPR に一律機能を適用したいときはシステムオプションモード 1254 を使います。 このオプションを使うと、コピー先のボリュームの CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止するかどうかを選択できます。 - ON：コピー先のボリュームの CLPR の MP ブレードの Write ペンディング率が 35%以上のとき、バックグラウンドで実行するコピーの動作を抑止し、コピー先のストレージシステムの Write ペンディング率の増加を抑止します。 - OFF：コピーしきい値オプション（システムオプションモード 467）の設定に従います。 [注意事項]						

オプション	説明
	コピーしきい値オプションの適用フローを含む詳細については、『オーブンシステム構築ガイド』のコピーしきい値オプションに関する項目を参照してください。

関連概念

- 2.5 ShadowImage のシステムオプション

関連参照

- 付録 B.14.1 [ローカルレプリカオプション編集] 画面

2.5.2 Storage Navigator または RAID Manager で設定できるオプション

番号	オプション	説明											
#1	Swap&Freeze オプション	ShadowImage の Quick Restore 直後のデータをそのままの状態状態で保存したいときに使用します。このオプションを有効にして Quick Restore を実行すると、Quick Restore を実行したあとの更新コピーが抑止され、PAIR 状態になったペアのセカンダリボリュームが更新されないでそのままの状態状態で保存されます。											
#2	Host I/O Performance オプション	ボリュームのコピー時間よりもホスト I/O のレスポンスを重視したい場合に使用します。このオプションを有効にすると、ShadowImage コピー処理の実行が抑えられ、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。Host I/O Performance オプションは作業負荷に関係なく、いつでもコピー処理を抑止します。											
#9-13	HOST I/O 優先度モード 1~5 オプション	ShadowImage のコピー処理を伴うホスト I/O に対して、Write ペンディング率が下がらず、オプションで指定した時間内にホスト I/O が完了しない場合に、ShadowImage のコピー処理を失敗させ、ホスト I/O を優先します。コピー処理が失敗した後の再同期は全コピーになります。 [注意事項] コピー失敗までの時間について、構成によって次の差異があります。 - ShadowImage 単体 1~31 秒の範囲で設定できます。 - 他プログラムプロダクトと ShadowImage のプライマリボリュームを連携した構成では、次のようになります。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">構成</th><th>コピー失敗までの時間の設定可能な範囲 (秒)</th></tr> <tr> <td colspan="2">他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携</td><td>1~31</td></tr> <tr> <td rowspan="2">他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と</td><td>ShadowImage の P-VOL へホスト I/O を実施</td><td>1~31</td></tr> <tr> <td>他プログラムプロダクト※1 の</td><td>1~14</td></tr> </table>	構成		コピー失敗までの時間の設定可能な範囲 (秒)	他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携		1~31	他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と	ShadowImage の P-VOL へホスト I/O を実施	1~31	他プログラムプロダクト※1 の	1~14
構成		コピー失敗までの時間の設定可能な範囲 (秒)											
他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携		1~31											
他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と	ShadowImage の P-VOL へホスト I/O を実施	1~31											
	他プログラムプロダクト※1 の	1~14											

番号	オプション	説明		
		構成		コピー失敗までの時間の設定可能な範囲(秒)
		S-VOL の両方と連携	P-VOL へホスト I/O を実施※2	
		注※1 TrueCopy、Universal Replicator、global-active device のみ対象となります。その他プログラムプロダクトについては ShadowImage 単体に準じます。 注※2 Universal Replicator の P-VOL へホスト I/O を実施した場合は、このオプションの機能が有効になりません。		
#20 #21 #22	Copy Pace Ext. Slower1 オプション、 Copy Pace Ext. Slower2 オプション、 Copy Pace Ext. None オプション	PAIR 状態でのコピー量を抑えることで、ホストサーバの I/O 性能への影響を抑えます。このオプションは、PAIR 状態のすべての ShadowImage ペアに対して有効です。ホストサーバの I/O 性能への影響を抑える効果は、Copy Pace Ext. Slower1、Copy Pace Ext. Slower2、Copy Pace Ext. None の順で大きくなります（Copy Pace Ext. None がいちばん効果は大きい）。複数のシステムオプションを設定した場合は、Copy Pace Ex. Slower1 よりも Copy Pace Ex. Slower2 が有効になり、Copy Pace Ex. Slower2 よりも Copy Pace Ex. None が有効になります。 この機能は PAIR 状態時だけで有効で、ペア状態が COPY(PD)/COPY、COPY(SP)/COPY、PSUS(SP)/PSUS、COPY(RS)/COPY、COPY(RS-R)/RCPY の状態では、ホストサーバの I/O 性能への影響を抑える効果はありません。		
#24	Quick/Steady Split 多重化 (ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプション	ShadowImage ペアの分割を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度（同時にコピーを実行できるジョブ数）が 1 から 24 になります。		
#25	Reverse Copy 多重化 (ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプション	ShadowImage ペアの再同期(セカンダリ > プライマリ)を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度（同時にコピーを実行できるジョブ数）が 1 から 24 になります。		
#26	Normal Resync 多重化 (ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプション	ShadowImage ペアの再同期(プライマリ > セカンダリ)を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度（同時にコピーを実行できるジョブ数）が 1 から最大 24 になります。		



注意

Host I/O Performance オプションでコピー処理の実行が抑えられると、コピー処理時間が非常に長くなります。また、ShadowImage for Mainframe のペアがあると、ホスト I/O のレスポンスが改善されない場合があります。そのような場合は、ShadowImage だけでなく ShadowImage for Mainframe についても Host I/O Performance オプションを有効にしてください。



注意

Quick/Steady Split 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプション、Reverse Copy 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプション、および Normal Resync 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプションを使用するときの注意事項を次に示します。

- コピー量が多くなるため、書き込み待ちデータが多くなる傾向があります。
- ペア分割または再同期の性能に比べて ECC の能力が不足している場合は、キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合 (Write ペンディング率) が 60%を超え、コピー処理が待ち状態になるおそれがあります。このため、同じ ECC 内で同時にコピーを実行するペア数が少なくなるよう、コピーの順序を考慮してください。
- 一度にペア分割または再同期するボリューム数が増えると、1 ペア当たりの多重度 (同時にペア分割または再同期を実行できるジョブ数) は低くなります。このため、同時に多数のペア分割または再同期を実行する場合はこのオプションを設定してもペア分割または再同期の性能が変わらないことがあります。
- ShadowImage のコピー処理の最大多重度 (同時に実行できる数) は 126 です (ShadowImage for Mainframe と合わせた数です)。これは初期コピー、再同期、更新コピー、および差分コピーのすべてを含めた数のため、ペア分割または再同期以外のコピー処理が同時に動作している場合は、このオプションを設定してもペア分割または再同期の性能が変わらないことがあります。
- バックグラウンドで同時にコピー可能ペアの最大数は 504 です。最大数を超えた場合、他ペアのコピー終了後順次コピーを開始します。
- Quick/Steady Split 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプションが有効になる操作 : Steady Split および Quick Split
- Reverse Copy 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプションが有効になる操作: Reverse Copy
- Normal Resync 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプションが有効になる操作 : Normal Resync



メモ

Copy Pace Ext. None オプションを設定することで、PAIR 状態中にコピーを実施しないため、分割操作時の一致率が従来よりも低くなる傾向があります。そのため、分割操作時の PSUS(SP)/PSUS、COPY(SP)/COPY 状態が長くなるおそれがあります。PSUS(SP)/PSUS、COPY(SP)/COPY 状態が長くなることに問題がある場合は、次に示すどちらか、または両方の対応をしてください。

- PAIR 状態の期間をなるべく短くして、PAIR 状態中に一致率を低くしないようにする。
- オプションで Copy Pace Ext. Slower1、または Copy Pace Ext. Slower2 に変更する。ただし、Copy Pace Ext. Slower1、Copy Pace Ext. Slower2 を選択した場合は、Write レスポンスが Copy Pace Ext. None に比べて大きくなる場合があります。



ヒント

Host I/O Performance オプションと Copy Pace Ext.オプションの違い

Host I/O Performance は、COPY(PD)/COPY、PAIR、COPY(SP)/COPY、PSUS(SP)/PSUS、COPY(RS)/COPY、COPY(RS-R)/RCPY 状態中に、単位時間当たりのコピー量を低下させて、HOST I/O への影響を抑えるためのオプションです。Copy Pace Ext.は、PAIR 状態中に限り、単位時間当たりのコピー量を低下させて、HOST I/O への影響を抑えるためのオプションです。Host I/O Performance と Copy Pace Ext.は、同時に設定できます。両方のオプションを設定した場合は、両方の効果を得られます。

関連概念

- [2.5 ShadowImage のシステムオプション](#)

関連参照

- [付録 B.14.1 \[ローカルレプリカオプション編集\] 画面](#)

2.6 Thin Image と ShadowImage の特性の違いおよび使い分け

Thin Image と ShadowImage の特性の違いおよび使い分けについて説明します。

関連概念

- [2.6.1 Thin Image と ShadowImage の特性の違い](#)
- [2.6.2 Thin Image と ShadowImage の使い分け](#)

2.6.1 Thin Image と ShadowImage の特性の違い

Thin Image と ShadowImage の特性の違いを次の表に示します。

項目	Thin Image	ShadowImage
プライマリボリュームの物理障害（ハードディスク障害など）に対する耐性	プライマリボリュームのデータは保証できない	セカンダリボリュームを使用してプライマリボリュームを復旧できる
プライマリボリュームの論理障害（データの更新誤りやウイルス感染など）に対する耐性	セカンダリボリュームを使用してプライマリボリュームを復旧できる	セカンダリボリュームを使用してプライマリボリュームを復旧できる
バックアップに必要な容量	プライマリボリュームとの差分だけを保持するため、バックアップに必要な容量が少ない※1	プライマリボリューム全体のデータを保持するため、バックアップに必要な容量が多い
バックアップしたデータにアクセスするときの、プライマリボリュームの性能に対する影響	プライマリボリュームとデータを共有しているため、プライマリボリュームの性能に影響が出る※2	プライマリボリュームとセカンダリボリュームを切り離すことができるため、プライマリボリュームの性能に影響が出ない

注※1

スナップショット属性のペアの場合。クローン属性のペアを作成する場合は、プライマリボリューム全体のデータを保持するため、バックアップに必要な容量が多い

注※2

スナップショット属性のペアの場合。クローン属性のペアを作成する場合は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを切り離すことができるため、プライマリボリュームの性能に影響が出ない

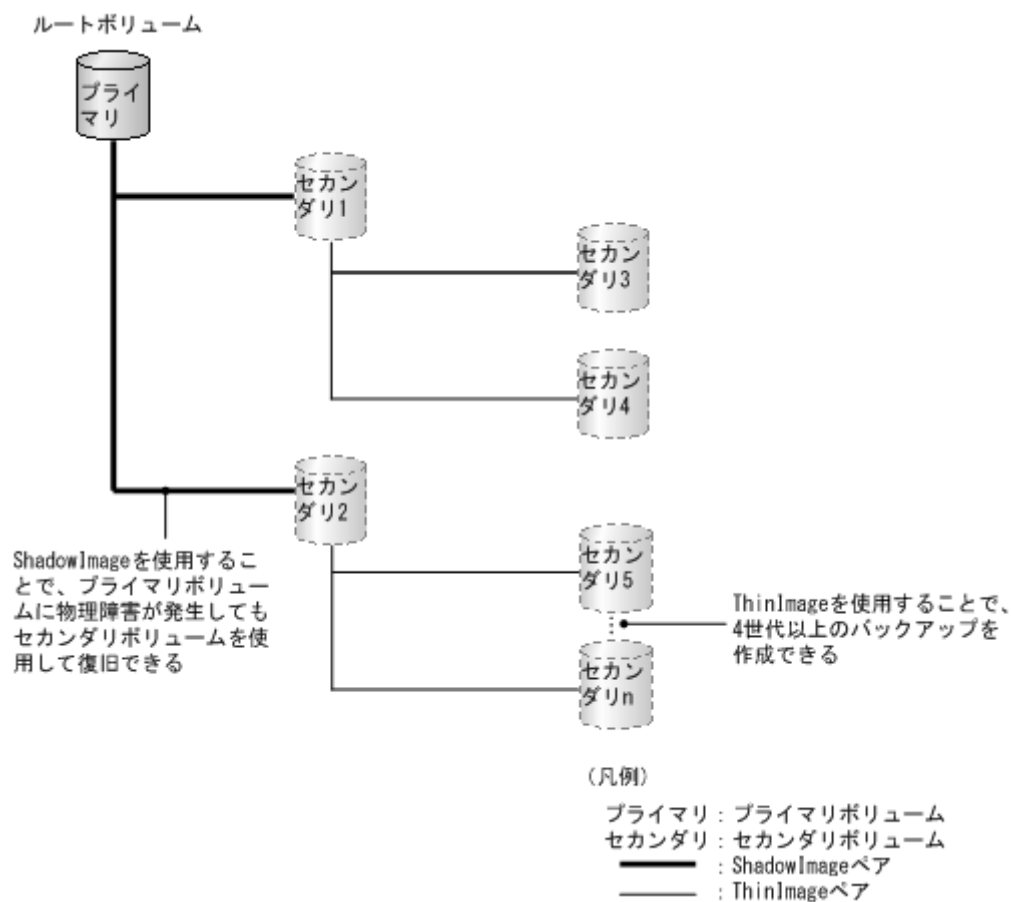
関連概念

- [2.6 Thin Image と ShadowImage の特性の違いおよび使い分け](#)

2.6.2 Thin Image と ShadowImage の使い分け

バックアップしたデータの長期間保存が義務付けられている場合など、バックアップしたデータを物理障害によって消失させたくない場合は、磁気テープなどの媒体にデータをバックアップする必要があります。磁気テープなどの媒体にデータをバックアップするまでの、一時的なバックアップとして、Thin Image または ShadowImage を使用してください。磁気テープなどの媒体にバックアップするときに、プライマリボリュームの性能に影響を与えたくない場合は ShadowImage、プライマリボリュームの性能に影響がでてバックアップに必要な容量を少なくしたい場合は Thin Image を使用することをお勧めします。

プライマリボリュームの物理障害に対して備えたい場合は、ShadowImage を使用してください。そのとき、4 世代以上のバックアップが必要な場合は、次の図のように ShadowImage と Thin Image を併用することをお勧めします。



プライマリボリュームの論理障害に対して備えたい場合は、Thin Image を使用してください。ShadowImage でもセカンダリボリュームを使用してプライマリボリュームを復旧できますが、バックアップに必要な容量が少ない Thin Image を使用することをお勧めします。

関連概念

- 2.6 Thin Image と ShadowImage の特性の違いおよび使い分け

ShadowImage と他のプログラムプロダクトとの併用

ShadowImage は、多くのプログラムプロダクトと連携してボリュームを併用できます。ShadowImage を他のプログラムプロダクトと連携して使用する場合の必要条件、推奨、および制限事項を説明します。

- ❑ [3.1 ShadowImage と Cache Residency Manager の併用](#)
- ❑ [3.2 ShadowImage と LUN Manager の併用](#)
- ❑ [3.3 ShadowImage と Data Retention Utility の併用](#)
- ❑ [3.4 ShadowImage と Volume Migration の併用](#)
- ❑ [3.5 ShadowImage と Universal Volume Manager の併用](#)
- ❑ [3.6 ShadowImage と TrueCopy の併用](#)
- ❑ [3.7 ShadowImage と Universal Replicator の併用](#)
- ❑ [3.8 ShadowImage と TrueCopy および Universal Replicator の組み合わせ](#)
- ❑ [3.9 ShadowImage と Dynamic Provisioning の併用](#)
- ❑ [3.10 ShadowImage と Thin Image の併用](#)
- ❑ [3.11 ShadowImage と Resource Partition Manager の併用](#)
- ❑ [3.12 ShadowImage と global-active device の併用](#)

3.1 ShadowImage と Cache Residency Manager の併用

Cache Residency Manager の設定があるボリュームを ShadowImage のプライマリボリューム、およびセカンダリボリュームとして使用できます。

関連概念

- [2.4 ShadowImage システムの I/O 性能への影響と運用設計](#)

3.2 ShadowImage と LUN Manager の併用

LUN Manager の操作は、ShadowImage の操作に影響を与えません。LUN Manager のセキュリティ機能によって保護されたポートのボリュームや、LUN グループまたは WWN グループに割り当てたボリュームも、ShadowImage ペアのボリュームに指定できます。また、ShadowImage ペアのボリュームを LUN Manager の操作（LUN グループまたは WWN グループの割り当てなど）に使用することもできます。

ShadowImage のセカンダリボリュームはペアが分割されるとき以外はホストからアクセスできません。

3.3 ShadowImage と Data Retention Utility の併用

アクセス属性と ShadowImage の操作や、ShadowImage のペア状態とアクセス属性の設定について説明します。

関連参照

- [3.3.1 Data Retention Utility のアクセス属性と ShadowImage のペア操作](#)
- [3.3.2 ShadowImage のペア状態と Data Retention Utility のアクセス属性の設定](#)

3.3.1 Data Retention Utility のアクセス属性と ShadowImage のペア操作

ShadowImage は、Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームを使用してペアを作成できます。ただし、アクセス属性によっては ShadowImage のペア操作ができない場合があります。また、Data Retention Utility のアクセス属性を Storage Navigator を使って設定するか RAID Manager を使って設定するかによって、ShadowImage のペア操作ができるかどうか異なります。

Storage Navigator を使ってアクセス属性を設定した場合の、Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームに対して、ShadowImage のペア操作ができるかどうかを次に示します。

プライマリボリュームの アクセス属性	セカンダリボリュームの アクセス属性	ShadowImage のペア操作					
		ペア作成	ペア分割	ペア中断	ペア再同期（正方向）	ペア再同期（逆方向）	ペア削除
Read/Write 属性	Read/Write 属性	○	○	○	○	○	○
	Read Only 属性	×	×	○	×	×	○
	Protect 属性	×	×	○	×	×	○

プライマリボリュームのアクセス属性	セカンダリボリュームのアクセス属性	ShadowImage のペア操作					
		ペア作成	ペア分割	ペア中断	ペア再同期（正方向）	ペア再同期（逆方向）	ペア削除
	副 VOL 拒否属性	×	×	○	×	×	○
Read Only 属性、Protect 属性、または副 VOL 拒否属性	Read/Write 属性	○	○	○	○	×	○
	Read Only 属性	×	×	○	×	×	○
	Protect 属性	×	×	○	×	×	○
	副 VOL 拒否属性	×	×	○	×	×	○

(凡例)

- ：操作できる
×：操作できない

RAID Manager を使ってアクセス属性を設定した場合の、Data Retention Utility でアクセス属性を設定したボリュームに対して、ShadowImage のペア操作ができるかどうかを次に示します。

プライマリボリュームのアクセス属性	セカンダリボリュームのアクセス属性	ShadowImage のペア操作					
		ペア作成	ペア分割	ペア中断	ペア再同期（正方向）	ペア再同期（逆方向）	ペア削除
Read/Write 属性、Read Only 属性、または Protect 属性	Read/Write 属性	○	○	○	○	○	○
	Read Only 属性	○	○	○	○	○	○
	Protect 属性	○	○	○	○	○	○
	副 VOL 拒否属性	×	×	○	×	×	○
副 VOL 拒否属性	Read/Write 属性	○	○	○	○	×	○
	Read Only 属性	○	○	○	○	×	○
	Protect 属性	○	○	○	○	×	○
	副 VOL 拒否属性	×	×	○	×	×	○

(凡例)

- ：操作できる
×：操作できない



メモ

ShadowImage の操作によってボリュームのアクセス属性が変わることはありません。Quick Restore を実行するとプライマリボリュームとセカンダリボリュームが交替しますが、操作後にプライマリボリュームとセカンダリボリュームのアクセス属性が交替することはありません。

関連概念

- [3.3 ShadowImage と Data Retention Utility の併用](#)

3.3.2 ShadowImage のペア状態と Data Retention Utility のアクセス属性の設定

ShadowImage のペア状態によっては、ShadowImage のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに対して Data Retention Utility でアクセス属性を設定できない場合があります。また、Data Retention Utility のアクセス属性を Storage Navigator を使って設定するか RAID Manager を使って設定するかによって、アクセス属性を設定ができるかどうか異なります。

Storage Navigator を使ってアクセス属性を設定した場合の、ShadowImage のペア状態に対するアクセス属性の設定可否を次に示します。

ShadowImage で指定した ボリューム		設定するアクセス属性	
ペア状態	ボリューム	Read/Write 属性	Read Only 属性 Protect 属性 副 VOL 拒否属性
COPY(PD)/COPY	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
PAIR	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
COPY(SP)/COPY	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
PSUS(SP)/PSUS	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○
PSUS	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○
SMPL(PD)	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○
COPY(RS)/COPY	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
COPY(RS-R)/RCPY	プライマリボリューム	○	×
	セカンダリボリューム	○	×
PSUE	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

RAID Manager を使ってアクセス属性を設定した場合の、ShadowImage のペア状態に対するアクセス属性の設定可否を次に示します。

ShadowImage で指定した ボリューム		設定するアクセス属性	
ペア状態	ボリューム	Read/Write 属性 Read Only 属性 Protect 属性	副 VOL 拒否属性
COPY(PD)/COPY	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
PAIR	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
COPY(SP)/COPY	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
PSUS(SP)/PSUS	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○
PSUS	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○
SMPL(PD)	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○
COPY(RS)/COPY	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	×
COPY(RS-R)/RCPY	プライマリボリューム	○	×
	セカンダリボリューム	○	×
PSUE	プライマリボリューム	○	○
	セカンダリボリューム	○	○

(凡例)

- : 操作できる
- × : 操作できない

関連概念

- [3.3 ShadowImage と Data Retention Utility の併用](#)

3.4 ShadowImage と Volume Migration の併用

Volume Migration の移動元ボリュームおよび移動先ボリュームは、ShadowImage ペア操作で使用できません。Volume Migration の移動元ボリュームおよび移動先ボリュームを ShadowImage ペア操作で使用するには、まず Volume Migration ボリュームを解除する必要があります。

次の ShadowImage ボリュームは、Volume Migration の移動元ボリュームに割り当てることができます。

- 2 個以下のセカンダリボリュームとペアを構成する L1 プライマリボリューム
- 1 個以下のセカンダリボリュームとペアを構成する L2 プライマリボリューム (セカンダリボリュームがない場合も含みます)

上記以外の ShadowImage ペアを Volume Migration の移動元ボリュームに割り当てる場合は、事前に ShadowImage ペアを削除しなければなりません。

ShadowImage ボリュームは移動先ボリュームには使用できません。

3.5 ShadowImage と Universal Volume Manager の併用

ShadowImage は、Universal Volume Manager と連携して使用することで、外部ボリュームを使用してペアを作成できます。外部ボリュームの詳細については、『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。

ペアに使用している外部ボリュームには、ローカルストレージシステム側からだけアクセスしてください。例えば、外部ストレージシステム側に接続されているホストからアクセスしたり、外部ストレージシステム側のコピー機能などを使ってアクセスしたりしないでください。

プライマリボリュームに容量削減機能が有効なボリューム、セカンダリボリュームにデータダイレクトマップ属性の Dynamic Provisioning ボリュームを使用して次の操作をすると、他の属性のボリュームによるペアの場合と比較して、操作完了までに 10 倍以上の時間がかかることがあります。

- ペア生成
- ペア作成 - 分割
- 正方向ペア再同期

3.6 ShadowImage と TrueCopy の併用

TrueCopy ボリュームは、ShadowImage ボリュームと共有できます。

- ShadowImage のプライマリボリュームとセカンダリボリュームを TrueCopy のプライマリボリューム、セカンダリボリュームと共有できます。ただし、ShadowImage のセカンダリボリュームと TrueCopy のセカンダリボリュームとは共有できません。
- ShadowImage のプライマリボリュームと TrueCopy のセカンダリボリュームを共有する場合、TrueCopy プライマリボリュームに対する書き込み処理に時間が掛かります。特に ShadowImage ペアが PSUS(SP)/PSUS 状態のときは、ShadowImage ペアのコピー処理の分だけ余計に時間が掛かることがあります。
- ShadowImage のプライマリボリュームと TrueCopy のセカンダリボリュームを共有する構成で、TrueCopy のプライマリボリュームに対する Write I/O を実行中に ShadowImage ペアを分割すると、Write I/O の一部しか ShadowImage のセカンダリボリュームに書き込まれないことがあります。ShadowImage のセカンダリボリュームのデータ整合性を維持したい場合は、TrueCopy のプライマリボリュームに対する I/O を停止してから、ShadowImage ペアを分割してください。
- 同じコンシステンシーグループ内にあるすべての ShadowImage ペアの分割を要求した場合、その要求が受け付けられるのは、対応するすべての TrueCopy ペアが PAIR 状態、PSUS 状態、または PSUE 状態のときだけです。もし、TrueCopy ペアがこれらの状態に該当しなければ、コンシステンシーグループ内の ShadowImage ペアの状態は変更されません。TrueCopy ペア状態ごとの、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使った ShadowImage ペアの分割操作の実行可否詳細については、『[5.5.1 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能とは](#)』を参照してください。
- L1 および L2 ペアの両方で TrueCopy ボリュームと使用できます。ノードボリュームとリーフボリュームのセカンダリボリュームは TrueCopy ではセカンダリボリュームと見なされます。

- Quick Restore 操作は、TrueCopy ペアがサスペンドされているとき、ShadowImage ペアに対して実行できます。

詳細については、『TrueCopy ユーザガイド』にある ShadowImage でのボリュームの共有についての説明を参照してください。

TrueCopy のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームと、ShadowImage のプライマリボリュームを共有した場合の ShadowImage 操作の可否を次に示します。

TC ペア状態	ShadowImage 操作							
	ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
					Normal Copy	Quick Resync	Reverse Copy	Quick Restore
COPY	○	○	○	○	○	○	×	×
PAIR	○	○	○	○	○	○	×	×
PSUS	○	○	○	○	○	○	○	○
PSUE	○	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作できる
- ×

ShadowImage のセカンダリボリュームと TrueCopy のプライマリボリュームを共有した場合の ShadowImage 操作の可否を次に示します。

TC ペア状態	ShadowImage 操作							
	ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
					Normal Copy	Quick Resync	Reverse Copy	Quick Restore
COPY	×	×	○	○	×	×	×	×
PAIR	×	×	○	○	×	×	×	×
PSUS	×	○	○	○	○	○	○	○
PSUE	×	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作できる
- ×

3.7 ShadowImage と Universal Replicator の併用

Universal Replicator のボリュームは ShadowImage のボリュームと共有できます。ただし、ShadowImage のセカンダリボリュームと Universal Replicator のセカンダリボリュームとは共有できません。また、UR のジャーナルボリュームは ShadowImage のペアボリュームと共有できません。

- ShadowImage のプライマリボリュームと Universal Replicator のセカンダリボリュームを共有する構成で、Universal Replicator のプライマリボリュームに対する Write I/O を実行中に

ShadowImage ペアを分割すると、Write I/O の一部しか ShadowImage のセカンダリボリュームに書き込まれないことがあります。ShadowImage のセカンダリボリュームのデータ整合性を維持したい場合は、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使って ShadowImage ペアを分割してください。

- 同じコンシステンシーグループ内にあるすべての ShadowImage ペアの分割を要求した場合、その要求が受け付けられるのは、対応するすべての Universal Replicator ペアが PAIR 状態、PSUS 状態、または PSUE 状態のときだけです。もし、Universal Replicator ペアがこれらの状態に該当しなければ、コンシステンシーグループ内の ShadowImage ペアの状態は変更されません。Universal Replicator ペア状態ごとの、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使った ShadowImage ペアの分割操作の実行可否詳細については、「[5.5.1 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能とは](#)」を参照してください。
- L1 および L2 ペアの両方を Universal Replicator ボリュームとともに使用できます。ノードボリュームとリーフボリュームのセカンダリボリュームは Universal Replicator でセカンダリボリュームと見なされます。
- Universal Replicator ペアがサスペンドされているとき、ShadowImage ペアに Quick Restore 操作を実行できます。

詳細については、『Universal Replicator ユーザガイド』にある ShadowImage でのボリュームの共有についての説明を参照してください。

Universal Replicator のプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームと、ShadowImage のプライマリボリュームを共有した場合の ShadowImage 操作の可否を次に示します。

UR ペア状態	ShadowImage 操作							
	ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
					Normal Copy	Quick Resync	Reverse Copy	Quick Restore
COPY	○	○	○	○	○	○	×	×
PAIR	○	○	○	○	○	○	×	×
PSUS	○	○	○	○	○	○	○	○
PSUE	○	○	○	○	○	○	○	○
Suspending	○	○	○	○	○	○	×	×
Deleting	○	○	○	○	○	○	×	×

(凡例)

- ：操作できる
- ×

ShadowImage のセカンダリボリュームと Universal Replicator のプライマリボリュームを共有した場合の ShadowImage 操作の可否を次に示します。

UR ペア状態	ShadowImage 操作							
	ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
					Normal Copy	Quick Resync	Reverse Copy	Quick Restore
COPY	×	×	○	○	×	×	×	×

UR ペア状態	ShadowImage 操作							
	ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
					Normal Copy	Quick Resync	Reverse Copy	Quick Restore
PAIR	×	×	○	○	×	×	×	×
PSUS	×	○	○	○	○	○	○	○
PSUE	×	○	○	○	○	○	○	○
Suspending	×	×	○	○	×	×	×	×
Deleting	×	×	○	○	×	×	×	×

(凡例)

○：操作できる

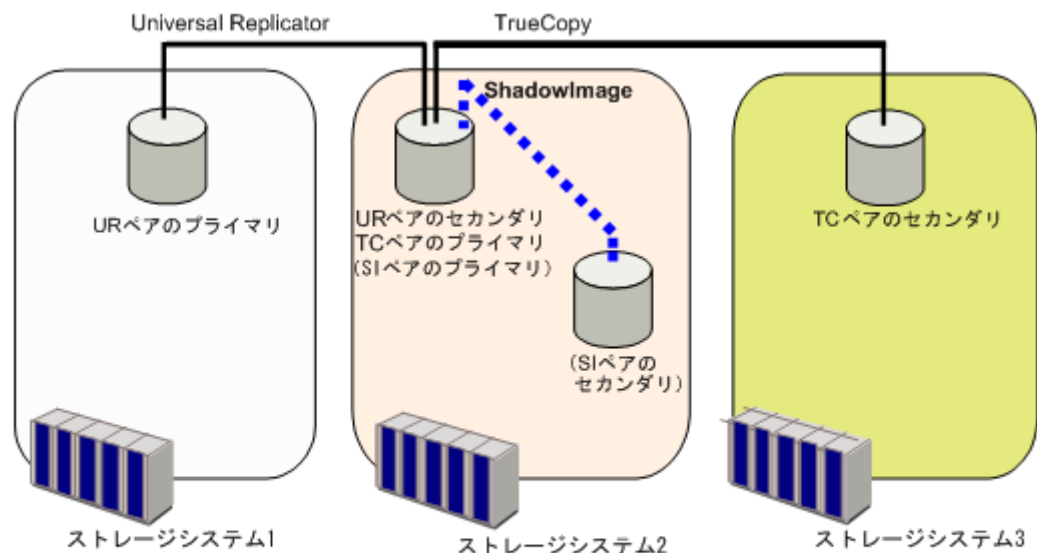
×

3.8 ShadowImage と TrueCopy および Universal Replicator の組み合わせ

ShadowImage、TrueCopy および Universal Replicator を併用した場合の組み合わせ例を示します。

UR ペアのセカンダリボリュームと TC のプライマリボリューム共有時のペアの構成例

次に示す組み合わせの場合、SI ペアに対して Quick Restore を実行できません。



(凡例)

SIペア：ShadowImageペア

TCペア：TrueCopyペア

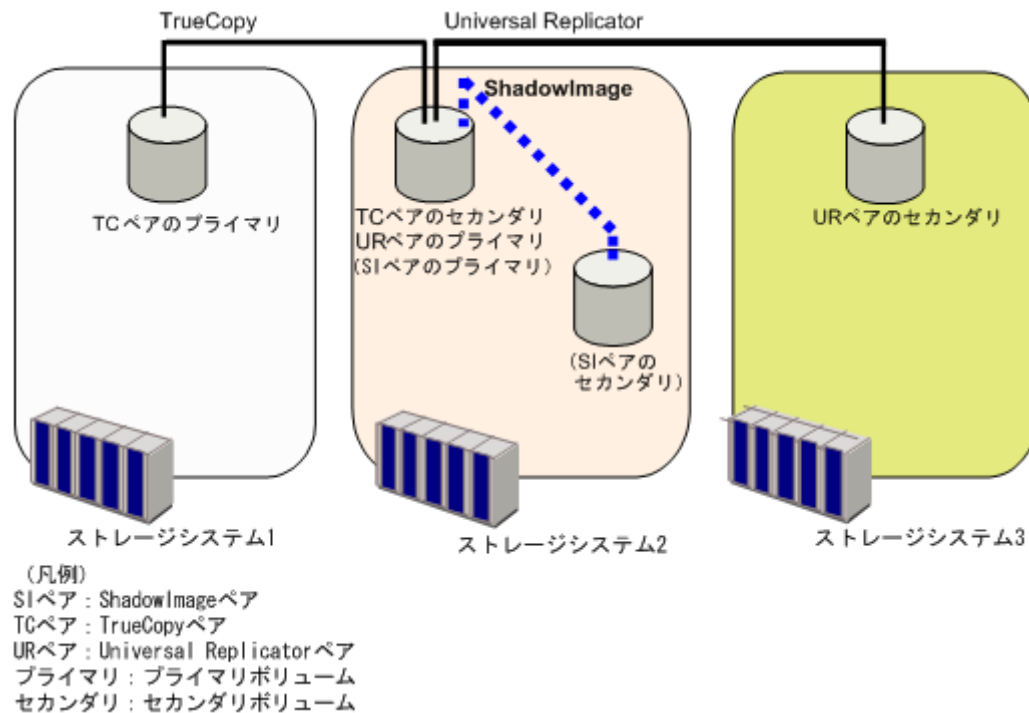
URペア：Universal Replicatorペア

プライマリ：プライマリボリューム

セカンダリ：セカンダリボリューム

TC ペアのセカンダリボリュームと UR ペアのプライマリボリューム共有時のペアの構成例

次に示す組み合わせの場合、SI ペアに対して Quick Restore を実行できません。

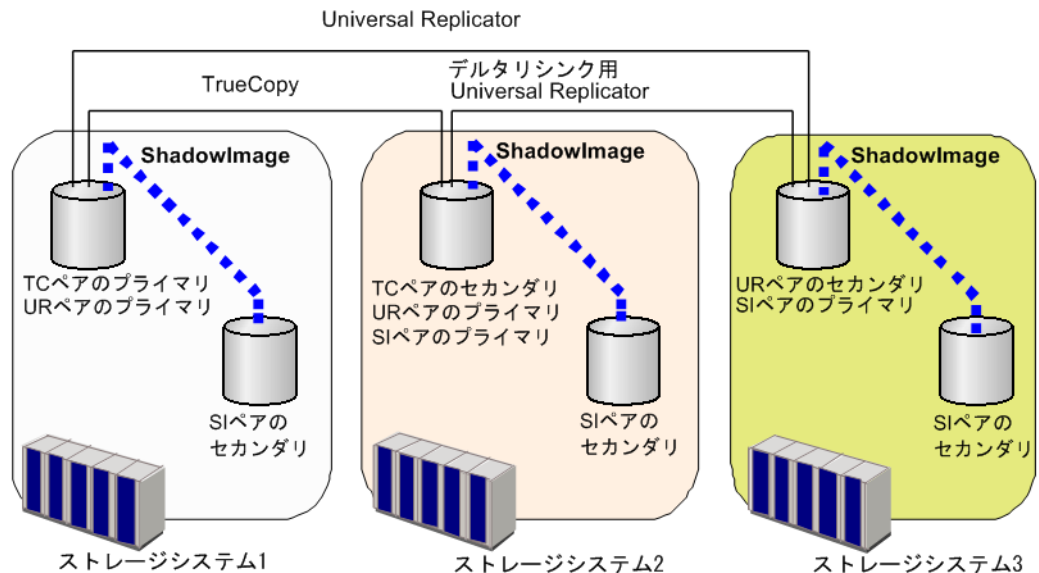


3DC マルチターゲット構成での SI ペア、TC ペア、および UR ペアの組み合わせ例

次の図に、3DC マルチターゲット構成での、次のペアの構成例を示します。

- Universal Replicator ペア
- デルタリシンク用 Universal Replicator ペア
- ShadowImage ペア
- TrueCopy ペア

3DC マルチターゲット構成の詳細については、『Universal Replicator ユーザガイド』を参照してください。



SIペア：ShadowImageペア
 TCペア：TrueCopyペア
 URペア：Universal Replicatorペア
 プライマリ：プライマリボリューム
 セカンダリ：セカンダリボリューム

関連参照

- 3.8.1 TrueCopy 同期リモートストレージでの ShadowImage 操作の可否
- 3.8.2 Universal Replicator リモートストレージでの ShadowImage 操作の可否
- 3.8.3 TrueCopy / Universal Replicator ローカルストレージでの ShadowImage 操作の可否

3.8.1 TrueCopy 同期リモートストレージでの ShadowImage 操作の可否

TrueCopy 同期リモートストレージシステムでの、TrueCopy ペア、デルタリシンク用 Universal Replicator ペアの各ペア状態に対する ShadowImage 操作の可否を次に示します。

TC ペア状態	デルタ リシン ク用 UR ペア状態	ShadowImage 操作							
		ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
						Norma l Copy	Quick Resyn c	Revers e Copy	Quick Restor e
PAIR	HOLD	○	○	○	○	○	○	×	×
COPY		○	○	○	○	○	○	×	×
PSUS/ PSUE		○	○	○	○	○	○	○	×
PAIR	HLDE	○	○	○	○	○	○	×	×
COPY		○	○	○	○	○	○	×	×
PSUS/ PSUE		○	○	○	○	○	○	○	×

(凡例)

- ：操作できる
×：操作できない

関連概念

- 3.8 ShadowImage と TrueCopy および Universal Replicator の組み合わせ

3.8.2 Universal Replicator リモートストレージでの ShadowImage 操作の可否

UR ペア状態	デルタ リシンク用 UR ペア状態	ShadowImage 操作							
		ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
						Norma l Copy	Quick Resyn c	Revers e Copy	Quick Restor e
PAIR	HOLD	○	○	○	○	○	○	×	×
COPY		○	○	○	○	○	○	×	×
PSUS/ PSUE		○	○	○	○	○	○	○	×

(凡例)

- ：操作できる
×：操作できない

関連概念

- 3.8 ShadowImage と TrueCopy および Universal Replicator の組み合わせ

3.8.3 TrueCopy / Universal Replicator ローカルストレージでの ShadowImage 操作の可否

TrueCopy / Universal Replicator ローカルストレージシステムでの TrueCopy ペア、Universal Replicator ペアの各ペア状態に対する ShadowImage 操作の可否を次に示します。

表に記載されている操作の可否はデルタリシンク用 Universal Replicator ペアがない場合でも適用されます。

TC ペア状態	UR ペア 状態	ShadowImage 操作							
		ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
						Norma l Copy	Quick Resyn c	Revers e Copy	Quick Restor e
PAIR	PAIR	○	○	○	○	○	○	×	×
	COPY	○	○	○	○	○	○	×	×
	PSUS/ PSUE	○	○	○	○	○	○	×	×
COPY	PAIR	○	○	○	○	○	○	×	×
	COPY	○	○	○	○	○	○	×	×

TC ペア状 態	UR ペア 状態	ShadowImage 操作							
		ペアの 作成	ペアの 分割	コピー 中断	ペアの 解除	ペアの再同期			
						Norma l Copy	Quick Resyn c	Revers e Copy	Quick Restor e
	PSUS/ PSUE	○	○	○	○	○	○	×	×
PSUS/ PSUE	PAIR	○	○	○	○	○	○	×	×
	COPY	○	○	○	○	○	○	×	×
	PSUS/ PSUE	○	○	○	○	○	○	○	×

(凡例)

- ：操作できる
- ×

関連概念

- 3.8 ShadowImage と TrueCopy および Universal Replicator の組み合わせ

3.9 ShadowImage と Dynamic Provisioning の併用

Dynamic Provisioning ボリュームは ShadowImage プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして、次の制限付きで使用できます。なお、容量削減機能が有効なボリュームを、ShadowImage のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できます。

- プライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方で Dynamic Provisioning ボリュームを使用することを推奨します。
- 次の場合は Quick Restore を実行できません。
 - プライマリボリュームだけを Dynamic Provisioning ボリュームで使用している場合
 - セカンダリボリュームだけを Dynamic Provisioning ボリュームで使用している場合
 - プライマリボリュームとセカンダリボリュームのどちらかの容量削減機能が有効である場合
- 重複排除用システムデータボリュームは、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして使用できません。
- 容量削減機能によって圧縮または重複排除されたコピー元のボリュームのデータは、圧縮または重複排除を解消してから、コピー先のボリュームへコピーされます。また、容量削減機能は、コピーしたデータに対してすぐには実行されません。ShadowImage ペアを作成したり再同期したりする前に、コピー先のボリュームの空き容量が、コピー元のボリュームに格納されている容量削減前の使用容量よりも多いことを確認してください。詳細は、『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。
- 容量削減機能を使用したボリュームを使用して ShadowImage ペアを作成すると、圧縮または重複排除されたデータをコピーするため、コピーの性能やホストの I/O 性能が低下する場合があります。
- 容量削減機能を使用すると、管理情報がプールに格納されるため、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで、ページの使用量やライセンス容量に差があることがあります。

- 次の操作はセカンダリボリュームがプライマリボリュームと同じプール容量を消費するため、推奨しません。
 - セカンダリボリュームだけを Dynamic Provisioning ボリュームで使用する
 - プライマリボリュームをデータダイレクトマップ属性の Dynamic Provisioning ボリュームにして、セカンダリボリュームを Dynamic Provisioning ボリュームにする
- Dynamic Provisioning ボリュームの容量を拡張中に ShadowImage のペア操作は実行できません。
- DP プール初期化中に、Dynamic Provisioning ボリュームを使用した ShadowImage のペア作成は実行できません。
- ShadowImage のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームとして、Dynamic Provisioning ボリュームの最大ボリュームサイズまで使用できます。Dynamic Provisioning ボリュームの最大ボリュームサイズについては、『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。
- ボリュームの容量が 4,194,304MB (8,589,934,592block) より大きい DP-VOL を使って ShadowImage ペアを作成する場合、差分データは ShadowImage ペアのボリュームが関連づけられているプールで管理されます。この場合、ボリュームの容量 4,123,168,604,160 バイトごとに、差分管理データ用のプール容量（最大 4 ページ）が必要です。差分管理データ用のプール容量はプログラムプロダクトの構成によって異なります。
 ボリュームの容量が 4,194,304MB より大きい DP-VOL を使ったペア作成をサポートしていないマイクロコードバージョンへダウングレードするときは、プールで管理されている差分データ（ページ）を解放する必要があります。ページは次の手順で解放できます。
 1. ページを解放する仮想ボリュームを使用しているすべてのペアを削除します。
 2. システムオプションモード 755 を OFF にします。
 システムオプションモード 755 を OFF にすると、ゼロデータページを破棄できます。
 3. 閉塞しているプールを回復します。
 4. 仮想ボリュームのページを解放します。
 Storage Navigator では [ゼロデータページ破棄] 画面を、RAID Manager では `raidcom modify ldev` コマンドを使ってページを解放します。ページの解放には時間が掛かることがあります。
- このマニュアル内で、「Dynamic Provisioning」と記載されている場合、Dynamic Provisioning、Dynamic Tiering、および active flash を含みます。
- ShadowImage ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームを指定して、Storage Navigator または RAID Manager からゼロデータページ破棄を実施する場合の実行可否については、『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。
- ゼロデータページ破棄（WriteSame/Unmap コマンド、またはリバランスによるゼロデータページ破棄を含む）の処理中に ShadowImage のペア作成またはペア再同期を実施すると、ゼロデータページ破棄が中断されます。
- WriteSame/Unmap コマンドの処理中に ShadowImage のペア作成を実施すると、ペア作成が失敗する場合があります。その場合は、WriteSame/Unmap コマンドの処理後に再度ペア作成を実施してください。
- ShadowImage ペアの作成時に、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームで、ゼロデータページ破棄が動作していると、ペア作成が失敗する場合があります。このため、ペアを作成する場合は、ゼロデータページ破棄が動作している時間を避けてください。

- ShadowImage ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに対して WriteSame/Unmap コマンドが発行された場合、WriteSame/Unmap コマンドによるゼロデータページ破棄は実施されません。
- リバランスを実行しても、ShadowImage ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームに対してリバランスによるゼロデータページ破棄は実施されません。
- システムオプションモード 905 が ON の状態で発行された Unmap コマンドの処理中に ShadowImage のペア作成を実施すると、ペア作成が失敗する場合があります。ペア作成が失敗した場合は、しばらく待ってから再度操作してください。再度操作してもペア作成を実施できない場合は、システムオプションモード 905 を OFF にしてから再度操作してください。

3.10 ShadowImage と Thin Image の併用

Thin Image と ShadowImage は、次の表に示すとおりボリュームを共有できます。



メモ

Thin Image ペアのノードボリュームおよびリーフボリュームについては、次の表の「プライマリボリューム」ではなく「セカンダリボリューム」の内容を参照してください。

Thin Image ボリューム	ShadowImage ボリューム	
	プライマリボリュームとして使用できるか	セカンダリボリュームとして使用できるか
プライマリボリューム (RCPY 状態)	×	×
プライマリボリューム (RCPY 以外の状態)	○	○※
セカンダリボリューム	×	×
Thin Image のプール VOL	×	×

(凡例)

- ：使用可
- ×

注※

この環境を構築したいときには、ShadowImage ペアを作成したあとに Thin Image ペアを作成してください。Thin Image ペアを作成したあとに ShadowImage ペアを作成できません。

Thin Image ペアのプライマリボリュームと ShadowImage ペアのボリュームを共有した場合の、Thin Image のペア状態と ShadowImage の操作の関係について説明します。

関連参照

- [3.10.1 Thin Image プライマリボリュームと ShadowImage プライマリボリューム共有時の ShadowImage の操作](#)
- [3.10.2 Thin Image プライマリボリュームと ShadowImage セカンダリボリューム共有時の ShadowImage の操作](#)

3.10.1 Thin Image プライマリボリュームと ShadowImage プライマリボリューム共有時の ShadowImage の操作

ShadowImage の操作	Thin Image ペアの状態					
	COPY	PAIR、PFUL	PSUS、PFUS	SMPL(PD)	RCPY	PSUE
ペア生成 (paircreate)	○	○	○	○	×	○
ペア作成 - 分割 (paircreate - split)	○	○	○	○	×	○
ペア分割 (pairsplit)	○	○	○	○	×	○
正方向ペア再同期 (pairresync)	○	○	○	○	×	○
通常の逆方向ペア再同期 (pairresync - restore)	○	○※	○	○	×	○
高速の逆方向ペア再同期 (pairresync - restore)	×	×	×	×	×	×
コピー処理の中断 (pairsplit - E)	○	○	○	○	○	○
ペア解除 (pairsplit - S)	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作可
 - ×
- ×：操作不可（コマンド拒否）

注※

コンシステンシーグループが設定されている Thin Image ペアに対して pairsplit コマンドを発行したあとは、Thin Image のコンシステンシーグループ内のペアがすべて PSUS または単一のボリュームになったことを確認してから、ShadowImage の操作を実行してください。Thin Image のスナップショットデータが、pairsplit コマンドを VSP G1000, G1500 および VSP F1500 が受け付けた時刻のプライマリボリュームデータと同一であることを保証できなくなります。Thin Image のペア状態と操作の詳細については『Thin Image ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- [3.10 ShadowImage と Thin Image の併用](#)

3.10.2 Thin Image プライマリボリュームと ShadowImage セカンダリボリューム共有時の ShadowImage の操作

ShadowImage の操作	Thin Image ペアの状態					
	COPY	PAIR、PFUL	PSUS、PFUS	SMPL(PD)	RCPY	PSUE
ペア生成 (paircreate)	×	×	×	×	×	×
ペア作成 - 分割 (paircreate - split)	×	×	×	×	×	×
ペア分割 (pairsplit)	○	○※1	○	○	×	○
正方向ペア再同期 (pairresync)	○	○※1	○	○	×	○
通常の逆方向ペア再同期 (pairresync - restore)	○	○※1	○	○	×	○
高速の逆方向ペア再同期※2 (pairresync - restore)	×	×	×	×	×	×
コピー処理の中断 (pairsplit - E)	○	○	○	○	×	○
ペア解除 (pairsplit - S)	○	○	○	○	○	○

(凡例)

○：操作可

×

注※1

コンシステンシーグループが設定されている Thin Image ペアに対して pairsplit コマンドを発行したあとは、Thin Image のコンシステンシーグループ内のペアがすべて PSUS または単一のボリュームになったことを確認してから、ShadowImage の操作を実行してください。Thin Image のスナップショットデータが、pairsplit コマンドを VSP G1000, G1500 および VSP F1500 が受け付けた時刻のプライマリボリュームデータと同一であることを保証できなくなります。Thin Image のペア状態と操作の詳細については『Thin Image ユーザガイド』を参照してください。

注※2

ホストから Thin Image のセカンダリボリュームにアクセスする際には、Thin Image のプライマリボリュームのデータを用いて応答を返す場合があります。そのため、ShadowImage のプライマリボリュームとセカンダリボリューム(=Thin Image のプライマリボリューム)を入

れ替える操作（ShadowImage の高速の逆方向ペア再同期（Quick Restore）操作）を実行できません。

関連概念

- [3.10 ShadowImage と Thin Image の併用](#)

3.11 ShadowImage と Resource Partition Manager の併用

Resource Partition Manager 使用時に、リソースグループに所属しているボリュームをプライマリボリューム、またはセカンダリボリュームとして ShadowImage ペアを作成できます。ただし、Resource Partition Manager の使用状況によっては、ShadowImage ペアを作成できない場合があります。

Resource Partition Manager 使用時の ShadowImage ペアの作成可否を次の表に示します。

プライマリボリュームが所属するリソースグループ	セカンダリボリュームが所属するリソースグループ	
	ユーザが所属するユーザグループに割り当てられている	ユーザが所属するユーザグループに割り当てられていない
ユーザが所属するユーザグループに割り当てられている	○	×
ユーザが所属するユーザグループに割り当てられていない	×	×

（凡例）

- ：ShadowImage ペア作成可能
- ×

Resource Partition Manager の詳細については、『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。

3.12 ShadowImage と global-active device の併用

global-active device（GAD）と ShadowImage は、次の表に示すとおりボリュームを共有できます。

GAD ボリューム	ShadowImage ボリューム	
	プライマリボリュームとして使用できるか	セカンダリボリュームとして使用できるか
プライマリボリューム	○	×
セカンダリボリューム	○	×
予約属性を設定したボリューム	×	×
Quorum ディスク	×	×

（凡例）

- ：使用できます
- ×

GAD ペアのボリュームと ShadowImage ペアのプライマリボリュームを共有した場合、GAD のペア状態と ShadowImage の操作の関係は、次のようになります。



注意

- ShadowImage のコンシステンシーグループ指定ペア分割操作を実行したときに、コンシステンシーグループ内に分割できないペアが含まれていた場合、コンシステンシーグループ内のすべてのペアがサスペンドされ、PSUE 状態となります。
- GAD ペアとボリュームを共有している ShadowImage ペアを分割してバックアップを取得する場合は、対象となるボリュームに対する I/O を停止してから ShadowImage ペアを分割してください。I/O を停止せずに ShadowImage ペアを分割すると、ShadowImage セカンダリボリュームの整合性が取れない場合があります。
- GAD プライマリボリュームと ShadowImage プライマリボリュームを共有した場合の、GAD のペア状態と ShadowImage の操作の関係

ShadowImage の操作	GAD ペアの状態および I/O モード					
	COPY	PAIR	PSUS		PSUE	
	Mirror(RL)	Mirror(RL)	Local	Block	Local	Block
ペア生成 (paircreate)	○	○	○	○	○	○
ペア作成 - 分割 (paircreate -split)	○	○	○	○	○	○
ペア分割 (pairsplit)	○	○	○	○	○	○
正方向ペア再同期 (pairresync)	○	○	○	○	○	○
通常の逆方向ペア再同期 (pairresync -restore)	×	×	○	×	○	×
高速の逆方向ペア再同期 (pairresync -restore)	×	×	○※	×	○※	×
コピー処理の中断 (pairsplit -E)	○	○	○	○	○	○
ペア解除 (pairsplit -S)	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- ：操作できます
- ×

×：操作できません（コマンド拒否）

注※

同一ボリューム内に Volume Migration の移動元ボリュームがある場合は操作できません。

- GAD セカンダリボリュームと ShadowImage プライマリボリュームを共有した場合の、GAD のペア状態と ShadowImage の操作の関係

ShadowImage の操作	GAD ペアの状態および I/O モード				
	COPY	PAIR	SSUS	PSUE	SSWS
	Block	Mirror(RL)	Block	Block	Local
ペア生成 (paircreate)	○	○	○	○	○
ペア作成 - 分割 (paircreate -split)	×	○	○	○	○
ペア分割 (pairsplit)	×	○	○	○	○
正方向ペア再同期 (pairresync)	×	○	○	○	○
通常の逆方向ペア再同期 (pairresync -restore)	×	×	×	×	○
高速の逆方向ペア再同期 (pairresync -restore)	×	×	×	×	○※
コピー処理の中断 (pairsplit -E)	○	○	○	○	○
ペア解除 (pairsplit -S)	○	○	○	○	○

(凡例)

- : 操作できます
 - ×
- × : 操作できません (コマンド拒否)

注※

同一ボリューム内に Volume Migration の移動元ボリュームがある場合は操作できません。

GAD の詳細については、『global-active device ユーザガイド』を参照してください。

ShadowImage ペア作成前の事前準備と注意事項

ShadowImage を使用するために必要な事前準備について説明します。

- 4.1 ShadowImage ペア作成に必要なボリュームの作成
- 4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項

4.1 ShadowImage ペア作成に必要なボリュームの作成

ShadowImage ペアを作成する前に、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームで使用するボリュームを作成する必要があります。作成するボリュームがペアボリュームに必要な条件を満たすことを確認してください。

4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項

ペア作成や操作についての注意事項や制限事項、ペア状態について説明します。

関連概念

- [4.2.1 ShadowImage ペア作成時の注意事項](#)
- [4.2.3 ShadowImage ペアの分割の種類](#)
- [4.2.4 ShadowImage ペアの中断時の注意事項](#)
- [4.2.5 ShadowImage ペアの状態が PSUS に変わる契機](#)
- [4.2.6 ShadowImage ペアの分割時の注意事項](#)
- [4.2.7 ShadowImage ペアの再同期の種類](#)
- [4.2.8 ShadowImage ペアの再同期時の注意事項](#)
- [4.2.9 ShadowImage の Reverse Copy および Quick Restore の制限事項](#)
- [4.2.10 ShadowImage ペアの削除時の注意事項](#)

関連タスク

- [4.2.2 Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペアの作成](#)

4.2.1 ShadowImage ペア作成時の注意事項

- ペアの作成がホストのパフォーマンスに影響を与えるため、次のことに注意してください。
 - I/O 負荷の軽いときにペアを作成してください。
 - 同時に作成するペアの数を制限してください。
- セカンダリボリュームとして使用する LDEV に割り当てた MP ブレードは、ShadowImage ペアを作成することで、プライマリボリュームに割り当てた MP ブレードが割り当てられます。
- ShadowImage ペアを作成すると、プライマリボリュームのデータがセカンダリボリュームのデータにすべて上書きされます。そのため、ShadowImage ペアを作成する前に、万一に備えてセカンダリボリュームのバックアップデータを用意することをお勧めします。
- L2 ペアを作成する場合、L1 ペアの状態によって操作が失敗する場合があります。
- L1 ペアと L2 ペアを同時に作成する場合、[分割タイプ] に Non Split 以外を指定すると、L1 ペアが PSUS 状態になる前に L2 ペアの分割が開始されてしまうため、操作が失敗することがあります。
- システムオプションモード 905 が ON の状態で発行された Unmap コマンドの処理中に ShadowImage のペア作成を実施すると、ペア作成が失敗する場合があります。ペア作成が失敗した場合は、しばらく待ってから再度操作してください。再度操作してもペア作成を実施できない場合は、システムオプションモード 905 を OFF にしてから再度操作してください。

- WriteSame または Unmap コマンドの処理中に ShadowImage のペア作成を実施すると、ペア作成が失敗する場合があります。その場合は、WriteSame または Unmap コマンドの処理後に再度ペア作成を実施してください。
- ShadowImage のセカンダリボリュームを Thin Image のプライマリボリュームとして利用したい場合は、先に ShadowImage のペアを作成してから、Thin Image のペアを作成してください。
- ShadowImage のボリュームを Thin Image のプライマリボリュームとして利用したい場合は、使用可能な MU 番号がなければ、MU 番号が 0 から 2 の Thin Image ペアを削除してください。その後、ShadowImage のペアを作成してから、Thin Image のペアを作成し直してください。
- ShadowImage ペアの作成操作後に、サマリに表示しているペア数とリストに表示しているペア数などについて画面の表示に差異が出る場合は、構成変更中のおそれがあります。しばらく待ってから [ファイル] - [すべて更新] を選択して、構成情報を再読み込みさせてください。
- 暗号化に対応した DKA または FMD-HDE を使用している場合、暗号化したボリュームと暗号化していないボリュームで ShadowImage ペアを作成できます。例えば、プライマリボリュームに暗号化したボリュームを指定し、セカンダリボリュームに暗号化していないボリュームを指定してペアを作成できます。この場合、暗号化したプライマリボリュームのデータを暗号化していないセカンダリボリュームにコピーするため、セカンダリボリュームには暗号化されていないデータが格納されますのでご注意ください。
- ボリュームの容量が大きいほど、ペアを作成して PAIR 状態になるまでの時間は長くなります。また、仮想ボリュームの場合は、仮想ボリュームに割り当てられているページ数が多いほどペアを作成して PAIR 状態になるまでの時間は長くなります。仮想ボリュームに割り当てられているページ数が 0 のときでも、仮想ボリュームの容量が 256TB の場合は、ペアを作成して PAIR 状態になるまで 1 時間以上掛かりますのでご注意ください。
- [論理デバイス] 画面の [オプション] で [容量単位] を [block] にして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が同じであることを確認してください。[容量単位] を [GB] などのバイト単位で表示すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量に僅かな差があった場合に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量の差異が表れないことがあります。
- プライマリボリュームの T10 PI 属性とセカンダリボリュームの T10 PI 属性は、同じ値を設定する必要があります。
- 初期コピーでは、1 ペア当たりの多重度（同時コピーを実行できるジョブ数）が最大 24 でコピー処理が実行されますが、分割タイプに Steady Split または Quick Split を設定した場合、多重度は 1 になります。このため、分割タイプに Non Split を設定した場合と比較して、処理時間が長くなります。また、[ローカルレプリカオプション編集] 画面で、Quick/Steady Split 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)オプションを有効にしていると、分割タイプに Steady Split または Quick Split を設定した場合でも多重度は最大 24 になります。
- L1 ペアのプライマリボリュームのみを容量拡張した状態で、L2 ペアを作成することはできません。ペアを構成するすべてのボリュームの容量を拡張してから、L2 ペアを作成してください。

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.3 ShadowImage ペアを作成する](#)

4.2.2 Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペアの作成

Storage Navigator から ShadowImage ペアを作成する場合、次のステップで作成します。

操作手順

1. ペア構成選択
2. プライマリボリューム選択
3. セカンダリボリューム選択
4. 確認

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)
- [\(1\) Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペア構成の考え方](#)

関連タスク

- [5.3 ShadowImage ペアを作成する](#)

関連参照

- [\(2\) Storage Navigator の GUI 操作でペア構成の異なる複数の ShadowImage ペアを同時に作成する方法](#)

(1) Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペア構成の考え方

[ペア構成選択] 画面では、ペアトポロジタイプを指定することで、プライマリボリュームに対するセカンダリボリューム数を自由に設定できます。[プライマリボリューム選択] 画面で複数のボリュームを選択した場合、すべてのプライマリボリュームに同じペアトポロジタイプが適用されます。ただし、すでにペアの組まれているプライマリボリュームを選択した場合、ペア作成操作では既存のペア構成を解除できません。

関連タスク

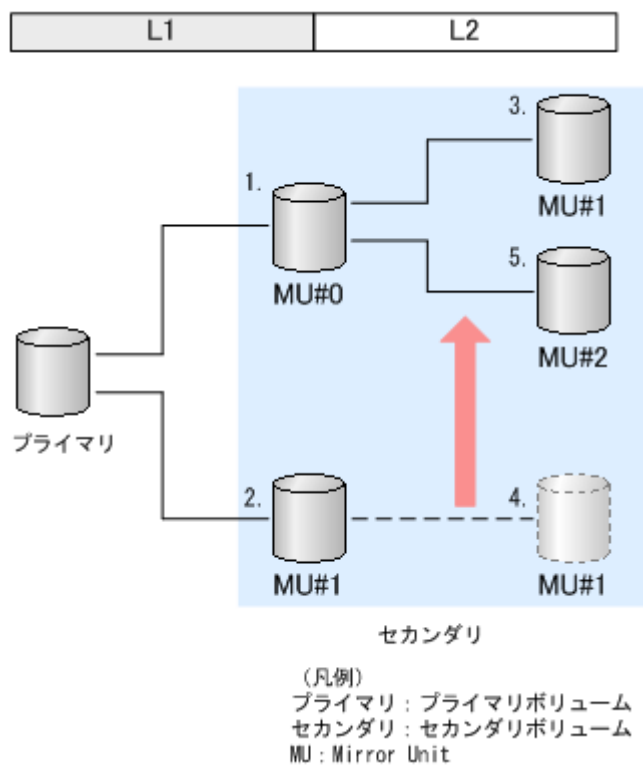
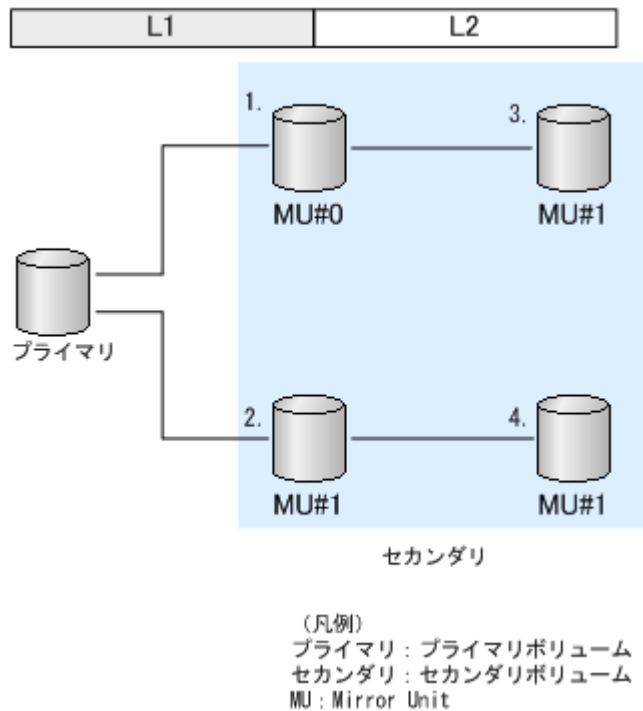
- [4.2.2 Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペアの作成](#)

(2) Storage Navigator の GUI 操作でペア構成の異なる複数の ShadowImage ペアを同時に作成する方法

ペア構成の異なる複数のペアを同時に作成する場合、次に示すどちらかの方法で作成します。

ミラーユニットを編集する

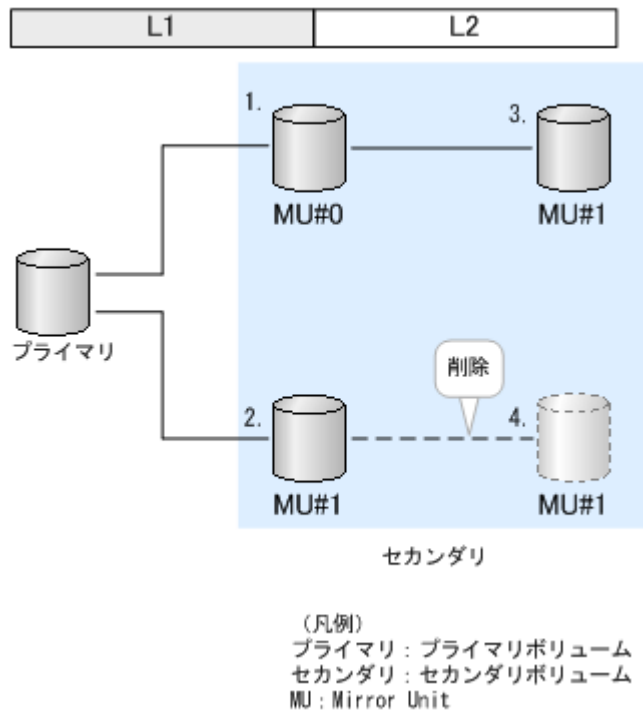
[ペア構成選択] 画面でペアトポロジタイプを設定したあと、[セカンダリボリューム選択] 画面で [ミラーユニット編集] 操作することで、ペア構成を変更できます。1 つ目の図の例では、まず 1:2:1 で構成したペアを作成します。その後、4 のペアに対して [ミラーユニット編集] 操作をして L1 を 0、L2 を 2 に変更することで 2 つ目の図に示すように、4 のボリュームを 5 の位置に移動してペアの構成を変更できます。



大きなペアを構成してから余分なペアを削除する

まず [ペア構成選択] 画面で、構成したいペア構成のうち最大の構成に合わせてペアトポロジタイプを設定します。その後 [セカンダリボリューム選択] 画面で [削除] 操作することで、ペア構成を削除できます。

例えば、[ペア構成選択] 画面で次の図の構成を作成します。その後、[セカンダリボリューム選択] 画面で 4 のボリュームを選択して [削除] 操作ができます。



関連タスク

- [4.2.2 Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペアの作成](#)

4.2.3 ShadowImage ペアの分割の種類

- [Non Split]：ペア作成後にペア分割を実施しません。
- [Steady Split]：すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。
- [Quick Split]：ペアの分割が指示されたあと、すぐにペアを分割します。ペアの分割が指示されてからすぐにセカンダリボリュームに対して Read/Write 処理を実施したい場合に指定します。残りの差分データは、分割後にバックグラウンドでセカンダリボリュームにコピーします。
- [コンシステンシーグループにあるすべてのペアを分割する]：コンシステンシーグループ内のすべてのペアを同時に分割します。コンシステンシーグループ指定のペアを分割するには、RAID Manager が必要です。詳細については、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。
- ペアの分割 (Non Split/Steady Split/Quick Split) は、1 ペア当たりのコピー処理の多重度がデフォルトでは 1 です。ただし、Quick/Steady Split 多重化オプションを設定することで、1 ペア当たりのコピー処理の多重度を最大 24 に変更できます。ローカルレプリカオプションは、Storage Navigator または RAID Manager から設定できます。

関連概念

- [2.5.2 Storage Navigator または RAID Manager で設定できるオプション](#)
- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.4 ShadowImage ペアを分割する](#)
- [6.5.1 ShadowImage のローカルレプリカオプションを変更する](#)

関連参照

- [付録 A.1.3 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド（その他の操作）](#)
- [付録 B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード](#)

4.2.4 ShadowImage ペアの中断時の注意事項

ShadowImage ペアを中断すると、中断時のペア状態によらず ShadowImage ペアは PSUE 状態になります。このとき、プライマリボリュームへの Write I/O は続行するため、プライマリボリュームの全トラックが差分データとして保存されます。ペアの作成を中断したペアを再同期すると、ペアの状態は COPY(RS)/COPY に変わり、プライマリボリューム全体をセカンダリボリュームにコピーします。分割したペアの場合、再同期の処理は短時間で完了します。しかし、コピー処理を中断したペアの再同期には、初期コピー操作と同じだけ時間が掛かります。

何らかの理由でペアが同期できない場合、自動的にコピー処理を中断します。また、更新コピー操作に関連するエラーを検出した場合にも、自動的にコピー処理を中断します。

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.7 ShadowImage ペアを中断する](#)

4.2.5 ShadowImage ペアの状態が PSUS に変わる契機

システムオプションモード 459 の値(ON または OFF、デフォルトの値は ON)と、セカンダリボリュームまたはセカンダリボリュームに関連づけられたプール内のボリュームが外部ボリュームか内部ボリュームかによって、PSUS(SP)/PSUS 状態または COPY(SP)/COPY 状態での動作に違いがあります。

システムオプションモード 459	セカンダリボリュームの種類※	PSUS(SP)/PSUS 状態または COPY(SP)/COPY 状態での動作
OFF	内部ボリューム	すべての差分データをストレージシステム内のキャッシュにコピーしたあと、ペア状態を PSUS 状態に変更します。
	外部ボリューム	
ON	内部ボリューム	すべての差分データをストレージシステム内のキャッシュにコピーし、外部ストレージシステムへデステージングしたあと、ペア状態を PSUS 状態に変更します。
	外部ボリューム	

注※

セカンダリボリュームが Dynamic Provisioning のボリュームのときは、セカンダリボリュームに関連づけられたプールの先頭プールボリュームの種類が内部ボリュームか外部ボリュームかを指します。

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.4 ShadowImage ペアを分割する](#)

4.2.6 ShadowImage ペアの分割時の注意事項

- ・ プライマリボリュームに対する Write I/O を実行中にペアを分割すると、Write I/O の一部しかセカンダリボリュームに書き込まれないことがあります。すべての Write I/O がセカンダリボリュームに書き込まれていることを保証する必要がある場合は、プライマリボリュームに対する I/O を停止してからペアを分割してください。セカンダリボリュームのデータ整合性（セカンダリボリュームにデータが書き込まれる順序）を維持したい場合は、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使ってペアを分割するか、プライマリボリュームに対する I/O を停止してからペアを分割してください。
- ・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータは、ペアの状態が COPY(SP)/COPY または PSUS(SP)/PSUS から PSUS に変更されたときに同期します。ShadowImage の更新コピーは非同期に実行されるため、ペアの状態が変更されるまでには多少の時間が掛かります。分割後にプライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータを確実に一致させておきたい場合は、あらかじめホストサーバからプライマリボリュームに対する Write 操作を停止してください。プライマリボリュームに対する Write 操作を停止すれば、分割の処理中にプライマリボリュームが更新されなくなり、確実にプライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期が保てます。
- ・ 既存のペアを分割するとき、操作の前にプライマリボリュームに対するホストからのアクセスを停止することで操作は早く完了します。
- ・ 初期コピー中のペアを分割すると、初期コピーがキャンセルされて、分割後にコピー処理が再実行されます。初期コピーでは、1 ペア当たりの多重度（同時コピーを実行できるジョブ数）が最大 24 でコピー処理が実行されますが、分割後のコピー処理は多重度が最大 1 になることがあります。このため、初期コピー完了まで待ってから分割する場合と比較して、処理時間が長くなることがあります。
- ・ ペア分割のコピー処理では、差分データが存在しない場合でも差分データの有無を検索するため、処理に時間がかかります。差分データの検索時間は、ボリュームの容量が大きくなるほど長くなり、256TB の場合 10 分以上かかる場合があります。

関連概念

- ・ [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)
- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

関連タスク

- ・ [5.4 ShadowImage ペアを分割する](#)

4.2.7 ShadowImage ペアの再同期の種類

- ・ 正方向の再同期（プライマリボリュームからセカンダリボリューム）、および逆方向の再同期（セカンダリボリュームからプライマリボリューム）ができます。
 - Normal Copy または Quick Resync を正方向と逆方向に実行できます。
 - プライマリボリュームは、Normal Copy 操作中、Read/Write の両操作でホストからアクセスできます。セカンダリボリュームは、Normal Copy 操作中にホストからアクセスできなくなります。
 - プライマリボリュームは、Reverse Copy 操作中、アクセスできません。



注意

コピー中にホストからプライマリボリュームへの書き込みがなかった場合も、プライマリボリュームのデータとセカンダリボリュームのデータが一致しないことがあります。プライマリボリュームとセカンダリボリュームのデータを確実に一致させるためには、ペアを分割して PSUS 状態にする必要があります。

- ・ プライマリボリュームからセカンダリボリュームへの正方向の **Quick Resync** では、セカンダリボリュームのデータを再同期しないで、ペアの状態を **PAIR**※に変更します。差分データは、更新コピーを実行するとき、セカンダリボリュームにコピーされます。

注※

ペアの状態は **COPY(RS)/COPY** に遷移してから **PAIR** へ遷移します。

- ・ プライマリボリュームは、**Quick Resync** 操作中にすべてのホストから **Read/Write** でアクセスできる状態になります。
- ・ 操作中にホストからの **I/O** がないとき、正方向の **Quick Resync** では、プライマリボリュームとセカンダリボリュームにあるデータが同じであることが確認できません。ペアを分割して、データが同じであることを確認する必要があります。
- ・ 逆方向の **Quick Resync** (**Quick Restore** と呼ばれる) では、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは交替します。データをコピーしないでペアが **PAIR** 状態※になります。

注※

ペアの状態は **COPY(RS-R)/RCPY** に遷移してから **PAIR** へ遷移します。

- ・ プライマリボリュームとセカンダリボリュームは、本操作中にアクセスできません。**Reverse Copy** 操作が完了すると、プライマリボリュームはアクセスができます。
- ・ プライマリボリュームとセカンダリボリューム間の差分データが小さいときは、**Reverse Copy** 操作は、**Quick Restore** 操作よりも早く完了します。
- ・ ペアの再同期 (**Normal Resync/Reverse Copy**) は、1 ペア当たりのコピー処理の多重度がデフォルトでは 1 です。ただし、**Normal Resync** 多重化オプション、**Reverse Copy** 多重化オプションを設定することで、1 ペア当たりのコピー処理の多重度を最大 24 に変更できます。ローカルレプリカオプションは、**Storage Navigator** または **RAID Manager** から設定できます。

関連概念

- ・ [2.5.2 Storage Navigator または RAID Manager で設定できるオプション](#)
- ・ [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- ・ [5.6 ShadowImage ペアを再同期する](#)
- ・ [6.5.1 ShadowImage のローカルレプリカオプションを変更する](#)

関連参照

- ・ [付録 A.1.3 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド \(その他の操作\)](#)
- ・ [付録 B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード](#)

4.2.8 ShadowImage ペアの再同期時の注意事項

- Quick Restore 中に LDEV の保守作業を実施すると、Quick Restore の処理時間が増加するおそれがあります。Quick Restore を決められた時間内に完了させる必要がある場合は、Quick Restore 中に保守作業を実施しないでください。
- Quick Restore 操作中に SVP や Storage Navigator から保守作業を実施すると、Quick Restore 操作の処理時間が増加するおそれがあります。Quick Restore 操作を決められた時間内に完了させる必要がある場合は、Quick Restore 操作中に保守作業を実施しないでください。
- Quick Restore の設定操作中に、Storage Navigator から設定操作すると、ShadowImage のペア状態が COPY(RS-R)/RCPY で停止したままになるおそれがあります。Quick Restore 操作を再開する場合は、Storage Navigator からの設定操作や待機中のタスクを終了してください。
- 一般的に再同期の時間は、PSUE 状態から実施するよりも、PSUS 状態から実施する方が早く終了します。これは、PSUE 状態からの再同期はプライマリボリュームのデータをすべてセカンダリボリュームにコピーしますが、PSUS 状態からの再同期はプライマリボリュームとセカンダリボリュームの差分だけコピーするためです。
- ペアボリュームの片方が暗号化ボリュームでもう片方が非暗号化ボリュームの場合、Quick Restore を実行すると、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの暗号化状態は逆になります。
- Quick Restore を実施した場合、Storage Navigator は古い情報を表示することがあります。Quick Restore の実施後は、表示情報を最新の情報に更新してください。
- Quick Restore でプライマリボリュームとセカンダリボリュームを非同期にしておくためには、Quick Restore の実行前に Swap&Freeze オプションを有効にします。更新コピー操作は、Quick Restore が完了し、ペアが PAIR 状態になったあと、抑止されます。
- Reverse Copy または Quick Restore 操作が異常終了した場合、ペアの状態は PSUE に変わります。この場合、プライマリボリュームがすべてのホストに対して Read/Write 可能になりますが、プライマリボリュームにあるデータは正しいことを保証できません。セカンダリボリュームは Write できない状態のままで、このデータも正しいことを保証できません。同じプライマリボリュームを共有するほかの ShadowImage のペアは変更されません。
- Quick Split を実行した直後のペアに対して再同期操作 (Normal Resync または Quick Resync) を実行すると、再同期操作が異常終了することがあります。Quick Split を実行したあとは 20 秒ほど時間を置いてから再同期操作を実行してください。
- Normal Resync または Reverse Copy の操作では、差分データが存在しない場合でも差分データの有無を検索するため、処理に時間がかかります。差分データの検索時間は、ボリュームの容量が大きくなるほど長くなり、256TB の場合 10 分以上かかる場合があります。

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.6 ShadowImage ペアを再同期する](#)

4.2.9 ShadowImage の Reverse Copy および Quick Restore の制限事項

- どちらの Reverse Resync オプションも PSUS 状態にあるペアに対して実行できます。
- 同じプライマリボリュームを共有するペアは、PSUS または PSUE の状態でなければなりません。

- ペアボリュームのどちらかに **Quick Format** が実行されている場合、**Quick Restore** 操作は実行できません。
- ペアが、**TrueCopy** または **Universal Replicator** とボリュームを共有している場合で、**TC** または **UR** ペアがサスペンドされていない場合、どちらの逆方向の再同期操作も実行できません。
- **Reverse Resync** 操作が行われているときに、**ShadowImage** のボリュームを使って **TC** ペアまたは **UR** ペアを作成できません。
- **Reverse Copy** または **Quick Restore** の操作中に、同じプライマリボリュームを共有する任意のペアを作成、分割、再同期できません。ただし、ペアを解除したり、サスペンドしたりすることはできます。
- プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのどちらか一方だけが **Dynamic Provisioning** の仮想ボリュームのペアには、**Quick Restore** は使用できません。また、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのどちらかの容量削減機能が有効である場合は **Quick Restore** は使用できません。
- **ShadowImage** ペアの場合、対象ペアのプライマリボリュームに **Thin Image** ペアがある場合には、**Quick Restore** は使用できません。
- 対象ペアのセカンダリボリュームに **Thin Image** ペアがある場合には、**Quick Restore** は使用できません。

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.6 ShadowImage ペアを再同期する](#)

4.2.10 ShadowImage ペアの削除時の注意事項

- **ShadowImage** ペアを削除すると、ボリュームの状態は **SMPL(PD)** から **SMPL** に変わります。**SMPL** になると、画面には表示されなくなります。**RAID Manager** の **pairedisplay** コマンドでもボリュームの状態を確認できますが、このコマンドでは **SMPL** と **SMPL(PD)** を区別できません。**RAID Manager** で **SMPL** と **SMPL(PD)** を区別するためには、さらに **inqraid** コマンドでそのボリュームが **ShadowImage** で使用されているかどうかを確認してください。ボリュームが **ShadowImage** で使用されている場合、ボリュームの状態は **SMPL(PD)** となり、使用されていない場合、**SMPL** となります。
- **ShadowImage** ペアを削除してから、そのペアに対してペア操作、イベント待ち合わせなどのコマンドを実行する場合、ボリュームの状態が **SMPL(PD)** から **SMPL** になるまでの時間（推奨時間は 10 秒）を置いてください。時間を置かないでコマンドを実行した場合、コマンドが異常終了するおそれがあります。
- ペア状態が **PSUS(SP)/PSUS** の場合は操作できません。
- **ShadowImage** ペアの削除操作後に、サマリに表示しているペア数とリストに表示しているペア数などについて画面の表示に差異が出る場合は、構成変更中のおそれがあります。しばらく待ってから [ファイル] - [すべて更新] を選択して、構成情報を再読み込みさせてください。
- ペア作成時に割り当てが変更になったセカンダリボリュームの **MP** ブレードは、**ShadowImage** ペアを削除することで、元の **MP** ブレードを再度割り当てます。ただし、次のどちらかの場合は、**MP** ブレードを再度割り当てません。
 - ユーザが、**ShadowImage** ペアのプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの **MP** ブレードの割り当てを変更した。

- ShadowImage ペアを削除したときのセカンダリボリュームが属する MP ブレードの Write ペンディング率が 50%以上、または元の MP ブレードの Write ペンディング率が 50%以上である。
この操作は、DKCMAIN プログラムバージョン 80-05-31-00/00-02、80-05-47-60/00-02、80-05-60-60/02-01 以降の場合に適用されます。
また、元の MP ブレードが取り外されている場合は、任意の MP ブレードを割り当てます。
- ペアの再同期を実行した直後のペアに対して削除操作を実行すると、削除操作が異常終了することがあります。時間をおいてから削除操作を再実行してください。

関連概念

- [4.2 ShadowImage ペア操作に関する注意事項](#)

関連タスク

- [5.8 ShadowImage ペアを削除する](#)

ShadowImage ペアの操作

ShadowImage のペア操作の実行について説明します。

- 5.1 ShadowImage ペアの操作とは
- 5.2 ShadowImage ペアの状態を確認する
- 5.3 ShadowImage ペアを作成する
- 5.4 ShadowImage ペアを分割する
- 5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能
- 5.6 ShadowImage ペアを再同期する
- 5.7 ShadowImage ペアを中断する
- 5.8 ShadowImage ペアを削除する

5.1 ShadowImage ペアの操作とは

ShadowImage のペア操作の概要を次に示します。

- 事前にペアの状態を確認します。各ペア操作は、特定のペア状態のときだけ実行できます。また、ペア操作後は、ペア操作が終了したことだけでなく、ペアの状態が変わったことを確認する必要があります。
- ペアを作成します。プライマリボリュームの内容がセカンダリボリュームにコピーされます。また、ペアの作成と分割を同時に実施することもできます。作成と分割を同時に実施するとホストがセカンダリボリュームにすばやく読み書きできます。
- ペアを分割して、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームを分けます。セカンダリボリュームに接続したホスト上のアプリケーションでセカンダリボリュームのデータを使用できます。
- ペアを再同期して、変更があったプライマリボリュームのデータをセカンダリボリュームにコピーします。
- ペアを削除します。ペアの削除後、ペアボリューム自体は削除されないでそのまま残りますが、プライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア関係は解消されます。

ShadowImage では、ペア操作を実施すると、コピーを開始する前に差分テーブルを初期化します。差分テーブルの初期化は、操作対象のペアに対して、ストレージシステム内で 1 ペアずつ実施します。このため、大容量のボリュームを使用しているペアに対してペア操作を実施すると、コピーを開始するまでに時間が掛かることがあります。

5.2 ShadowImage ペアの状態を確認する

ShadowImage の各ペア操作は特定のペア状態のときだけ実施できます。ペア操作を実行したいときは、正常に実行できるペアの状態であることを確認してください。

関連概念

- [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

関連タスク

- [6.1.2 ShadowImage ペアのプロパティを参照する](#)
- [6.1.3 ShadowImage ペアの一致率を参照する](#)

5.3 ShadowImage ペアを作成する

ShadowImage ペアの作成と分割を同時に実行することもできます。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール
- ShadowImage のペアボリュームが準備できていること

操作手順

1. 次のどれかの方法で、[SI ペア作成] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。[SI ペア] タブで [SI ペア作成] をクリックします。

Storage Navigator のよく使うタスクを使用する場合：

- ・ [よく使うタスク] から [SI ペア作成] を選択します。

Storage Navigator の [ローカルレプリケーション] 画面を使用する場合：

- ・ [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [ローカルレプリケーション] を選択します。[SI ペア] タブで [SI ペア作成] をクリックします。
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [レプリケーション] - [ローカルレプリケーション] を選択します。[アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [SI ペア作成] を選択します。
2. [コピータイプ] で [ShadowImage] を選択します。
 3. [エミュレーションタイプ] を選択します。
 4. [ペアトポロジタイプ] を選択します。
- 作成するペア構成に合わせて、各チェックボックスを選択します。
5. [分割タイプ] を選択します。
 6. [コピー速度] を選択します。システムのパフォーマンスは、選択されたコピー速度に影響を受けます。コピー速度が遅ければ影響は少なく、コピー速度が速ければ影響は大きくなります。



メモ

[低速] を指定すると、初期コピー処理の速度は遅くなりますが、ストレージシステムの I/O 性能への影響を最小限にできます。

[高速] を指定すると、I/O 性能への影響は大きくなりますが、初期コピーが早く完了します。

7. [次へ] をクリックします。
 8. 必要に応じて、LDEV をポート名、ホストグループ名、または iSCSI ターゲットエイリアスでフィルタした上で、画面左側の [利用可能な LDEV] テーブルからプライマリボリュームにしたい LDEV のチェックボックスを選択し、[追加] をクリックします。
- 選択された LDEV が、画面右側の [選択した LDEV] テーブルに表示されます。
- nondisruptive migration のボリュームは [利用可能な LDEV] テーブルに表示されません。
9. [次へ] をクリックします。
 10. 次のどちらかの方法で、セカンダリボリュームを選択します。

- ・ [選択したペア] テーブルに表示されている LDEV に、上から順にセカンダリボリュームを設定したい場合は、画面上側の [利用可能な LDEV] テーブルからセカンダリボリュームにしたい LDEV のチェックボックスを選択し、[セット] をクリックする
- ・ [選択したペア] テーブルの任意のプライマリボリュームにセカンダリボリュームを設定したい場合は、画面上側の [利用可能な LDEV] テーブルからセカンダリボリュームにしたい LDEV のチェックボックスを選択し、さらに画面下側の [選択したペア] テーブルから任意のプライマリボリュームのチェックボックスを選択して [セット] をクリックする

nondisruptive migration のボリュームは [利用可能な LDEV] テーブルに表示されません。また、セカンダリボリューム選択時には、以下の操作ができます。

- ・ [容量] を選択すると、LDEV の容量ごとに [利用可能な LDEV] テーブル、および [選択したペア] テーブルを表示できます。

- ・ [ポート名]、[ホストグループ名]、または [iSCSI ターゲットエイリアス] を選択すると、それぞれポート名、ホストグループ名、または iSCSI ターゲットエイリアスごとに [利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV を選択できます。
 - ・ [ペアボリュームを除く] をチェックすると、ペアが組まれている LDEV は表示されません。
 - ・ [ペアソート] を選択すると、[選択したペア] の並び順を変更できます。
 - ・ [オプション変更] で、ペアの [分割タイプ] と [コピー速度] を変更できます。
 - ・ [ミラーユニット編集] で、選択した LDEV のペアの構成を変更できます。複数のペア構成を同時に変更できます。1 つのペア構成内で同時に変更できるのは 1 ペアだけです。
 - ・ [削除] で、選択した LDEV のペアを削除できます。
11. [完了] をクリックします。
 12. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
 13. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

14. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- ・ [1.2 ShadowImage の利用法](#)
- ・ [2.3 ShadowImage ペアボリューム作成の計画](#)
- ・ [4.2.1 ShadowImage ペア作成時の注意事項](#)

関連タスク

- ・ [4.2.2 Storage Navigator の GUI 操作での ShadowImage ペアの作成](#)

関連参照

- ・ [付録 B.7 SI ペア作成ウィザード](#)
- ・ [付録 B.12 \[ミラーユニット編集\] 画面](#)
- ・ [付録 B.13 \[オプション変更\] 画面](#)

5.4 ShadowImage ペアを分割する

ペアを分割する方法について説明します。



メモ

L1 ペアと L2 ペアの状態によっては、ペアの分割ができない場合があります。

前提条件

- ・ 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [SI ペア] タブで分割させたいペアのチェックボックスを選択します。
3. 次のどちらかの方法で、[ペア分割] 画面を表示します。
 - ・ [SI ペア] タブで [ペア分割] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ペア分割] を選択します。
4. [分割タイプ] を選択します。
5. [コピー速度] を選択します。コピー速度はホスト I/O のパフォーマンスに影響を与えます。コピー速度が遅ければ影響は少なく、コピー速度が速ければ影響は大きくなります。選択した速度は操作対象のすべてのペアに適用します。
6. [完了] をクリックします。
7. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
8. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

9. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- ・ [4.2.3 ShadowImage ペアの分割の種類](#)
- ・ [4.2.5 ShadowImage ペアの状態が PSUS に変わる契機](#)
- ・ [4.2.6 ShadowImage ペアの分割時の注意事項](#)

関連参照

- ・ [付録 B.8 ペア分割ウィザード](#)

5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能

コンシステンシーグループ指定ペア分割機能について説明します。

関連概念

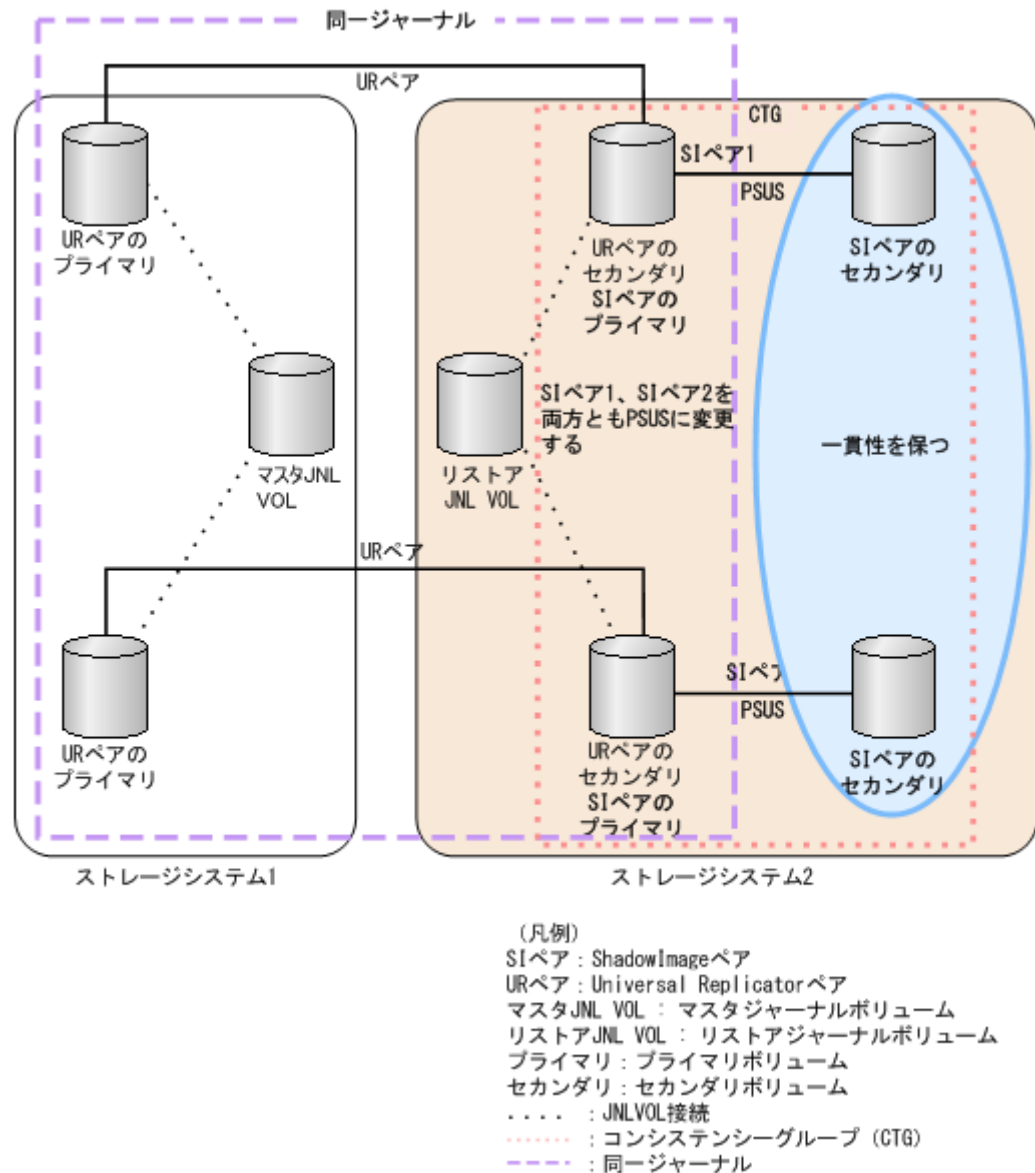
- ・ [5.5.1 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能とは](#)
- ・ [5.5.3 RAID Manager からコンシステンシーグループの ShadowImage ペアを分割する](#)
- ・ [5.5.4 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能実行可否と実行後のペア状態](#)

関連タスク

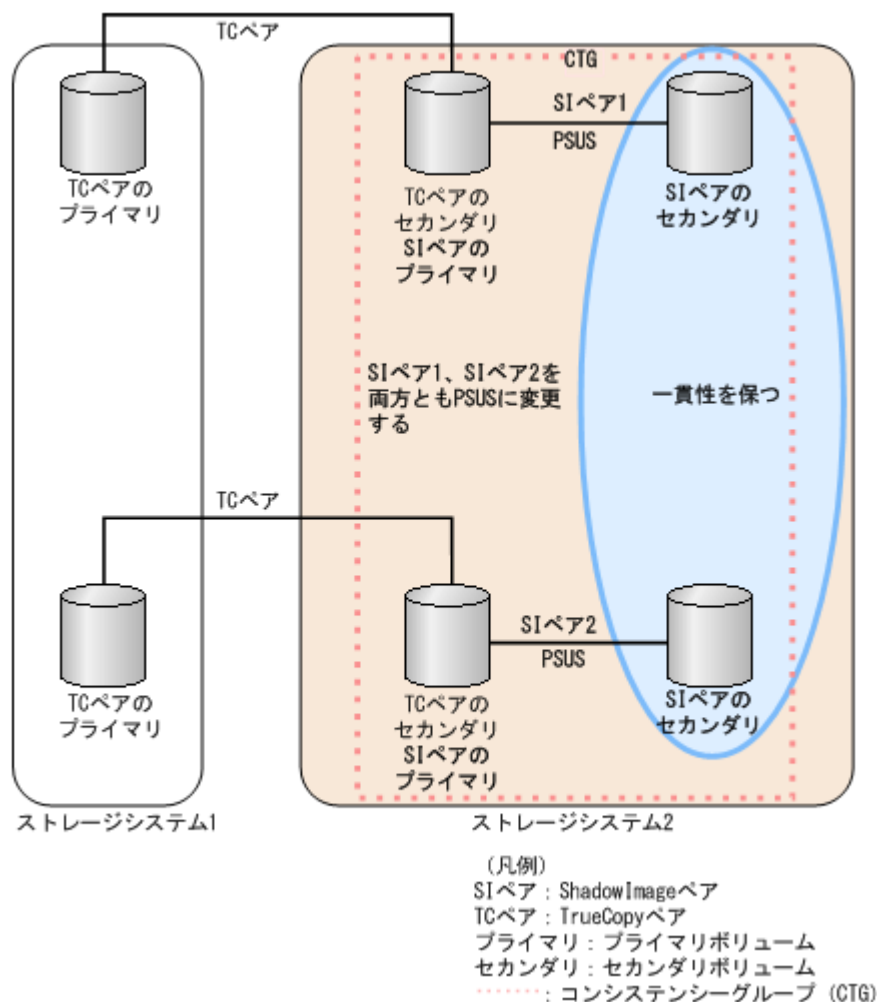
- 5.5.2 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能操作の流れ

5.5.1 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能とは

ShadowImage ペア (SI ペア) のプライマリボリュームが、Universal Replicator ペア (UR ペア) または TrueCopy ペア (TC ペア) のセカンダリボリュームと共有してペアを複数作成する場合、複数の SI ペアを同一のコンシステンシーグループ ID (CTG ID) に設定してペアを作成することで、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使って SI ペアの複数のセカンダリボリュームの一貫性を維持できます。次の図に、SI ペアと UR ペアを連携させた場合の、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能について示します。



次の図に、SI ペアと TC ペアを連携させた場合の、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能について示します。



ShadowImage が、Universal Replicator および TrueCopy とペアを共有している場合の、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能の実行可否について、次の表に示します。

複数の共有ペア (ShadowImage プライマリボリュームと共有ボリューム)	複数の共有ペアの状態 (同一)	コンシステンシーグループ指定ペア分割機能実行可否
Universal Replicator (副)	COPY	×
	PAIR	○
	PSUS	○
	PSUE	○
TrueCopy (副)	COPY	×
	PAIR	○
	PSUS	○
	PSUE	○

(凡例)

- : 実行できる
 × : 実行できない



注意

以下の構成の場合は、SI ペアの複数のセカンダリボリュームの一貫性を維持できません。

- SI ペアのプライマリボリュームが、UR ペアまたは TC ペアのセカンダリボリュームと共有している複数の UR ペア、または複数の TC-MF ペアのペア状態が同一でない構成。
- SI ペアのプライマリボリュームが、UR ペアのセカンダリボリュームと共有する場合で、UR ペアが登録されているジャーナルが同一でない構成。
- SI ペアのプライマリボリュームが UR ペアのセカンダリボリュームと共有する場合で、ペア状態が PAIR、COPY(PD)/COPY 以外の SI ペアがコンシステンシーグループに含まれている。

関連概念

- [5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能](#)

5.5.2 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能操作の流れ

RAID Manager でペアを作成して Storage Navigator からペア操作を実行した場合、コンシステンシーグループ指定ペア分割オプションは無効となります。つまり、コンシステンシーグループ指定ペア分割操作は、すべてのペア操作が RAID Manager を使用して実行されたときだけ正しく実行します。

コンシステンシーグループ指定ペア分割操作の流れを次に示します。

前提条件

- すべてのペア操作を RAID Manager を使用して実行すること。

操作手順

1. コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用して分割する ShadowImage ペアへのコンシステンシーグループを定義してください。
2. コンシステンシーグループ指定ペア分割オプションを指定して、ペアを作成してください。
3. コンシステンシーグループ内の SI ペアのペア状態がすべて PAIR または COPY(PD)/COPY であることを確認してください。
4. コンシステンシーグループ内のペアを分割してください。それらのペアは同時に分割されます。

関連概念

- [5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能](#)

5.5.3 RAID Manager からコンシステンシーグループの ShadowImage ペアを分割する

RAID Manager を使用して、コンシステンシーグループ内のすべての ShadowImage ペアを分割できます（時間指定はできません）。

コンシステンシーグループ指定ペア分割操作を実行する手順を次に示します。

RAID Manager でペアを作成して Storage Navigator からペア操作を実行した場合、コンシステンシーグループ指定ペア分割オプションは無効となります。つまり、コンシステンシーグループ指定ペア分割操作は、すべてのペア操作が RAID Manager を使用して実行されたときだけ正しく実行します。

前提条件

- すべてのペア操作を RAID Manager を使用して実行すること。

操作手順

pairsplit -g<group>コマンドを指定して、ペアを分割してください。

詳細については、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- [5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能](#)

5.5.4 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能実行可否と実行後のペア状態

コンシステンシーグループにペア状態が PAIR 以外のペアが混在している場合の、コンシステンシーグループ指定ペア分割機能の実行可否と実行後のペア状態について、次の表に示します。

混在するペア状態	コンシステンシーグループ指定ペア分割機能実行可否	実行後のペア状態
COPY(PD)/COPY	○	PSUS
COPY(SP)/COPY	○※1	PSUS
PSUS(SP)/PSUS	○※1	PSUS
PSUS	○※1	PSUS
COPY(RS)/COPY	× 次の実行結果となり、コマンドが異常終了します。※2 [EX_CMDRJE] An order to the control/command device was rejected	実行前と同じ
COPY(RS-R)/RCPY	× 次の実行結果となり、コマンドが異常終了します。※2 [EX_CMDRJE] An order to the control/command device was rejected※2	実行前と同じ
PSUE	× 次の実行結果となり、コマンドが異常終了します。 [EX_CMDRJE] An order to the control/command device was rejected	実行前と同じ

(凡例)

- ：実行できる
- ×：実行できない

注※1

ペア状態が PAIR、または COPY(PD)/COPY でない SI ペアについては、ペアの一貫性を保証しません。

注※2

Universal Replicator のセカンダリボリュームと ShadowImage のプライマリボリュームを共有する構成の場合は、コマンドが正常終了することがあります。コマンド実行後に pairdisplay コマンドを使用して、コンシステンシーグループ内のペアが PSUS に遷移していることを確認してください。

関連概念

- [5.5 コンシステンシーグループを指定した ShadowImage ペアの分割機能](#)

5.6 ShadowImage ペアを再同期する

ユーザが分割した、またはシステムが中断したペアを再同期します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール
- セカンダリボリュームがオフラインであること。セカンダリボリュームからプライマリボリュームに再同期する場合は、プライマリボリュームもオフラインであること。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [SI ペア] タブで再同期させたいペアのチェックボックスを選択します。
3. 次のどちらかの方法で、[ペア再同期] 画面を表示します。
 - [SI ペア] タブで [他のタスク] - [ペア再同期] をクリックします。
 - [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ペア再同期] を選択します。
4. [再同期タイプ] を選択します。
5. [コピー速度] を選択します。コピー速度はホスト I/O のパフォーマンスに影響を与えます。コピー速度が遅ければ影響は少なく、コピー速度が速ければ影響は大きくなります。選択した速度は、操作対象のすべてのペアに適用します。
6. [完了] をクリックします。
7. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
8. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

9. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- [4.2.7 ShadowImage ペアの再同期の種類](#)
- [4.2.8 ShadowImage ペアの再同期時の注意事項](#)
- [4.2.9 ShadowImage の Reverse Copy および Quick Restore の制限事項](#)

関連参照

- [付録 B.9 ペア再同期ウィザード](#)

5.7 ShadowImage ペアを中断する

ペアを中断する方法について説明します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール

操作手順

- 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
- [SI ペア] タブで中断させたいペアのチェックボックスを選択します。
- 次のどちらかの方法で、[ペア中断] 画面を表示します。
 - [SI ペア] タブで [他のタスク] - [ペア中断] をクリックします。
 - [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ペア中断] を選択します。
- [ペア中断] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
- [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

- [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- [4.2.4 ShadowImage ペアの中断時の注意事項](#)

関連参照

- [付録 B.10 \[ペア中断\] 画面](#)

5.8 ShadowImage ペアを削除する

ペアの必要がなくなったとき、ペアを削除できます。ペアを削除すると、プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームは、データはそのまま、ペアが解除されます。ペア削除後は、両ボリュームとも別のペアとして使用できます。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール
- プライマリボリュームとセカンダリボリュームが同期していること。

次の手順でプライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させてください。

1. プライマリボリュームへのすべての書き込み I/O が完了するのを待ちます。
2. プライマリボリュームをオフラインに設定します。
3. ペアを分割します。ここでセカンダリボリュームに差分データをコピーします。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- ・ [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [SI ペア] タブで削除したいペアのチェックボックスを選択します。
 3. 次のどちらかの方法で、[ペア削除] 画面を表示します。
 - ・ [SI ペア] タブで [他のタスク] - [ペア削除] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ペア削除] を選択します。
 4. [ペア削除] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
 5. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

6. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- ・ [4.2.10 ShadowImage ペアの削除時の注意事項](#)

関連参照

- ・ [付録 B.11 \[ペア削除\] 画面](#)

ShadowImage ペアの状態確認とメンテナンス

定期的に ShadowImage の稼働状況を確認することで、何らかの障害が発生した場合に早急な対応が可能になり、運用に与える影響を最小限に抑えることができます。

ShadowImage の稼働状況を確認する方法と保守情報について説明します。

- [6.1 ShadowImage ペアの情報を参照する](#)
- [6.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの情報を参照する](#)
- [6.3 ShadowImage ペア操作の履歴を参照する](#)
- [6.4 ライセンス容量を参照する](#)
- [6.5 ShadowImage システムを保守する](#)
- [6.6 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する](#)

6.1 ShadowImage ペアの情報を参照する

ペア数やペアの一覧、プロパティ、ペアの一致率に関する情報を参照できます。

関連概念

- [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

関連タスク

- [6.1.2 ShadowImage ペアのプロパティを参照する](#)
- [6.1.3 ShadowImage ペアの一致率を参照する](#)

6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する

操作手順

次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。

- Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。
- Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。

関連概念

- [4.2.6 ShadowImage ペアの分割時の注意事項](#)
- [5.2 ShadowImage ペアの状態を確認する](#)
- [6.1 ShadowImage ペアの情報を参照する](#)
- (1) [ShadowImage ペア状態の定義](#)

関連参照

- (2) [カスケード構成の L1 ペアへの操作指示と L2 のペア状態との関係](#)
- (3) [カスケード構成の L2 ペアへの操作指示と L1 のペア状態との関係](#)
- (4) [カスケード構成の L1/L2 ペアの状態によるノードボリュームの Read/Write 操作](#)
- (5) [カスケード構成の L2 ペアの状態によるリーフボリュームの Read/Write 操作](#)
- (6) [ShadowImage ペアの操作指示とペア状態の関係](#)
- (7) [プライマリボリュームを複数のセカンダリボリュームで共有する場合の ShadowImage ペアの操作指示と実行できる操作](#)
- [付録 B.2 \[ローカルレプリケーション\] 画面](#)

(1) ShadowImage ペア状態の定義

ShadowImage ペア状態の定義を次の表に示します。ペア状態を確認するときは、更新ボタンをクリックしてペアデータが最新のものか確認してください。

Storage Navigator の画面では、ペア状態は「Storage Navigator でのペア状態/RAID Manager でのペア状態」という形式で表示されます。Storage Navigator でのペア状態と RAID Manager でのペア状態が同じ場合は、RAID Manager でのペア状態は表示されません。

状態	説明	プライマリ ボリューム アクセス	セカンダリ ボリューム アクセス
SMPL(PD)	ペア削除中の状態です。この状態では、ペア操作はできません。削除が完了すると単一のボリュームになります。	Read/Write 不可※4	Read/ Write 不 可
COPY(PD)/ COPY※2	ShadowImage ペアの作成操作を実行し、初期コピー実行中の状態を示します※1。システムは、プライマリボリュームに対して Read/Write 操作の受け付けを継続しますが、セカンダリボリュームに対しては Write 操作を禁止します。	Read/Write 可	Read だけ 可
PAIR	ShadowImage の初期コピー操作が完了し、ボリュームがペアになっていることを示します。プライマリボリュームからセカンダリボリュームへの更新コピーを実行します。ペア状態が PAIR の場合でもプライマリボリュームとセカンダリボリュームは同期しているとは限りません。	Read/Write 可	Read だけ 可
COPY(SP)/ COPY※2	ShadowImage が、通常モード (Steady Split) でペアの分割操作を受け付け、分割中であることを示します。プライマリボリュームの差分データをセカンダリボリュームにコピーしています※1。差分コピーが完了すると、ペアを分割します。分割したセカンダリボリュームのデータはペアを分割する時点のプライマリボリュームのデータと同じです。	Read/Write 可	Read だけ 可
PSUS(SP)/ PSUS※2	ShadowImage が、高速モード (Quick Split) でペアの分割操作を受け付け、分割中であることを示します。バックグラウンドでプライマリボリュームの差分データをセカンダリボリュームにコピーしています※1。PSUS(SP)/PSUS 状態のペアは削除できません。	Read/Write 可	Read/ Write 可
PSUS※3	ShadowImage ペアが分割していることを示します。システムは更新コピーの実行を停止します。セカンダリボリュームに対して Write 操作が実行できるようになります。ペアが PSUS 状態のときはプライマリボリュームとセカンダリボリュームの差分を保存しているため、あとですぐに再同期できます。	Read/Write 可	Read/ Write 可
COPY(RS)/ COPY※2	ShadowImage ペアに対して、再同期操作を受け付け、再同期によるコピー中であることを示します。COPY(RS)/COPY 状態のセカンダリボリュームに対する Write 操作は拒否されます※1。分割したペアが通常モードで再同期する場合は、プライマリボリュームの差分データだけをセカンダリボリュームにコピーします。PSUE 状態の (サスペンドされた) ペアを再同期する場合は、プライマリボリューム全体をセカンダリボリュームにコピーします。	Read/Write 可	Read だけ 可
COPY(RS-R)/ RCPY※2	ShadowImage ペアに対して、逆方向の再同期操作を受け付け、再同期によるコピー中であることを示します。COPY(RS-R)/RCPY 状態のセカンダリボリュームに対する Write 操作は拒否されます※1。セカンダリボリュームの差分データだけをプライマリボリュームにコピーします。逆方向または Quick Restore モードでの再同期中は、更新コピーは実行されません。	Read だけ 可	Read だけ 可

状態	説明	プライマリボリュームアクセス	セカンダリボリュームアクセス
PSUE	ShadowImage ペアはシステムがサスペンドしたことを示します。システムは、プライマリボリュームに対する Read/Write 操作の受け付けを継続します。セカンダリボリュームに対しては更新コピーを停止します。システムは、プライマリボリューム全体を差分データとして記録し、PSUE のペアを再同期すると、プライマリボリューム全体をセカンダリボリュームにコピーします。	Read/Write 可	Read だけ可

注※1

コピーの開始時期はペア数やシステム環境に依存します。

注※2

ペア状態は、「画面のペア状態/RAID Manager のペア状態」という書式で表示します。

注※3

RAID Manager の表示は、次のとおりです。

- ・ プライマリボリューム : PSUS
- ・ セカンダリボリューム : SSUS

注※4

SMPL(PD)に遷移する前の状態が Read/Write 可の場合は、Read/Write 可です。

関連概念

- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

(2) カスケード構成の L1 ペアへの操作指示と L2 のペア状態との関係

カスケード構成の L1、L2 ペアに対する操作も特定のペア状態である必要があります。

L2 ペアの状態	L1 ペアの操作				
	ペア作成	ペア分割	ペア再同期	ペア中断	ペア削除
COPY(PD)/COPY	○	○	○	○	○
PAIR	○	○	○	○	○
COPY(SP)/COPY	×	×	×	○	○
PSUS(SP)/PSUS	×	×	×	○	○
PSUS	○	○	○	○	○
COPY(RS)/COPY	○	○	○	○	○
PSUE	○	○	○	○	○

関連概念

- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

(3) カスケード構成の L2 ペアへの操作指示と L1 のペア状態との関係

L1 ペアの状態	L2 ペアの操作					
	ペア作成	ペア分割	ペア再同期 (正方向) ※1	ペア再同期 (逆方向) ※1	ペア中断	ペア削除
COPY(PD)/COPY	○	×	○	×	○	○
PAIR	○	×	○	×	○	○
COPY(SP)/COPY	○	×	○	×	○	○
PSUS(SP)/PSUS	×	×	○	×	○	○
PSUS	○	○※2	○	×	○	○
COPY(RS)/COPY	○	×	○	×	○	○
COPY(RS-R)/RCPY	○	×	○	×	○	○
PSUE	○	×	○	×	○	○

注※1

L2 ペアに対しては、Normal Copy または Quick Resync による再同期しか実行できません。
逆方向の再同期 (Reverse Copy または Quick Restore など) は実行できません。

注※2

L2 ペアを分割するには、先に L1 ペアを PSUS 状態にしておく必要があります。

関連概念

- [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

(4) カスケード構成の L1/L2 ペアの状態によるノードボリュームの Read/Write 操作

カスケード構成の L1、L2 ペアに対する操作も特定のペア状態である必要があります。

L1 ペアの 状態	L2 ペアの状態						
	COPY(PD) /COPY	PAIR	COPY(SP) /COPY	PSUS(SP) /PSUS	PSUS	COPY(RS) /COPY	PSUE
COPY(PD)/ COPY	Read only	Read only	Read only	Read only	Read only	Read only	Read only
PAIR							
COPY(SP)/ COPY							
PSUS(SP)/ PSUS	Read/ Write	Read/Write	Read/Write	Read/ Write	Read/ Write	Read/ Write	Read/ Write
PSUS							
COPY(RS)/ COPY	Read only	Read only	Read only	Read only	Read only	Read only	Read only
COPY(RS- R)/RCPY							
PSUE							

関連概念

- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

(5) カスケード構成の L2 ペアの状態によるリーフボリュームの Read/Write 操作

L2 ペアの状態						
COPY(PD)/ COPY	PAIR	COPY(SP)/ COPY	PSUS(SP)/ PSUS	PSUS	COPY(RS)/ COPY	PSUE
Read only	Read only	Read only	Read/Write	Read/Write	Read only	Read only

関連概念

- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

(6) ShadowImage ペアの操作指示とペア状態の関係

ホストから出されるペア操作指示と、指示を受けるペア状態の操作可否を、次の表に示します。

ペアの状態	ペアの操作				
	ペア分割	ペア再同期 (正方向)	ペア再同期 (逆方向)	ペア中断	ペア削除
SMPL(PD)	×	×	×	×	×
COPY(PD)/COPY	○	×	×	○	○
PAIR	○	×	×	○	○
PSUS	×	○	○	○	○
COPY(RS)/COPY	×	×	×	○	○
COPY(RS-R)/RCPY	×	×	×	○	○
PSUE	×	○	×	×	○
COPY(SP)/COPY	×	×	×	○	○
PSUS(SP)/PSUS	×	○	×	○	×

(凡例)

- ：操作可能
- ×

関連概念

- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

(7) プライマリボリュームを複数のセカンダリボリュームで共有する場合の ShadowImage ペアの操作指示と実行できる操作

プライマリボリュームを複数のセカンダリボリュームで共有する場合の、ホストから出されるペア操作指示と、指示を受けるペア状態の操作可否を、次の表に示します。

操作対象ではないセカンダリボリュームの状態	ペアの操作					
	ペア作成	ペア分割	ペア再同期 (正方向)	ペア再同期 (逆方向)	ペア中断	ペア削除
SMPL(PD)	×	×	×	×	×	×
COPY(PD)/COPY	○	○	○	×	○	○
PAIR	○	○	○	×	○	○
PSUS	○	○	○	○	○	○
COPY(RS)/COPY	○	○	○	×	○	○
COPY(RS-R)/RCPY	×	×	×	×	○	○
PSUE	○	○	○	○	○	○
COPY(SP)/COPY	○	○	○	×	○	○
PSUS(SP)/PSUS	○	○	○	×	○	○

(凡例)

- : 操作可能
- × : 操作不可

関連概念

- ・ [6.1.1 ShadowImage のペア数とペアの一覧を参照する](#)

6.1.2 ShadowImage ペアのプロパティを参照する

ペアのプロパティを確認する方法について説明します。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合 :
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。
 Storage Navigator を使用する場合 :
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [SI ペア] タブで確認したいペアのチェックボックスを選択します。
3. 次のどちらかの方法で、[ペアプロパティ参照] 画面を表示します。
 - ・ [SI ペア] タブで [他のタスク] - [ペアプロパティ参照] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ペアプロパティ参照] を選択します。

関連概念

- ・ [5.2 ShadowImage ペアの状態を確認する](#)
- ・ [6.1 ShadowImage ペアの情報を参照する](#)

関連参照

- ・ [付録 B.3 \[ペアプロパティ参照\] 画面](#)

6.1.3 ShadowImage ペアの一致率を参照する

ペアの一致率を確認する方法について説明します。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [SI ペア] タブで確認したいペアのチェックボックスを選択します。
3. 次のどちらかの方法で、[ペア一致率参照] 画面を表示します。
 - ・ [SI ペア] タブで [他のタスク] - [ペア一致率参照] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ペア一致率参照] を選択します。
4. [更新] をクリックすると、ペア一致率の最新情報が表示されます。

[更新] をクリック後に [ペア一致率参照] 画面を閉じて、[ローカルレプリケーション] 画面の情報が最新ではない場合があります。その場合は、[ローカルレプリケーション] 画面の更新ボタンをクリックしてください。

関連概念

- ・ [5.2 ShadowImage ペアの状態を確認する](#)
- ・ [6.1 ShadowImage ペアの情報を参照する](#)

関連参照

- ・ [付録 B.4 \[ペア一致率参照\] 画面](#)

6.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの情報を参照する

グループ数やグループ一覧、プロパティなどのコンシステンシーグループに関する情報を参照できます。

関連概念

- ・ [6.2.1 ShadowImage のコンシステンシーグループ数を参照する](#)

関連タスク

- ・ [6.2.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの一覧を参照する](#)
- ・ [6.2.3 ShadowImage のコンシステンシーグループのプロパティを参照する](#)

6.2.1 ShadowImage のコンシステンシーグループ数を参照する

コンシステンシーグループ数を参照する方法について説明します。

操作手順

次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。

- Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。
- Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。

関連概念

- [6.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの情報を参照する](#)

関連参照

- [付録 B.2 \[ローカルレプリケーション\] 画面](#)

6.2.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの一覧を参照する

コンシステンシーグループの一覧を参照する方法について説明します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [コンシステンシーグループ] タブを表示します。

関連概念

- [6.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの情報を参照する](#)

関連参照

- [付録 B.2 \[ローカルレプリケーション\] 画面](#)

6.2.3 ShadowImage のコンシステンシーグループのプロパティを参照する

コンシステンシーグループのプロパティを参照する方法について説明します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[ローカルレプリケーション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- ・ [ストレージシステム] ツリーから [ローカルレプリケーション] を選択します。
2. [コンシステンシーグループ] タブで確認したいコンシステンシーグループの [CTG ID] をクリックします。
[コンシステンシーグループプロパティ] 画面が表示されます。

関連概念

- ・ [6.2 ShadowImage のコンシステンシーグループの情報を参照する](#)

関連参照

- ・ [付録 B.6 \[コンシステンシーグループプロパティ\] 画面](#)

6.3 ShadowImage ペア操作の履歴を参照する

ペア操作の履歴を参照する方法について説明します。

前提条件

- ・ 一度に 1,000 ペア以上を操作した場合は、操作履歴の一部が記録されないことがあります。

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[レプリケーション] 画面を表示します。

Hitachi Command Suite を使用する場合：

- ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[レプリケーションダッシュボード] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- ・ [ストレージシステム] ツリーの [レプリケーション] を選択します。

2. 次のどちらかの方法で、[操作履歴] 画面を表示します。

- ・ [レプリケーション] 画面で [操作履歴参照] - [ローカルレプリケーション] をクリックします。
- ・ [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [操作履歴参照] を選択します。

3. [コピータイプ] で [SI] を選択します。

ストレージシステムには、最新の操作履歴が最大で 1,024,000 件保存されています。

関連参照

- ・ [6.3.1 \[操作履歴\] 画面の \[説明\] に表示される ShadowImage の操作とは](#)
- ・ [付録 B.5 \[操作履歴\] 画面](#)

6.3.1 [操作履歴] 画面の [説明] に表示される ShadowImage の操作とは

[操作履歴] 画面の [説明] に表示される文言の説明を次に示します。

説明コード	【説明】に表示される 文言	説明
4710	PAIR START	初期コピーを開始しました。
4720	PAIR END	初期コピーが終了し、ペア状態が PAIR に変わりました。
4730	PSUS START	ペアの分割を開始しました。
4740	PSUS END	ペアの分割が終了し、ペア状態が PSUS に変わりました。
4750	COPY(RS) START COPY(RS-R) START	ペアの再同期を開始しました。
4760	COPY(RS) END COPY(RS-R) END	ペアの再同期が終了し、ペア状態が PAIR に変わりました。
4780	SMPL	ペアが削除され、ペア状態が解除されました。
4790	PSUE	ペアが中断され、ペア状態が PSUE に変わりました。
47D0	COPY ABNORMAL END	コピーが異常終了しました（上記の理由以外）。
47E9	INITIALIZE START	初期化处理を開始しました。
47EA	INITIALIZE END	初期化处理が正常に終了しました。
47EB	INITIALIZE ENDED ABNORMAL	初期化处理が異常終了しました。

関連タスク

- [6.3 ShadowImage ペア操作の履歴を参照する](#)

6.4 ライセンス容量を参照する

ライセンス容量を参照する方法について説明します。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール

操作手順

次のどちらかの方法で、[レプリケーション] 画面を表示します。

- Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[レプリケーションダッシュボード] を選択します。
- Storage Navigator を使用する場合：
 - [ストレージシステム] ツリーの [レプリケーション] を選択します。

関連参照

- [付録 B.1 \[レプリケーション\] 画面](#)

6.5 ShadowImage システムを保守する

システム監視中に発見された動作に対して、保守タスクを実行する場合があります。変更要求に合わせてシステムを保持するために幾つかの設定を変更できます。

関連概念

- ・ [6.5.2 システムおよびデバイスの保守中の ShadowImage ペア操作](#)

関連タスク

- ・ [6.5.1 ShadowImage のローカルレプリカオプションを変更する](#)

6.5.1 ShadowImage のローカルレプリカオプションを変更する

ローカルレプリカオプションを変更する方法について説明します。RAID Manager を使ってローカルレプリカオプションを変更する方法については、『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

前提条件

- ・ 必要なロール：ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[レプリケーション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - ・ [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムを右クリックし、[レプリケーションダッシュボード] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - ・ [ストレージシステム] ツリーの [レプリケーション] を選択します。
2. 次のどちらかの方法で、[ローカルレプリカオプション編集] 画面を表示します。
 - ・ [レプリケーション] 画面で [オプション編集] - [ローカルレプリケーション] をクリックします。
 - ・ [アクション] メニューから [ローカルレプリケーション] - [ローカルレプリカオプション編集] を選択します。
3. 変更したいローカルレプリカオプションの [システムタイプ] を選択します。
4. [システムオプション] テーブルから有効にしたいシステムオプションのチェックボックスを選択して [有効] をクリックするか、無効にしたいシステムオプションのチェックボックスを選択して [無効] をクリックします。
5. [完了] をクリックします。
6. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
7. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

8. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連概念

- [6.5 ShadowImage システムを保守する](#)

関連参照

- [付録 B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード](#)

6.5.2 システムおよびデバイスの保守中の ShadowImage ペア操作

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 とそれに関連するデバイスの保守実行中に操作する、推奨するペア操作を説明しています。

関連概念

- [6.5 ShadowImage システムを保守する](#)
- [\(1\) ShadowImage システムの物理デバイスおよび論理デバイスの保守](#)

(1) ShadowImage システムの物理デバイスおよび論理デバイスの保守

物理デバイスおよび論理デバイスの保守を実行するときは、ペアやペア操作が影響されないかどうかチェックするために、次のことを確認してください。

- I/O 負荷が高いときに VSP G1000, G1500 および VSP F1500 キャッシュメンテナンスが実行されると、1 つ以上の ShadowImage ペアがサスペンドすることがあります。キャッシュの保守を実行する前に、I/O 負荷を抑えてください。
- ShadowImage で使用されている LDEV を含む物理デバイスは、個別にペア操作とペア状態の保守ができます。保守による ShadowImage への影響はありません。
- 物理デバイスで障害が発生した場合、コピー速度は落ちますがペア状態は障害が発生する前と変わりません。
- 物理デバイスの障害によってダイナミックスペアリングまたは自動コレクションコピーが動作しても、ペアの状態に影響はありません。
- LDEV の障害が発生した場合、システムはペアをサスペンドします。
- ShadowImage のペアで使用している LDEV に対する保守は制限されます。ただし、PSUE 状態のペアだけが使用している LDEV に対しては、保守閉塞、フォーマット、および回復が実行できます。

関連概念

- [6.5.2 システムおよびデバイスの保守中の ShadowImage ペア操作](#)

6.6 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する

次に示すストレージシステム間またはストレージシステムに作成した global-active device ボリューム、TrueCopy ボリューム、Universal Replicator ボリューム、ShadowImage ボリューム、または Thin Image ボリュームのペアでは、各プログラムプロダクトのペアを維持したまま、ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

ストレージシステム	マイクロコードバージョン
VSP 5000 シリーズ	90-04-04-XX/XX 以降

ストレージシステム	マイクロコードバージョン
VSP G150, G350, G370, G700, G900 および VSP F350, F370, F700, F900	88-06-02-XX/XX 以降
VSP G1000, G1500 および VSP F1500	80-06-82-XX/XX 以降



メモ

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 のマイクロコードバージョン 80-06-74-XX/XX 以降、80-06-82-XX/XX 未満でサポートした、GAD ペアを維持した DP-VOL の容量拡張機能は、上記に示したストレージシステムの容量拡張機能と併用できません。

6.6.1 ShadowImage ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する

ShadowImage ペアのボリュームとして使用している DP-VOL の容量拡張手順を次に示します。

ここでは、ShadowImage ペア単体を容量拡張する場合の手順を説明しています。他のプログラムプロダクトと連携した構成で容量拡張をする場合は、連携しているリモートコピーのユーザガイドを参照してください。



メモ

4TB 以下から 4TB を超える容量に DP-VOL を拡張する場合、拡張後の初回の、再同期（Normal Copy/Reverse Copy）時や、高速の再同期（Quick Resync/Quick Restore）後の分割時に拡張前の割当済み領域をすべてコピーします。そのため、拡張後の初回の、再同期（Normal Copy/Reverse Copy）や、高速の再同期（Quick Resync/Quick Restore）後の分割に時間が掛かりますのでご注意ください。また、進捗率がコピー完了前に 100% と表示される場合があります。

前提条件

- 拡張する仮想ボリュームが外部ボリュームではないこと
- 拡張する仮想ボリュームが LDEV フォーマット中ではないこと
- 拡張する仮想ボリュームに関連づけているプールが、次の状態のどれかであること
 - 正常
 - プールの縮小を実行中でない
- [「6.6 ペアを維持したまま DP-VOL の容量を拡張する」](#)に記載されているストレージシステム上に作成されたボリュームであること
- 拡張後に必要な次の資源数がシステム最大を超えないこと
 - 差分テーブル数
 - ペアテーブル数

必要な差分テーブル数/ペアテーブル数の確認方法



メモ

DP-VOL が 4TB を超える場合、シェアドメモリではなく階層メモリという領域に差分テーブルを配置するため、シェアドメモリの差分テーブルを使用しません。このため、4TB を超える DP-VOL に拡張する場合は、差分テーブル数の計算は不要です。

1. 次の式を使用して、1 ペアあたりに必要な差分テーブル数を計算します。

容量拡張に必要な差分テーブル数 = 拡張後の容量で必要な差分テーブル数 - 拡張前の容量で必要な差分テーブル数

1 ペアあたりに必要な差分テーブル数 = ↑ (ボリューム容量 KB ÷ 256) ÷ 20,448 ↑

↑ ↑ で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

2. 1 ペアあたりに必要なペアテーブル数を計算します。

容量拡張に必要なペアテーブル数 = 拡張後の容量で必要なペアテーブル数 - 拡張前の容量で必要なペアテーブル数

1 ペアあたりに必要なペアテーブル数 = ↑ 1 ペアあたりに必要な差分テーブル数 ÷ 36 ↑

↑ ↑ で値が囲まれている場合は、その値の小数点以下を切り上げてください。

3. 次に示すテーブル数が、システム最大数を超えないことを確認します。

- ・ 現在のペアテーブル数と容量拡張に必要なペアテーブル数の合計
- ・ 現在の差分テーブル数と容量拡張に必要な差分テーブル数の合計

差分テーブル数およびペアテーブル数は [ローカルレプリケーション] 画面から確認できます。

操作手順

1. ShadowImage を構成する、すべてのボリュームについて、前提条件を満たしているか確認します。



メモ

ShadowImage ペアの一部のボリュームだけが容量拡張に成功し、残りの一部のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する ShadowImage ペアの再同期操作が、容量不一致により失敗します。ShadowImage ペアの再同期に失敗した場合、『[\(1\) ShadowImage ペアの一部のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順](#)』の実施が必要となります。

2. ShadowImage ペアのペア状態を確認します。

PSUS または PSUE の状態の場合に拡張できます。現在のペア状態を確認して、異なる状態の場合はペア操作を行い、PSUS または PSUE の状態に遷移したことを確認します。

3. ShadowImage ペアのプライマリボリュームを容量拡張します。

- ・ RAID Manager の場合

raidcom extend ldev コマンドに -request_id auto オプションを付けて非同期処理を指定します。

コマンド例：

LDEV#44:44 に対し 10GB 分容量拡張します。

```
raidcom extend ldev -ldev_id 0x4444 -capacity 10G -request_id auto -IH1
```

- ・ Storage Navigator の場合

[V-VOL 容量拡張] 画面で、容量拡張します。

4. ShadowImage ペアのプライマリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。

- RAID Manager の場合

raidcom get command_status コマンドで、raidcom extend ldev コマンドの処理の完了を確認します。その後、raidcom get ldev コマンドで、LDEV 容量が正しい値になっているか確認します。

コマンド例：

```
raidcom get command_status -IH1
raidcom get ldev -ldev_id 0x4444 -fx -IH1
```

- Storage Navigator の場合

［ストレージシステム］ ツリーから［論理デバイス］を選択して、［LDEV］ タブを表示します。対象の LDEV 番号の容量が正しい値になっているか確認します。

- プライマリボリュームと同様の手順で、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームを容量拡張します。



メモ

ShadowImage ペアのセカンダリボリュームの容量拡張に失敗した場合は、[「\(1\) ShadowImage ペアの一部のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順」](#)を実施してください。

- プライマリボリュームと同様の手順で、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームの容量拡張が完了したことを確認します。

- ShadowImage ペアが容量拡張中状態ではないことを確認します。

- RAID Manager の場合

pairdisplay の P 列が「N」となっていることを確認します。

コマンド例：

```
# pairdisplay -g si -fxce -IM7
Group   PairVol(L/R) (Port#,TID, LU-M) ,Seq#,LDEV#.P/S,Status,
%,P-LDEV# M CTG CM EM          E-Seq# E-LDEV# DM P
si      si00(L)      (CL1-C-0,28,  0-0 )500000    30.P-VOL PSUS,
100      31 W      - N      -          - - - - - N
si      si00(R)      (CL1-C-0,28,  1-0 )500000    31.S-VOL SSUS,
100      30 -      - N      -          - - - - - N
```

P 列

容量拡張中の状態を表します。

N：容量拡張状態ではありません。

E：容量拡張中です。ShadowImage ペアの場合、プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームの容量拡張操作を完了後も、しばらく（30 秒ほど）この状態となります。その後、「N」に遷移します。

- Storage Navigator の場合

［ローカルレプリケーション］画面の［SI ペア］タブで、［処理状態］を参照し、空白表示となっていることを確認します（容量拡張中は、［Expanding］が表示されます）。

容量拡張中状態の場合は、ペアの容量拡張が完了するのをしばらく待ってから、再度状態を確認してください。

6.6.2 プログラムプロダクトを連携した状態で DP-VOL の容量を拡張する

ここでは、プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序を説明します。

具体的な容量拡張手順については、併用しているリモートコピーのプログラムプロダクトのユーザガイドを参照してください。

(1) プログラムプロダクト連携時の容量拡張順序の考え方

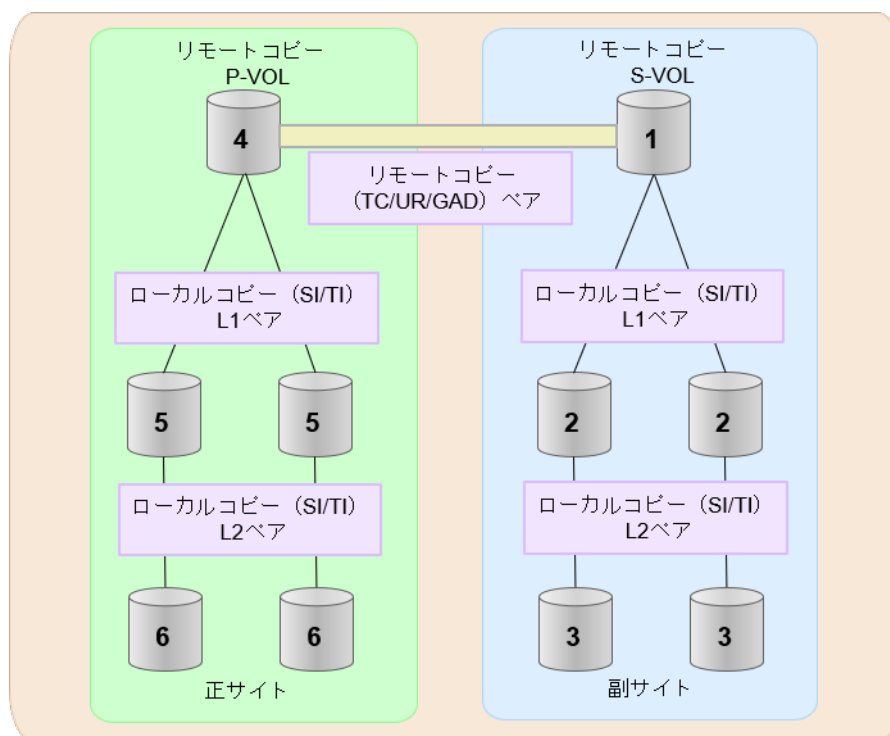
ShadowImage ペアが次のプログラムプロダクトと連携している状態で、ShadowImage ペアおよび各プログラムプロダクトのペアが使用している DP-VOL の容量を拡張できます。

- TrueCopy
- global-active device
- Universal Replicator
- Thin Image

ShadowImage ペアが各プログラムプロダクトと連携した構成の場合、各 DP-VOL の拡張順序は、次の 2 つの拡張順序を合わせこんだ順序となります。

- ShadowImage ペアの 1 対 1 構成時の拡張順序
- 各プログラムプロダクトの 1 対 1 構成時の拡張順序

次にプログラムプロダクト連携を考慮した、DP-VOL の拡張順序の考え方を示します。



(凡例)

TC: TrueCopy
UR: Universal Replicator
GAD: global-active device
SI: Shadow Image
TI: Thin Image

1. リモートコピー (TrueCopy/Universal Replicator/GAD) が存在する場合
リモートコピーの末端となる S-VOL 側から拡張し、最後に P-VOL 側を拡張します。
2. リモートコピー (TrueCopy/Universal Replicator/GAD) にローカルコピー (ShadowImage/Thin Image) が連携している場合

次に示すまとまりごとに拡張します。最初に、リモートコピーの S-VOL のまとまりを拡張し、次に、リモートコピーの P-VOL のまとまりを拡張します。

- a. リモートコピーの S-VOL と、その S-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
 - b. リモートコピーの P-VOL と、その P-VOL と連携しているローカルコピーのボリュームすべてのまとまり
- まとまり内の拡張順序は、ローカルコピーの拡張順序に従います。
3. ローカルコピー（ShadowImage/Thin Image）の拡張順序は、上の階層から順に実施します。同一階層の場合は順不同です。

6.6.3 DP-VOL 容量拡張時のトラブルシューティング

DP-VOL の容量拡張中にトラブルが起きた場合の対処方法について説明します。

(1) ShadowImage ペアの一部のボリュームが容量拡張に失敗した場合の回復手順

ShadowImage ペアの一部のボリュームだけが容量拡張に成功し、残りの一部のボリュームで容量拡張に失敗した場合、容量拡張後に実施する ShadowImage ペアの再同期操作が、容量不一致により失敗します。

また、ShadowImage ペアを TrueCopy、global-active device、Universal Replicator、または Thin Image と併用している場合に、どれか 1 つのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張が失敗した場合、ボリューム全体として容量拡張が完了していない状態となっています。

これらの状態となった場合の回復手順を次に示します。

回復手順

1. ShadowImage ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの両方について、「[6.6.1 ShadowImage ペアで使用している DP-VOL の容量を拡張する](#)」の前提条件を満たしているか確認します。
ShadowImage ペアを、TrueCopy、global-active device、Universal Replicator、または Thin Image と併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量拡張操作が必要になります。対象のボリュームすべてについて、各プログラムプロダクトのユーザガイドに記載されている、容量拡張の前提条件を満たしているか確認します。
容量拡張の条件を満たせない場合、手順 4 に進んでください。
2. 容量拡張の条件を満たした状態で再度容量拡張操作を実施し、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。例えば空き容量が不足している場合は、空き領域を確保してから、DP-VOL の容量を拡張します。
また、ShadowImage ペアを、TrueCopy、global-active device、Universal Replicator、または Thin Image と併用している場合、再度併用しているすべてのプログラムプロダクトのボリュームの容量を拡張し、各プログラムプロダクトのペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。
 - ・ 上記の操作で容量拡張が成功した場合、手順 3 に進んでください。
 - ・ 上記の操作で容量拡張に失敗した場合、手順 4 に進んでください。
3. ShadowImage ペアが容量拡張中状態ではないことを確認します。
容量拡張中の状態ではないことが確認できれば、回復が完了です

- ShadowImage ペアを削除し、SMPL の状態で容量拡張の操作をします。その後、ShadowImage ペアを再作成します。
容量の入力ミス等で容量拡張前の状態に戻したい場合は、ShadowImage ペアを削除してから、正しい容量で LDEV を再作成します。その後、ShadowImage ペアを再作成します。
また、ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアの P-VOL と S-VOL の容量が不一致の場合、ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアに対しては、削除操作しかできません。容量拡張前の ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアの S-VOL のデータを読み出すことは可能なため、容量拡張前のデータを使いたい場合は、データ読み出し完了後にすべてのペアを削除してください。

(2) ShadowImage ペアの一部のボリュームが容量拡張済みで障害が発生した場合のリカバリ

ShadowImage ペアの片方のボリュームだけが容量拡張に成功し、残りの一部のボリュームの容量を拡張する前に障害が発生した場合の回復手順について説明します。

まず、「[7 ShadowImage のトラブルシューティング](#)」の回復手順に従い、障害部位を回復させます。

ただし、回復手順時の操作によっては、次に示す対応をしてください。

回復手順時の操作	対応
回復手順中に次の操作がある場合 ShadowImage ペアの再同期操作	ShadowImage ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているため再同期操作は失敗します。 そのため、ShadowImage ペアの再同期操作の直前で、後述の「 障害回復追加手順 」を実施してください。
回復手順中に次の操作がある場合 - ShadowImage ペアの削除 - ボリュームの障害回復 - ShadowImage ペアの再作成	ShadowImage ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているためペア作成操作は失敗します。 そのため、ShadowImage ペアの作成操作の直前で、後述の「 障害回復追加手順 」をしてください。
回復手順中に次の操作がある場合 - ShadowImage ペアの削除 - ボリュームの削除 - ボリュームの作成 - ShadowImage ペアの再作成	ShadowImage ペア再作成時、対象のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致状態になっているとペア作成操作は失敗します。 そのため、ボリュームの作成時、プライマリボリュームとセカンダリボリュームで容量を一致させてください。

障害回復追加手順

容量拡張をしていないボリュームの容量を拡張してから、ShadowImage のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を一致させます。

また、ShadowImage ペアと他のプログラムプロダクトと併用している場合、併用しているすべてのプログラムプロダクトのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量を拡張します。拡張手順の詳細は、連携しているリモートコピーのユーザガイドを参照してください。

ShadowImage のトラブルシューティング

ShadowImage システムのトラブルシューティング情報と対処方法を記載しています。

- [7.1 ShadowImage のペアに対する操作と表示に関するトラブルシューティング](#)
- [7.2 ShadowImage のボリュームにピントラックがあるときのトラブルシューティング](#)
- [7.3 ShadowImage のコピー処理時間が長いときのトラブルシューティング](#)
- [7.4 RAID Manager のエラーログからエラーコードを特定する](#)
- [7.5 RAID Manager のトラブルシューティング（エラーコード一覧）](#)
- [7.6 コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用するときのトラブルシューティング](#)
- [7.7 お問い合わせ先](#)

7.1 ShadowImage のペアに対する操作と表示に関するトラブルシューティング

エラー	対策
Storage Navigator が中断した、または ShadowImage 操作が正常に動作しない。	- 各操作の前提条件や制限を確認してください。 - ストレージシステムの電源がオンで、すべての機能が使用できる状態であること。 - プライマリボリュームとセカンダリボリュームの ID などの入力値とパラメータが正しいかどうかを確認してください。 - Quick Split を実行した直後のペアに対して再同期操作 (Normal Resync または Quick Resync) を実行すると、再同期操作が異常終了することがあります。Quick Split を実行したあとは 20 秒ほど時間を置いてから再同期操作を実行してください。
ペアが正しく表示されない。	ボリュームが正しく選択されているか確認してください。
ShadowImage のエラーメッセージが Storage Navigator 動作 PC 上に表示されている。	メイン画面のツリーから [タスク] をクリックして、表示された画面から、状態が「失敗」になっているタスクのチェックボックスを選択して、メッセージを確認してください。メッセージの詳細については、『Storage Navigator メッセージガイド』を参照してください。
ShadowImage ペアが不正な状態、または予想外の状態になっている。	UNIX/PC サーバホストから RAID Manager を使用して、ペアがサスペンドされた、または解除されたおそれがあります。または、ShadowImage の操作中に VSP G1000, G1500 および VSP F1500 がエラーを検出したおそれがあります。Storage Navigator のエラーログを確認してください。必要であれば、お問い合わせください。

7.2 ShadowImage のボリュームにピントラックがあるときのトラブルシューティング

エラー	対策
ShadowImage のボリュームにピントラックがある。	ShadowImage のプライマリボリュームとセカンダリボリュームにピントラックが発生した場合は、システムはペアをサスペンドさせます。ピントラックを回復する場合は、お問い合わせください。

7.3 ShadowImage のコピー処理時間が長いときのトラブルシューティング

ShadowImage のコピー処理時間が長いときには、ボトルネックなどの原因があるおそれがあります。次の表に挙げる項目を確認して対処すると、ボトルネックなどの原因がなくなり、コピー処理時間が短くなる場合があります。

確認項目	対策
ShadowImage の Host I/O Performance オプションが有効になっている。	ShadowImage の Host I/O Performance オプションを無効にしてください。

確認項目	対策
ShadowImage for Mainframe の Host I/O Performance オプションが有効になっている。	ShadowImage for Mainframe の Host I/O Performance オプションを無効にしてください。 ※1
セカンダリボリュームのドライブ、または外部ストレージシステムが、プライマリボリュームに比べて性能が低い。	構成を見直してください。
セカンダリボリュームのドライブまたは外部ストレージシステムで何らかのエラーが発生している。	セカンダリボリュームのドライブまたは外部ストレージシステムのエラーを取り除いてください。
プライマリボリュームのドライブまたは外部ストレージシステムで何らかのエラーが発生している。	プライマリボリュームのドライブまたは外部ストレージシステムのエラーを取り除いてください。
プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが割り当てられた MP ブレード内に、MP 稼働率が 80%を超えているプロセッサがある。 ※2	構成を見直してください。
プライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが属する MP ブレードの Write ペンディング率が 60%を超えている。	構成を見直してください。
容量削減機能が有効なプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームが属するプールの空き容量が 120GB 以下である。	構成を見直してください。 また、Dynamic Provisioning プール障害に関する SIM (DP プール満杯 : SIM リファレンスコード 622xxx など) が報告されているか確認し、報告されている場合は、各 SIM の対処方法に従ってください。
ShadowImage/ShadowImage for Mainframe のコピー多重化オプションが無効になっている	ローカルレプリカオプションを有効にしてください。 ※3

注※1

ShadowImage for Mainframe の Host I/O Performance オプションを無効にする手順については『ShadowImage for Mainframe ユーザガイド』を参照してください。

注※2

MP 稼働率を確認する手段については、『Performance Manager ユーザガイド(Performance Monitor, Server Priority Manager, Cache Residency Manager)』を参照してください。

注※3

ローカルレプリカオプションを有効にする手段については、[6.5.1 ShadowImage のローカルレプリカオプションを変更する](#)を参照してください。

7.4 RAID Manager のエラーログからエラーコードを特定する

RAID Manager を使用すると、次のどれかを参照してエラーの原因を特定できます。

- RAID Manager の画面に表示されたログ
- RAID Manager 操作ログファイルにあるエラーログ。このファイルのデフォルトの格納場所は次のとおりです。

/HORCM/log*/curlog/horcmlog_HOST/horcm.log

(凡例)

*= インスタンス番号

HOST=ホスト名

RAID Manager のエラーを解決する手順を次に示します。

操作手順

1. 次のどれかを実行してください

- RAID Manager 画面ログを使用している場合は、調査しているエラーコードを特定してください。RAID Manager 画面ログにあるエラーコードの例は、次のとおりです。
It was rejected due to SKEY=0x05, ASC=0x20,SSB=0xB9E1,0xB901 on
Serial# (64015)
- 操作ログファイルを使用している場合は、調査しているエラーコードを特定してください。
ログファイルにあるエラーコードの例は次のとおりです。
11:06:03-37897-10413- SSB = 0xb9a0,2089

2. SSB1 および SSB2 コードを特定してください。上記の両方の例で、これらのコードは等号記号(=) の右側に表示されます。

- SSB1 コードは後ろの 4 桁の英数字から構成され、コンマ (,) の左側に位置します。例：
RAID Manager 画面ログでは B9E1
操作ログファイルでは b9a0
- SSB2 コードは、後ろ 4 桁の英数字から構成され、コンマ (,) の右側に位置します。例：
RAID Manager 画面ログでは 0xB901
操作ログファイルでは 2089

特定した SSB1/SSB2 エラーコードの組み合わせを参照しトラブルシューティングを行ってください。

関連タスク

- [7.6 コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用するときのトラブルシューティング](#)

7.5 RAID Manager のトラブルシューティング（エラーコード一覧）

表に記載されていないエラーについては、お問い合わせください。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
-	ShadowImage ペア操作でエラーが発生しました。
200D	プールに関連づけられていない DP-VOL を指定しているため、ペア操作を拒否しました。
201B	Universal Replicator ペアの状態が、PAIR/PSUS/PSUE 以外のため、コンシステンシーグループ指定ペア分割操作を拒否しました。Universal Replicator ペアのセカンダリ

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
	ボリュームが、コンシステンシーグループ指定ペア分割操作が実行されたコンシステンシーグループに含まれる ShadowImage ペアのプライマリボリュームでした。
2026	プライマリボリュームに指定した外部ボリュームのキャッシュモードと、セカンダリボリュームに指定した外部ボリュームのキャッシュモードが異なるため、Quick Restore 操作を拒否しました。
202D	プライマリボリュームとして指定したボリュームが、次のどれかに該当したため、ペア操作を拒否しました。 - global-active device ペアのボリュームとして使用されていて、かつ、実行したペア操作を受け付けられない状態である。 - global-active device の予約属性を設定したボリュームである。
202E	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが、次のどれかに該当したため、ペア操作を拒否しました。 - global-active device ペアのボリュームとして使用されている。 - global-active device の予約属性を設定したボリュームである。
2036	global-active device の Quorum ディスクを ShadowImage ペアのプライマリボリュームとして指定したため、ペア操作を拒否しました。
2037	global-active device の Quorum ディスクを ShadowImage ペアのセカンダリボリュームとして指定したため、ペア操作を拒否しました。
2038	ShadowImage ペアのプライマリボリュームで、複数の global-active device ペアが作成されているため、操作は失敗しました。
2043	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、3 つの Universal Replicator サイトによる 3DC デルタリシンク構成に含まれる 2 つのミラーを使用したボリュームが、下記のどちらかの理由で操作を拒否しました。 - Universal Replicator のデルタリシンクで使用されている。 - Universal Replicator のデータボリュームで使用されている。
2044	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは、3 つの Universal Replicator サイトによる 3DC デルタリシンク構成に含まれる 2 つのミラーを使用したボリュームが、下記のどちらかの理由で操作を拒否しました。 - Universal Replicator のデルタリシンクで使用されている。 - Universal Replicator のデータボリュームで使用されている。
2047	現在の DKCMAIN プログラムのバージョンでは、指定されたプライマリボリュームの容量がサポートされていないため、ペア操作を拒否しました。
2048	現在の DKCMAIN プログラムのバージョンでは、指定されたセカンダリボリュームの容量がサポートされていないため、ペア操作を拒否しました。
204F	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは Volume Migration の移動元ボリュームであり、かつ、Volume Migration の移動処理が中断できない状態のため、ペア操作を拒否しました。Volume Migration の移動処理が完了した後に再度操作してください。
205B	指定した MU 番号は使用中のため、ペア作成を拒否しました。
2060	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは Universal Replicator ペアのボリュームです。Universal Replicator ペアのペア状態が不当なため、ペア操作を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
2061	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは Universal Replicator ペアのボリュームです。Universal Replicator ペアのペア状態が不当なため、ペア操作を拒否しました。
2067	1. 指定したペアは、TrueCopy ペアと Universal Replicator ペアとボリューム共有しています。そのため、Quick Restore 操作を拒否しました。 2. 指定したペアは、TrueCopy ペアと Universal Replicator ペアとボリューム共有しています。TrueCopy ペアが PSUS 状態になっていない、または、Universal Replicator ペアが PSUS 状態になっていないため、Reverse Copy 操作を拒否しました。
206d	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、global-active device ペアのボリュームとして使用されていて、かつ Volume Migration の移動元ボリュームのため、Quick Restore 操作を拒否しました。
206f	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、global-active device ペアのボリュームとして使用されていて、かつ、global-active device ペアを新規形成操作中またはリシンク操作中のため、Quick Restore 操作を拒否しました。
2071	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは Volume Migration の移動元ボリュームであり、かつ、Volume Migration の移動処理が中断できない状態のため、ペア操作を拒否しました。Volume Migration の移動処理が完了した後に再度操作してください。
2072	プライマリボリュームとして指定したボリュームが次のどれかの条件に該当したため、ペア操作を拒否しました。 • Thin Image のプールボリューム • Thin Image ペアのセカンダリボリューム、または Thin Image の仮想ボリューム • Thin Image ペアのプライマリボリュームであり、次のどれかの条件に該当している。 Thin Image ペアが Restore 中に ShadowImage のペア作成、ペア分割、ペア再同期操作をした。 ShadowImage の Quick Restore 操作をした。 Thin Image ペアで使用中の MU 番号を指定して ShadowImage のペア作成、ペア分割、ペア再同期操作をした。
2073	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが次のどれかの条件に該当したため、ペア操作を拒否しました。 • Thin Image のプールボリューム • Thin Image ペアのセカンダリボリューム、または Thin Image の仮想ボリューム • Thin Image ペアのプライマリボリュームであり、ShadowImage のペア作成または Quick Restore 操作をした。 • Thin Image ペアのプライマリボリュームであり、Thin Image ペアが Restore 中に ShadowImage のペア分割、ペア再同期、またはペア中断操作をした。
2077	指定したプライマリボリュームは global-active device ペアとして使用されていて、かつ global-active device ペアのセカンダリボリュームと ShadowImage ペアのセカンダリボリュームでプロビジョニングタイプが異なるため、Quick Restore 操作を拒否しました。
2078	指定したプライマリボリュームはデルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームのため、次のエラーが発生しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
	- Universal Replicator ペアが PSUS 状態でないため、Reverse Copy 操作を拒否しました。 - Quick Restore 操作を拒否しました。
2079	指定したセカンダリボリュームはデルタリシンク用 UR ペアのプライマリボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
2086	初期化処理中のため、ペア操作を拒否しました。
2089	プライマリボリュームとして指定されたボリュームがクイックフォーマット中のため、Quick Restore 操作を拒否しました。
208A	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームがクイックフォーマット中のため、Quick Restore 操作を拒否しました。
2093	プライマリボリュームの T10 PI 属性の設定とセカンダリボリュームの T10 PI 属性の設定が一致していないため、ペア操作を拒否しました。
2097	Quick Restore 操作を実行しようとしたときに、次のどちらかの理由で Quick Restore 操作を拒否しました。 - ShadowImage ペアのプライマリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームで、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームが通常ボリュームであるため。 - ShadowImage ペアのプライマリボリュームが通常ボリュームで、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームであるため。
2098	Quick Restore 操作を実行しようとしたときに、次のすべての条件に該当したため、Quick Restore 操作を拒否しました。 - 次のどちらかの条件に該当している - ShadowImage ペアのプライマリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームで、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームが通常ボリュームである - ShadowImage ペアのプライマリボリュームが通常ボリュームで、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームである - プライマリボリュームが TrueCopy ペアまたは Universal Replicator ペアと連携しており、ボリュームが関連づけられているプールで TrueCopy ペアまたは Universal Replicator ペアの差分データを管理している
209A	Quick Restore 操作を実行しようとしたときに、次のすべての条件に該当したため、Quick Restore 操作を拒否しました。 - 次のどちらかの条件に該当している - ShadowImage ペアのプライマリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームで、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームが通常ボリュームである - ShadowImage ペアのプライマリボリュームが通常ボリュームで、ShadowImage ペアのセカンダリボリュームが Dynamic Provisioning の仮想ボリュームである - セカンダリボリュームが TrueCopy ペアまたは Universal Replicator ペアと連携しており、ボリュームが関連づけられているプールで TrueCopy ペアまたは Universal Replicator ペアの差分データを管理している

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
20A2	プライマリボリュームは容量を拡張している途中の DP-VOL であるため、ペア作成操作を拒否しました。
20A3	セカンダリボリュームは容量を拡張している途中の DP-VOL であるため、ペア作成操作を拒否しました。
20A4	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、次のどちらかのため、ペア操作を拒否しました。 - データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリューム - 容量拡張設定が有効なパリティグループに属するボリューム これらのボリュームはプールボリュームとしてだけ使用できます。
20A7	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは、次のどちらかのため、ペア操作を拒否しました。 - データダイレクトマップ属性が有効に設定された外部ボリューム - 容量拡張設定が有効なパリティグループに属するボリューム これらのボリュームはプールボリュームとしてだけ使用できます。
20A9	指定したコンシステンシーグループ番号は Thin Image で使用中のため、ペア操作を拒否しました。
20AA	プライマリボリュームとして指定したボリュームが DP-VOL で、かつ、システムオプションモード 905 が ON の状態で発行された Unmap コマンドを処理中のため、ペア作成を拒否しました。
20AB	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが DP-VOL で、かつ、システムオプションモード 905 が ON の状態で発行された Unmap コマンドを処理中のため、ペア作成を拒否しました。
20B0	プライマリボリュームとして指定したボリュームは容量拡張中の DP-VOL のため、ペア作成を拒否しました。
20B1	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは容量拡張中の DP-VOL のため、ペア作成を拒否しました。
20B4	プライマリボリュームとして指定したボリュームはプールに関連づけていない DP-VOL のため、ペア操作を拒否しました。
20B5	セカンダリボリュームとして指定したボリュームはプールに関連づけていない DP-VOL のため、ペア操作を拒否しました。
20B7	プライマリボリュームとして指定したボリュームは、LU パスが設定されていないため、ペア操作を拒否しました。
20B8	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは、LU パスが設定されていないため、ペア操作を拒否しました。
20C3	プライマリボリュームとして指定したボリュームは重複排除システムデータボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
20C4	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは重複排除システムデータボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
20C5	電源をオフにしている途中のため、コマンドを拒否しました。
20D0	プライマリボリュームとして指定したボリュームは DP-VOL で、 Dynamic Provisioning プール初期化中のためペア作成操作を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
20D1	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは DP-VOL で、Dynamic Provisioning プール初期化中のためペア作成操作を拒否しました。
20DD	指定したコンシステンシーグループ ID は ShadowImage for Mainframe で使用中のため、ShadowImage では使用できません。
20DF	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは、オンラインデータ移行中のボリュームのため使用できません。
20E4	UR セカンダリボリュームと SI プライマリボリュームの間でボリュームを共有する場合、Business Continuity Manager または PPRC で作成した ShadowImage の CTG ペアと、RAID Manager で作成した ShadowImage の CTG ペアは混在できないため、コマンドを拒否しました。
20E6	Storage Navigator で予約したコンシステンシーグループは RAID Manager からコンシステンシーグループ指定ペア分割機能を指示できません。
20E9	プライマリボリュームとして指定したボリュームは既存のペアのセカンダリボリュームで、セカンダリボリュームとして指定したボリュームは別の既存のペアのプライマリボリュームのため、ペア作成を拒否しました。
20EC	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは、オンラインデータ移行中かつキャッシュモードにスルーモードが設定されているボリュームのため使用できません。
20F2	プライマリボリュームとセカンダリボリュームのシリアル番号に仮想ストレージマシンのシリアル番号を設定している場合で、設定されたシリアル番号は一致しているが、対応する物理ストレージシステムのシリアル番号が一致していないため、ペア操作を拒否しました。
20F4	プライマリボリュームとして指定されたボリュームが仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号、または仮想 LDEV ID を変更中のため、ペア操作を拒否しました。
20F5	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームが仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号、または仮想 LDEV ID を変更中のため、ペア操作を拒否しました。
20F6	プライマリボリュームとして指定されたボリューム、またはプライマリボリュームとして指定されたボリュームをセカンダリボリュームとする ShadowImage ペアのプライマリボリュームがオンラインデータ移行中のため、ペア作成を拒否しました。
20F7	プライマリボリュームとして指定されたボリューム、またはプライマリボリュームとして指定されたボリュームをセカンダリボリュームとする ShadowImage ペアのプライマリボリュームがオンラインデータ移行中のため、ペア操作を拒否しました。
20F8	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームがオンラインデータ移行中のため、ペア操作を拒否しました。
20FC	プライマリボリュームとして指定されたボリュームがオンラインデータ移行中で、かつ、3 つめとなるペアを形成するコマンドのため、コマンド実行を拒否しました。
22F6	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは Compatible FlashCopy® V2 のターゲットボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
22F7	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが Compatible FlashCopy® V2 のソースボリュームまたはターゲットボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
22F9	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは Compatible FlashCopy® V2 のソースボリュームまたはターゲットボリュームのため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
2301	次のどちらかの理由でペア操作を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
	- 共用メモリが確保されていない。 - ShadowImage がインストールされていない。
2306	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームの LBA サイズが一致していないため、ペア操作を拒否しました。
2309	最大ペア数を超過したため、ペア作成を拒否しました。
230A	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは MU 番号 0 の ShadowImage ペアのプライマリボリュームであるため、ペア作成を拒否しました。
230B	コピーの中断中またはペアの解除中のため、ペア操作を拒否しました。
2310	次のどれかの要因によって、ペア操作が拒否されました。 - 指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームで VLL 設定の有無が異なるため、Quick Restore 操作を拒否しました。 - 指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームは Compatible FlashCopy® V2 ペアのため、ペア操作を拒否しました。 - 指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームのペア状態が PSUE のため、Quick Restore 操作、または Reverse Copy 操作を拒否しました。 - コンシステンシーグループ指定ペア分割操作を指示したコンシステンシーグループの中に、再同期中のペア、分割中のペア、または中断されたペアがあるため、コンシステンシーグループ指定ペア分割操作を拒否しました。 - プライマリボリューム、セカンダリボリューム、または両方が発行したコマンドを受け付けられないペア状態のため、ペア操作を拒否しました。 - 指定したペアが L2 ペアのため、Quick Restore 操作、または Reverse Copy 操作を拒否しました。
2312	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームはホストでオンラインになっているため、ペア操作を拒否しました。
2314	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは他 ShadowImage ペアのセカンダリボリューム（ペアの状態は PSUS）のため、ペア作成を拒否しました。
231F	指定したペアのプライマリボリュームがホストでオンラインになっているため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
2322	必要な共用メモリが未実装、または、初期設定が完了していないため、ペア操作を拒否しました。
2324	プライマリボリュームとして指定されたボリュームのスロット数が上限を超えているため、ペア操作を拒否しました。
2325	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームのスロット数が上限を超えているため、ペア操作を拒否しました。
2326	プライマリボリュームとして指定したボリュームにすでに 3 個のセカンダリボリュームがあるため、ペア作成を拒否しました。
2327	プライマリボリュームとして指定したボリュームにすでに 2 個のセカンダリボリュームがあるノードボリュームであるため、ペア作成を拒否しました。
2328	カスケード構成を超える多段のペア構成になるため、ペア操作を拒否しました。
2329	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが既存ペアのセカンダリボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
232A	ライセンス容量を超えるペアを作成しようとしたため、ペア作成操作を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
232F	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは Volume Migration の移動先として割り当てられているため、ペア操作を拒否しました。
2331	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームの容量が不一致なため、ペア操作を拒否しました。
2332	プライマリボリュームとして指定したボリュームにすでに 3 個のセカンダリボリュームがあるため、ペア作成を拒否しました。
2333	プライマリボリュームとして指定したボリュームが既存のペアのプライマリボリュームでないため、ペア操作を拒否しました。
2334	次のどれかの理由でペア操作を拒否しました。 - プライマリボリュームとして指定したボリュームは RAID Manager から操作できないエミュレーションタイプのため、ペア操作を拒否しました。 - プライマリボリュームとして指定したボリュームは中間ボリュームのため、コンシステンシーグループ指定ペア分割操作を拒否しました。
2335	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは RAID Manager から操作できないエミュレーションタイプのため、ペア操作を拒否しました。
2336	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームのエミュレーションタイプが異なるため、ペア操作を拒否しました。
2337	プライマリボリュームとして指定したボリュームは中間ボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
233A	プライマリボリュームとして指定したボリュームは ShadowImage のプライマリボリュームではないため、ペア再同期を拒否しました。
233B	セカンダリボリュームとして指定したボリュームはルートボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
233C	セカンダリボリュームとして指定したボリュームはノードボリュームで、かつプライマリボリュームとして指定したボリュームは指定したセカンダリボリュームのプライマリボリュームではないため、ペア操作を拒否しました。
233D	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームは L2 ペアで、L1 ペアの状態で PSUS ではないため、ペア分割を拒否しました。
233E	プライマリボリュームとして指定したボリュームは TrueCopy ペアのプライマリボリュームとして使用されているため、ペア操作を拒否しました。
233F	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは TrueCopy ペアのプライマリボリュームでペア状態が PSUS または PSUE でないため、ペア操作を拒否しました。
2342	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは Volume Migration の移動先として割り当てられているため、ペア操作を拒否しました。
2343	セカンダリボリュームとして指定したボリュームはすでにセカンダリボリュームのため、ペア作成を拒否しました。
2344	ShadowImage ペアを操作するためにセカンダリボリュームとして指定したボリュームはセカンダリボリュームではないため、ペア操作を拒否しました。
2346	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは TrueCopy ペアのプライマリボリュームです。TrueCopy ペアのペア状態が不当なため、ペア操作を拒否しました。
2347	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは TrueCopy ペアのセカンダリボリュームです。TrueCopy ペアのペア状態が不当なため、ペア操作を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
234A	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは中間ボリュームのため、カスケード構成となるペア作成を拒否しました。
234B	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは Volume Migration の移動元として割り当てられているため、ペア操作を拒否しました。
2350	ShadowImage ペアを操作するために指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームがペアではないため、ペア操作を拒否しました。
2351	プライマリボリュームとして指定したボリュームとセカンダリボリュームとして指定したボリュームが同じボリュームのため、ペア操作を拒否しました。
2352	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームはホストからオンラインになっているため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
2353	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームは Quick Split でペアの分割中のため、ペア解除を拒否しました。
2354	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームは Steady Split でペアの分割中のため、ペア再同期を拒否しました。
2357	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは分割中ペアのプライマリボリューム、または Reverse Copy 中または Quick Restore 中のペアのプライマリボリュームのため、ペア作成を拒否しました。
2358	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは分割中ペアのプライマリボリュームのため、ペア再同期を拒否しました。
235B	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは TrueCopy ペアのプライマリボリュームです。TrueCopy ペアのペア状態が PSUE 状態または PSUS 状態でないため、Reverse Copy 操作または Quick Restore 操作を拒否しました。
235C	プライマリボリュームとして指定されたボリュームは TrueCopy ペアのセカンダリボリュームです。TrueCopy ペアのペア状態が PSUE 状態または PSUS 状態でないため、Reverse Copy 操作または Quick Restore 操作を拒否しました。
235D	セカンダリボリュームとして指定されたボリュームは TrueCopy ペアのプライマリボリュームです。TrueCopy ペアのペア状態が PSUE 状態または PSUS 状態でないため、Reverse Copy 操作または Quick Restore 操作を拒否しました。
236C	プライマリボリュームとして指定したボリュームは Data Retention Utility で副 VOL 拒否が設定されているため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
236D	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは Data Retention Utility で副 VOL 拒否が設定されているため、ペア操作を拒否しました。
2370	プライマリボリュームとして指定したボリュームは未実装のため、ペア操作を拒否しました。
2371	プライマリボリュームとして指定したボリュームが閉塞しているため、ペア操作を拒否しました。
2372	プライマリボリュームとして指定したボリュームはフォーマット中またはシュレディング中のため、ペア操作を拒否しました。
2373	プライマリボリュームとして指定したボリュームはコマンドデバイスのため、ペア操作を拒否しました。
2380	次のどちらかの理由でペア操作を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
	- セカンダリボリュームとして指定したボリュームは未実装のため、ペア操作を拒否しました。 3 以上の MU 番号を指定したため、ペア操作を拒否しました。
2381	セカンダリボリュームとして指定したボリュームが閉塞しているため、ペア操作を拒否しました。
2382	セカンダリボリュームとして指定したボリュームはフォーマット中またはシュレディング中のため、ペア操作を拒否しました。
2383	セカンダリボリュームとして指定したボリュームはコマンドデバイスのため、ペア操作を拒否しました。
2387	プライマリボリュームとして指定したボリュームは Volume Migration の移動元として割り当てられているため、ペア作成を拒否しました。
2390	プライマリボリュームとして指定したボリュームは容量削減機能が有効なボリュームのため、Quick Restore 操作を拒否しました。
2391	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは容量削減機能が有効なボリュームのため、Quick Restore 操作を拒否しました。
2394	1 つのコンシステンシーグループに定義できるペアの最大数を超えるため、コンシステンシーグループへのペア登録を拒否しました。
2395	プライマリボリュームとして指定したボリュームをプライマリボリュームとして共有するペアが Reverse Copy 中または Quick Restore 中のため、ペア操作を拒否しました。
2396	プライマリボリュームとして指定したボリュームをルートボリュームとして共有する L1 ペアが Reverse Copy 中または Quick Restore 中のため、ペア操作を拒否しました。
2397	指定したプライマリまたはセカンダリボリュームを、ノードボリュームとして共有する L2 ペアが Reverse Copy 中または Quick Restore 中のため、ペア操作を拒否しました。
2398	指定したペアの状態が PSUS または PSUE ではないため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
2399	プライマリボリュームとして指定したボリュームをプライマリボリュームとして共有するペアに、ペアの状態が PSUS/PSUE 以外のペアが含まれているため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
23A8	プライマリボリュームとして指定したボリュームは XRC の正ボリュームとして指定されているため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
23A9	プライマリボリュームとして指定したボリュームは CC の正ボリュームとして指定されているため、Quick Restore 操作または Reverse Copy 操作を拒否しました。
23AA	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは XRC の正ボリュームとして指定されているため、ペア操作を拒否しました。
23AB	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは CC の正ボリュームとして指定されているため、ペア操作を拒否しました。
23AF	指定したコンシステンシーグループ ID は BCM/PPRC 用に予約しているため、RAID Manager からコンシステンシーグループへのペア登録を拒否しました。
23BB	セカンダリボリュームとして指定したボリュームは Volume Security で副ボリュームとして使用できないように設定されているため、ペア作成を拒否しました。
23EF	指定したプライマリボリュームとセカンダリボリュームは高速モード (Quick Split) でペアの分割中のため、ペア解除を拒否しました。

SSB2 コード (SSB1 コード : 2e31/b9a0/b9a1/ b9a2/b9a5/b9a6/ b9ae/b9af)	説明
23F1	指定したコンシステンシーグループ ID はサポートされていないため、ペア作成を拒否しました。
9100	ユーザ認証が実施されていないため、コマンドを実行できません。
B911	指定したボリュームが実装されていないため、ペア操作を拒否しました。
B912	ペア操作で指定したセカンダリボリュームがないため、ペア操作を拒否しました。
B913	ミラー ID が不当なため、ペア操作を拒否しました。

関連タスク

- ・ [7.4 RAID Manager のエラーログからエラーコードを特定する](#)

7.6 コンシステンシーグループ指定ペア分割機能を使用するときのトラブルシューティング

コンシステンシーグループ指定ペア分割機能で障害が発生すると、次の問題が起こります。

- ・ ペア分割操作が異常終了すると、コンシステンシーグループのペアがサスペンドされます（状態 = PSUE）。
- ・ ホストサーバがダウンまたは失敗すると、ShadowImage ペアが 1 つもないコンシステンシーグループが定義されることがあります。このような状態でコンシステンシーグループ指定ペア分割オプションを使用してペア作成コマンドを実行すると、コマンド拒否される場合があります。

このような場合は、次の手順を実行してください。

操作手順

1. [ローカルレプリケーション] 画面の [コンシステンシーグループ] タブに表示される [状態] 欄をソートして、どのペアにも使用されていないコンシステンシーグループ ID を探します。
 2. どのペアにも使用されていないコンシステンシーグループ ID を、RAID Manager で指定し、その後ホストサーバの RAID Manager を使用してコンシステンシーグループ指定ペア分割操作の対象となるペアを作成します。
- ・ ホストサーバがダウン、または失敗したなどの理由により、ShadowImage ペアが 1 つもないコンシステンシーグループが大量に発生し、空きコンシステンシーグループが不足することがあります。このような状態で、コンシステンシーグループ指定ペア分割オプションを使用してペア作成コマンドを実行すると、コマンド拒否される場合があります。このような場合は、次の手順でペアがないコンシステンシーグループを削除してから、再度ペア作成コマンドを実行してください。

操作手順

1. [ローカルレプリケーション] 画面の [コンシステンシーグループ] タブに表示される [状態] 欄をソートして、どのペアにも使用されていないコンシステンシーグループ ID を探します。
2. どのペアにも使用されていないコンシステンシーグループ ID を、RAID Manager で指定し、その後ホストサーバの RAID Manager を使用してコンシステンシーグループ指定ペア分割操

作の対象となる ShadowImage ペア、または Thin Image ペアを作成します。コンシステンシーグループ ID が 128 以上の場合は、Thin Image ペアを作成してください（Thin Image ペアの作成方法は『Thin Image ユーザガイド』を参照してください）。

3. 手順 2 で作成した ShadowImage ペア、または Thin Image ペアを削除してください。

Universal Replicator のセカンダリボリュームと ShadowImage のプライマリボリュームが共有する構成の場合、コンシステンシーグループに属するペアの中でペア状態を変更できないものがあつた場合、RAID Manager で実行した pairsplit コマンドを実行したあとも、コンシステンシーグループに分割されないままのペアが残り、ペアの一貫性が保証されません。ペア状態が変更できない原因として、次の要因が考えられます。

- プライマリボリュームとセカンダリボリュームの内容が一致する、コンシステンシーグループに属するペアの Universal Replicator のジャーナルボリュームが満杯になった。
- ShadowImage のライセンスが無効だった。
- ShadowImage ペアのボリュームが閉塞している。
- ShadowImage ペアのペア状態がペア分割操作できない状態である。
- ShadowImage ペアがカスケードを構成する一部のペアで、ほかのペアのペア状態がペア分割操作できない状態である。
- ShadowImage ペアが TrueCopy ペアや Universal Replicator とボリュームを共有していて、TC ペアや UR ペアのペア状態がペア分割操作できない状態である（エラーコード EX_EWSTOT（タイムアウト）を返し、異常終了することがあります）。

これらの要因を取り除いたら、ペアを再同期してから pairsplit コマンドを実行してください。

7.7 お問い合わせ先

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス：<http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

RAID Manager コマンドリファレンス

RAID Manager を使用するに当たっての参考情報を示します。

- [A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表](#)
- [A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲](#)

A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表

Storage Navigator のアクション名または操作に対応する RAID Manager コマンドの対応表を示します。

関連参照

- ・ 付録 A.1.1 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド (ペア操作)
- ・ 付録 A.1.2 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド (コンシステンシーグループ操作)
- ・ 付録 A.1.3 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド (その他の操作)

A.1.1 Storage Navigator のアクション名に対応する RAID Manager コマンド (ペア操作)

アクション名	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
SI ペア作成	なし	○	paircreate	なし
	MU 番号	○	paircreate	構成定義ファイルの MU 番号を使用する
	コピー速度	○	paircreate	-c <size>
	Steady Split	○	paircreate	-split -fq normal
	Quick Split	○	paircreate	-split -fq quick
ペア分割	なし	○	pairsplit	なし
	コピー速度	○	pairsplit	-C <size>
	Steady Split	○	pairsplit	-fq normal
	Quick Split	○	pairsplit	-fq quick
	セカンダリボリュームの読み込みの禁止	×	paircreate	-m noread
ペア再同期	なし	○	pairresync	なし
	コピー速度	○	pairresync	-c <size>
	Normal Copy	○	pairresync	-fq normal
	Quick Resync	○	pairresync	-fq quick
	Reverse Copy	○	pairresync	-fq normal -restore
	Quick Restore	○	pairresync	-fq quick -restore
ペア中断	なし	○	pairsplit	-E
ペア削除	なし	○	pairsplit	-S

(凡例)

- : 操作可能
- × : 操作不可

関連参照

- 付録 A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表

A.1.2 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド (コンシステンシーグループ操作)

操作	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
コンシステンシーグループにペアを追加	なし	×	paircreate	-m grp [CTGID]
	MU 番号	×	paircreate	構成定義ファイルの MU 番号を使用する
	コピー速度	×	paircreate	-m grp [CTGID] -c <size>
	コンシステンシーグループ ID 指定	×	paircreate	-m grp xx (xx = CTGID)
	コンシステンシーグループ ID 自動	×	paircreate	-m grp (CTGID を省略する)
コンシステンシーグループ指定ペア分割 (時刻指定なし)	なし	×	pairsplit	なし
	コピー速度	×	pairsplit	-C <size>
	Steady Split	×	pairsplit	-fq normal
	Quick Split	×	pairsplit	-fq quick
	UR-SI 連携 (Steady Split)	×	pairsplit	-fq normal
	UR-SI 連携 (Quick Split)	×	pairsplit	-fq quick
コンシステンシーグループ単位でペア再同期	なし	×	pairresync※	なし
	コピー速度	×	pairresync※	-c <size>
	Normal Copy	×	pairresync※	-fq normal
	Quick Resync	×	pairresync※	-fq quick
	Reverse Copy	×	pairresync※	-fq normal -restore
	Quick Restore	×	pairresync※	-fq quick -restore
コンシステンシーグループ単位でペア削除	なし	×	pairsplit※	-S

(凡例)

× : 操作不可

注※

RAID Manager のペアのグループを使用すれば、コンシステンシーグループ単位で操作できます。

関連参照

- 付録 A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表

A.1.3 Storage Navigator の操作に対応する RAID Manager コマンド (その他の操作)

操作	オプション	Storage Navigator からの操作	RAID Manager	
			コマンド名	対応するオプションなど
ローカルレプリカオプションを変更する	なし	○	raidcom modify local_replica_opt	-opt_type -set_system_opt -reset_system_opt

(凡例)

○ : 操作可能

関連参照

- ・ [付録 A.1 Storage Navigator のアクション名と RAID Manager コマンドの対応表](#)

A.2 RAID Manager のオプションのパラメータの設定範囲

RAID Manager のオプションのパラメータで設定できる範囲を次の表に示します。コマンドの詳細については、『RAID Manager コマンドリファレンス』を参照してください。

パラメータの内容	設定範囲
ミラー ID (MU#)	L1 ペア : 0、1、または 2、L2 ペア : 1 または 2
CTG ID	0~127

ShadowImage GUI リファレンス

ShadowImage で使用する Storage Navigator の画面について説明します。

- [B.1 \[レプリケーション\] 画面](#)
- [B.2 \[ローカルレプリケーション\] 画面](#)
- [B.3 \[ペアプロパティ参照\] 画面](#)
- [B.4 \[ペア一致率参照\] 画面](#)
- [B.5 \[操作履歴\] 画面](#)
- [B.6 \[コンシステンシーグループプロパティ\] 画面](#)
- [B.7 SI ペア作成ウィザード](#)
- [B.8 ペア分割ウィザード](#)
- [B.9 ペア再同期ウィザード](#)
- [B.10 \[ペア中断\] 画面](#)
- [B.11 \[ペア削除\] 画面](#)
- [B.12 \[ミラーユニット編集\] 画面](#)
- [B.13 \[オプション変更\] 画面](#)
- [B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード](#)

B.1 [レプリケーション] 画面

レプリケーション 最終更新日時: 2014/10/28 14:44

VSP G1000(S/N:50) > レプリケーション

操作履歴参照 ▼ オプション編集 ▼

ローカルレプリケーション	ライセンス容量 (使用量/ライセンス容量)	リモートレプリケーション	ライセンス容量 (使用量/ライセンス容量)
SI	3.00 GB / 無制限	TC	0.00 MB / 無制限
TI	397.00 GB / 無制限	UR	0.00 MB / 無制限
SIMF	23.00 GB / 無制限	TCMF	0.00 MB / 無制限
FCv2	0.00 MB / 無制限	URMF	0.00 MB / 無制限
FCSE	0.00 MB / 無制限	GAD	0.00 MB / 無制限
レプリカLDEV数	37		
FCv2/FCSE リレーションシップ数	0		
差分テーブル数	22 (最大: 419200)		

レプリカLDEV

テーブル情報出力 合計: 37

全フィルタ ON OFF カラム設定 オプション ▼ 1 / 1

LDEV ID	LDEV 名	エミュレーションタイプ	容量	コピータイプ							
				SI-L1	SI-L2	TI	SIMF	FCv2	FCSE	TC	UR
00:00:0C		OPEN-V CVS	0.10 GB	-	-	プライマリ	-	-	-	-	-
00:00:0D		OPEN-V CVS	0.10 GB	-	-	プライマリ	-	-	-	-	-
00:00:0E		OPEN-V CVS	0.10 GB	-	-	プライマリ	-	-	-	-	-
00:00:0F		OPEN-V CVS	0.10 GB	-	-	プライマリ	-	-	-	-	-
00:00:40		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:41		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:42		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:43		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:44		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:45		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:46		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:47		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:48		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:49		OPEN-V CVS	0.10 GB	プライマリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:50		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:51		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:52		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:53		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:54		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:55		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:56		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:57		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:58		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:00:59		OPEN-V CVS	0.10 GB	セカンダリ	-	-	-	-	-	-	-
00:10:20		3390-3 CVS	2.77 GB	-	-	-	プライマリ	-	-	-	-
00:10:21		3390-3 CVS	2.77 GB	-	-	-	プライマリ	-	-	-	-
00:10:22		3390-3 CVS	2.77 GB	-	-	-	プライマリ	-	-	-	-
00:10:23		3390-3 CVS	2.77 GB	-	-	-	プライマリ	-	-	-	-

- サマリ
- [レプリカ LDEV] タブ

サマリ

- ボタン

項目	説明
操作履歴参照 - ローカルレプリケーション	ローカルレプリケーションの [操作履歴] 画面が表示されます。
操作履歴参照 - リモートレプリケーション	リモートレプリケーションの [操作履歴] 画面が表示されます。

項目	説明
オプション編集 - ローカルレプリケーション	[ローカルレプリカオプション編集] 画面が表示されます。
オプション編集 - リモートレプリケーション	[リモートレプリカオプション編集] 画面が表示されます。
オプション編集-SCP 時間	[SCP 時間編集] 画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
ライセンス容量	使用量とライセンス容量がプログラムプロダクトごとに表示されます。
レプリカ LDEV 数	レプリケーションで使用している LDEV の数が表示されます。
FCv2/FCSE リレーシ ョンシップ数	Compatible FlashCopy® V2 および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE のリレーシジョンシップ数が表示されます。
差分テーブル数	ローカルレプリケーションで使用中の差分テーブル数および最大数を表示します。 リモートレプリケーションで使用中の差分テーブル数は含まれません。 また、次に示す操作では、差分テーブルは使用されません。したがって、これらの操作を実行しても差分テーブル数は増減しません。 • 4TB を超える DP-VOL に対する ShadowImage のペア操作 • Thin Image のペア操作 • 262,668Cyl を超える DP-VOL に対する ShadowImage for Mainframe のペア操作 • Compatible FlashCopy® V2 および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE のリレーシジョンシップ操作

[レプリカ LDEV] タブ

各ユーザにプライマリボリューム（FCv2 リレーシジョンシップまたは FCSE リレーシジョンシップの場合はソースボリューム） および/またはセカンダリボリューム（FCv2 リレーシジョンシップまたは FCSE リレーシジョンシップの場合はターゲットボリューム） が割り当てられているペアだけ表示されます。

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- テーブル

項目	説明
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
エミュレーションタイプ	エミュレーションタイプが表示されます。
容量	LDEV の容量が表示されます。
コピータイプ	LDEV が使用されているコピーとボリュームの種類が表示されます。

項目	説明
	コピーの種類 • [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア • [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア • [TI] : Thin Image ペア • [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア • [FCv2] : Compatible FlashCopy® V2 リレーションシップ • [FCSE] : Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE リレーションシップ • [TC] : TrueCopy ペア • [UR] : Universal Replicator ペア • [TCMF] : TrueCopy for Mainframe ペア • [URMF] : Universal Replicator for Mainframe ペア • [GAD] : global-active device ペア ボリュームの種類 (SI、TI、SIMF、TC、UR、TCMF、URMF、GAD) • [プライマリ] : プライマリボリューム • [セカンダリ] : セカンダリボリューム ボリュームの種類 (FCv2、FCSE) S はソースボリュームを、T はターゲットボリュームを示します。 • [S-Normal] : 正常なソースボリューム • [T-Normal] : 正常なターゲットボリューム • [ST-Normal] : ソースボリュームとターゲットボリュームの両方に設定されている正常なボリューム • [S-Failed]、[S-Full]、[S-Full & Failed] : 異常なソースボリューム • [T-Failed]、[T-Full]、[T-Full & Failed] : 異常なターゲットボリューム • [ST-Failed]、[ST-Full]、[ST-Full & Failed] : ソースボリュームとターゲットボリュームの両方に設定されている異常なボリューム ペアが設定されていない場合は、[-] が表示されます。
仮想ストレージマシンの注	LDEV が属する仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 • [モデル/シリアル番号] : ボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [LDEV ID] : ボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 • [デバイス名] : ボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 • [SSID] : ボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

関連概念

- 6.4 ライセンス容量を参照する

B.2 [ローカルレプリケーション] 画面

ローカルレプリケーション

Storage01(S/N:22) > レプリケーション > ローカルレプリケーション

最終更新日時: 2015/07/27 17:57

ペア数	ShadowImage	1	コンシステンシーグループ数	0 (最大: 2048)
	ShadowImage for Mainframe	1	スナップショットグループ数	0 (最大: 2048)
	Thin Image	0	ペアテーブル数	2 (最大: 32768)
	合計	2	SI/SIMF/Volume Migration	0 (最大: 1048575)
スナップショット管理可能推量	1126.39 TB		TI	1 (最大: 419200)
			差分テーブル数	1 (最大: 419200)

SIペア TIルートボリューム コンシステンシーグループ スナップショットグループ

SIペア作成 ペア分割 ペア再同期 他のタスク

選択数: 0 / 1

フィルタ ON OFF 全ページ選択 カラム設定 オプション

プライマリボリューム								セカンダリボリューム	
LDEV ID	LDEV名	ポート名	ホストグループ名 / iSCSI ターゲットエイリアス	iSCSIターゲット名	LUN ID	コピータイプ	状態	LDEV ID	LDEV名
00:00:02		CL9-C	9C-G00 (00)	iqn.1994-04.j...	0	SI-L1	PAIR	00:00:03	
00:10:21		-	-	-	-	SIMF	DUPLEX	00:10:25	

- サマリ
- [SI ペア] タブ
- [TI ルートボリューム] タブ
- [コンシステンシーグループ] タブ
- [スナップショットグループ] タブ

サマリ

項目	説明
ペア数	ペアの数がプログラムプロダクトごとに表示されます。 [合計] には、ペアの合計が表示されます。
スナップショット管理可能推量※	Thin Image ペアの設定可能推量が表示されます。[スナップショット管理可能推量] が 128.00TB 未満の場合は、  アイコンが表示されます。
コンシステンシーグループ数	空き以外の数および最大数が表示されます。

項目	説明
スナップショットグループ数	使用中の数および最大数が表示されます。
ペアテーブル数	ペアテーブル数および最大数が次に示すプログラムプロダクトの組み合わせごとに表示されます。 ・ [SI/SIMF/Volume Migration] : ShadowImage、ShadowImage for Mainframe および Volume Migration で使用されているペアテーブル数が表示されます。 ・ [TI] : Thin Image で使用されているペアテーブル数が表示されます。
差分テーブル数	使用中の差分テーブル数および最大数を表示します。 次に示す操作では、差分テーブルは使用されません。したがって、これらの操作を実行しても差分テーブル数は増減しません。 ・ Thin Image のペア操作 ・ 262,668Cyl を超える DP-VOL に対する ShadowImage for Mainframe のペア操作 ・ 4TB を超える DP-VOL に対する ShadowImage のペア操作

注※

[スナップショット管理可能推量] とは、Thin Image プールと Thin Image ペアが使用している共用メモリ領域を差し引いた、残りの共用メモリ容量を使用して作成できる Thin Image ペア容量の見積もりです。[スナップショット管理可能推量] は参考値であり、[スナップショット管理可能推量] が示す容量分の Thin Image ペアが必ず作成できることを保証する値ではありません。Thin Image のプールボリュームや Thin Image ペアを追加、または削除した場合は、[スナップショット管理可能推量] の値が変わります。

[SI ペア] タブ

各ユーザーにプライマリボリュームおよび/またはセカンダリボリュームが割り当てられている SI ペアだけ表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
SI ペア作成	[SI ペア作成] 画面が表示されます。
ペア分割	[ペア分割] 画面が表示されます。
ペア再同期	[ペア再同期] 画面が表示されます。
ペアー致率参照※	[ペアー致率参照] 画面が表示されます。
ペアプロパティ参照※	[ペアプロパティ参照] 画面が表示されます。
ペア中断※	[ペア中断] 画面が表示されます。
ペア削除※	[ペア削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] ボタンをクリックすると表示されます。

- ・ テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。 • [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [ポート名] : プライマリボリュームのポート名が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : プライマリボリュームのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : プライマリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 • [LUN ID] : プライマリボリュームの LUN ID が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ] ※ : プライマリボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 ◦ [Basic] : 内部ボリュームです。 ◦ [DP] : DP-VOL です。 ◦ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。 ◦ [External MF] : マイグレーションボリュームです。 • [エミュレーションタイプ] ※ : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量] ※ : プライマリボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] ※ : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [暗号化] ※ : プライマリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効] : プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効] : プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在] : プライマリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。

項目	説明
	◦ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [容量削減] ※ : プライマリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効] : 容量削減機能を使用しません。 • [T10 PI] ※ : プライマリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 • [仮想ストレージマシン] ※ : プライマリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [仮想 LDEV ID] ※ : プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 • [仮想デバイス名] ※ : プライマリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 • [仮想 SSID] ※ : プライマリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 • [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア • [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア • [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
状態	ペアの状態が表示されます。「表: [状態] に表示されるペア状態と説明」を参照してください。
処理状態※	ペアの処理状態が表示されます。 • [Expanding] : ShadowImage のペアボリュームの容量を拡張中です。容量拡張中ではない場合、または Dynamic Provisioning の仮想ボリューム以外をペアボリュームとして使用している場合は、空白が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。 • [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [ポート名] : セカンダリボリュームのポート名が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。

項目	説明
	[ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]: セカンダリボリュームのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 [iSCSI ターゲット名]: セカンダリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 [LUN ID]: セカンダリボリュームの LUN ID が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 パスが定義されていない ShadowImage ペアの場合は、空白が表示されます。 [プロビジョニングタイプ] ※: セカンダリボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 [Basic]: 内部ボリュームです。 [DP]: DP-VOL です。 [外部ボリューム]: 外部ボリュームです。 [エミュレーションタイプ] ※: セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 [容量] ※: セカンダリボリュームの容量が表示されます。 [CLPR] ※: セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。 [暗号化] ※: セカンダリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 [有効]: セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 [無効]: セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 [混在]: セカンダリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 - 暗号化が有効なボリューム - 暗号化が無効なボリューム - 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 [-]: 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 [容量削減] ※: セカンダリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 [圧縮]: 圧縮機能を使用します。 [重複排除および圧縮]: 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 [無効]: 容量削減機能を使用しません。

項目	説明
	・ [T10 PI] ※：セカンダリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効]：セカンダリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効]：セカンダリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン] ※：セカンダリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] ※：セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 ・ [仮想デバイス名] ※：セカンダリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID] ※：セカンダリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
コピー速度※	コピー速度が表示されます。
CTG ID※	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
ミラーユニット※	ミラーユニット番号が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリュームの LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

[TI ルートボリューム] タブ

各ユーザーにプライマリボリュームが割り当てられている TI ペアだけ表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
TI ペア作成	[TI ペア作成] 画面が表示されます。
TI ペア操作	[TI ペア] 画面が表示されます。
ペア一致率参照	[ペア一致率参照] 画面が表示されます。
ペアプロパティ参照※	[ペアプロパティ参照] 画面が表示されます。
LDEV プロパティ参照※	[LDEV プロパティ参照] 画面が表示されます。
ペア分割※	[ペア分割] 画面が表示されます。
ペア再同期※	[ペア再同期] 画面が表示されます。

項目	説明
セカンダリボリューム割り当て※	[セカンダリボリューム割り当て] 画面が表示されます。
セカンダリボリューム削除※	[セカンダリボリューム削除] 画面が表示されます。
ペア削除※	[ペア削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] ボタンをクリックすると表示されます。

• テーブル

項目	説明
LDEV ID	プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV ID をクリックすると、[TI ペア] 画面が表示されます。
LDEV 名	プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。
ポート名	プライマリボリュームのポート名が表示されます。 パスが定義されていない場合は、空白が表示されます。
ホストグループ名／ iSCSI ターゲットエイリアス	プライマリボリュームのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 パスが定義されていない場合は、空白が表示されます。
iSCSI ターゲット名	プライマリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 パスが定義されていない場合は、空白が表示されます。
LUN ID	プライマリボリュームの LUN ID が表示されます。 パスが定義されていない場合は、空白が表示されます。
容量※	プライマリボリュームの容量が表示されます。
CLPR※	プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
暗号化※	プライマリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ・ [有効]: プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [無効]: プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [混在]: プライマリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [-]: 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。

項目	説明
容量削減※	プライマリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 ・ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ・ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ・ [無効] : 容量削減機能を使用しません。
プール名 (ID)※	プール名と ID が表示されます。
スナップショットデータ数	プライマリボリュームのスナップショットデータ数が表示されます。
PSUE 状態のペア数	PSUE 状態のペア数が表示されます。
Expanding 状態のペア数※	Expanding 状態のペア数が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 ・ [有効] : カスケードペアを作成できます。 ・ [無効] : カスケードペアを作成できません。
T10 PI※	プライマリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ・ [有効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ・ [無効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。
仮想ストレージマシン※	プライマリボリュームが属する仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 ・ [モデル / シリアル番号] : プライマリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。 ・ [デバイス名] : プライマリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [SSID] : プライマリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

[コンシステンシーグループ] タブ

- ボタン

項目	説明
メインフレーム CTG 予約	[メインフレーム CTG 予約] 画面が表示されます。
メインフレーム CTG 予約解除	[メインフレーム CTG 予約解除] 画面が表示されます。

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

• テーブル

項目	説明
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。 CTG ID をクリックすると、[コンシステンシーグループプロパティ] 画面が表示されます。
状態	コンシステンシーグループの状態が表示されます。 • [SI 使用中] : ShadowImage が使用しているコンシステンシーグループです。 • [SIMF 使用中 (RAID Manager)] : RAID Manager によって ShadowImage for Mainframe で使用されているコンシステンシーグループです。 • [SIMF 使用中 (PPRC/BCM)] : RAID Manager 以外によって ShadowImage for Mainframe で使用されているコンシステンシーグループです。PPRC および Business Continuity Manager の場合も同様の表示となります。 • [TI 使用中] : Thin Image が使用しているコンシステンシーグループです。 • [メインフレーム予約] : PPRC および Business Continuity Manager で使用するため予約されているコンシステンシーグループです。 • [空き] : 使用および予約されていないコンシステンシーグループです。 • [(変更中...)] : コンシステンシーグループの状態が変更中であることを表します。
ペア数	使用中のコンシステンシーグループのペア数が表示されます。

表 1 【状態】に表示されるペア状態と説明

【状態】	説明
 [SMPL(PD)]	ShadowImage ペアまたは Thin Image ペアが削除中であることを示します。
 [COPY(PD)/COPY]	ShadowImage ペアがコピー中であることを示します。
 [COPY(RS)/COPY]	ShadowImage ペアが再同期によるコピー中であることを示します。
 [COPY(SP)/COPY]	ShadowImage ペアが通常モードで分割中であることを示します。
 [PSUS(SP)/PSUS]	ShadowImage ペアが高速モードで分割中であることを示します。
 [PAIR]	ペア状態であることを示します。
 [PSUS]	ペアが分割している状態を示します。
 [COPY(RS-R)/RCPY]	ShadowImage ペアがセカンダリボリュームからプライマリボリュームへ再同期中であることを示します。
 [PSUE]	ペアが中断している状態を示します。
 [Deleting/TRANS]	ShadowImage for Mainframe ペアが削除中であることを示します。
 [PENDING]	ShadowImage for Mainframe ペアがコピー中であることを示します。

状態	説明
 [Resync/PENDING]	ShadowImage for Mainframe ペアが再同期によるコピー中であることを示します。
 [SP-Pend/TRANS]	ShadowImage for Mainframe ペアが通常モードで分割中であることを示します。
 [V-Split/SUSPVS]	ShadowImage for Mainframe ペアが高速モードで分割中であることを示します。
 [DUPLEX]	ShadowImage for Mainframe ペア状態であることを示します。
 [Split/SUSPOP]	ShadowImage for Mainframe ペアが分割している状態を示します。
 [Resync-R/REVRSY]	ShadowImage for Mainframe ペアがセカンダリボリュームからプライマリボリュームへ再同期中であることを示します。
 [Suspend/SUSPER]	ShadowImage for Mainframe ペアが中断している状態を示します。
 [COPY]	Thin Image ペアがコピー中であることを示します。
 [RCPY]	Thin Image ペアがセカンダリボリュームからプライマリボリュームへ再同期中であることを示します。
 [PFUL]	Thin Image ペアのプールがしきい値を超えていることを示します。
 [PFUS]	PSUS 状態である Thin Image ペアのプールがしきい値を超えていることを示します。

各ペアの状態については、「[\(1\) ShadowImage ペア状態の定義](#)」を参照してください。Thin Image のペア状態については、『Thin Image ユーザガイド』の、ペア状態の定義について説明している章を参照してください。

[スナップショットグループ] タブ

- ボタン

項目	説明
TI ペア作成	[TI ペア作成] 画面が表示されます。
TI ペア操作	[TI ペア] 画面が表示されます。
ペア一致率参照	[ペア一致率参照] 画面が表示されます。
ペア分割※	[ペア分割] 画面が表示されます。
ペア再同期※	[ペア再同期] 画面が表示されます。
セカンダリボリューム割り当て※	[セカンダリボリューム割り当て] 画面が表示されます。
セカンダリボリューム削除※	[セカンダリボリューム削除] 画面が表示されます。
ペア削除※	[ペア削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] ボタンをクリックすると表示されます。

- テーブル

項目	説明
	・ [ShadowImage for Mainframe] : ShadowImage for Mainframe ペア
プール名(ID)	プール名とプール ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
プール暗号化	プールの暗号化の情報が表示されます。 ・ [有効] : 暗号化が有効なプールボリュームによって作成されたプールです。 ・ [無効] : 暗号化が無効なプールボリュームによって作成されたプールです。 ・ [混在] : プールボリュームに次のどれか 2 つ以上を指定した場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意 : 混在している状態のプールではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[プール暗号化] が [有効] または [無効] のプールを使用してください。 ・ [-] : 外部ボリュームで作成されたプールまたは閉塞しているプールです。また、Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
最新のスナップショット取得時刻	最新のスナップショットデータを取得した日時が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
LDEV ID	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
仮想ストレージマシン	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。
仮想 LDEV ID	プライマリボリュームとセカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。

【ペア】 テーブル

【ペアプロパティ】 テーブルに表示されているペアに関連するペアがすべて表示されます。

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [プロビジョニングタイプ] : プライマリボリュームの種別が表示されます。プロビジョニングの種類 ◦ [Basic] : 内部ボリュームです。 ◦ [DP] : DP-VOL です。 ◦ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。 ・ [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。 ・ [暗号化] : プライマリボリュームの暗号化の情報が表示されます。

項目	説明
	・ [有効] : プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [無効] : プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [混在] : プライマリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・ 暗号化が有効なボリューム ・ 暗号化が無効なボリューム ・ 外部ボリューム 注意 : 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 ・ [T10 PI] : プライマリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ・ [有効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ・ [無効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン] : プライマリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] : プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。 仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 ・ [仮想デバイス名] : プライマリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID] : プライマリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「 (1) ShadowImage ペア状態の定義 」を参照してください。
処理状態	ペアの処理状態が表示されます。 ・ [Expanding] : ShadowImage のペアボリュームの容量を拡張中です。 容量拡張中ではない場合、または Dynamic Provisioning の仮想ボリューム以外をペアボリュームとして使用している場合は、空白が表示されます。
スナップショット取得時刻	スナップショットデータを取得した日時が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。

項目	説明
	• [LDEV ID]: セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名]: セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [プロビジョニングタイプ]: セカンダリボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 ◦ [Basic]: 内部ボリュームです。 ◦ [DP]: DP-VOL です。 ◦ [外部ボリューム]: 外部ボリュームです。 ◦ [Snapshot]: Thin Image のボリュームです。 • [エミュレーションタイプ]: セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量]: セカンダリボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR]: セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [暗号化]: セカンダリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効]: セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効]: セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在]: セカンダリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [-]: 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [モード]: コピータイプによって表示が異なります。それぞれの表示について、以下に示します。 ShadowImage の場合 ◦ [W]: セカンダリボリュームに書き込みがありました。 ◦ [N]: RAID Manager の -m noread 指定によって、セカンダリボリュームの読み込みができません。 セカンダリボリュームのペア状態が PSUS(SP)/PSUS または PSUS で、セカンダリボリュームに書き込みがあり、かつ読み込みができない場合は [W] が表示されます。また、セカンダリボリュームに書き込みがなく、かつ読み込みができる場合は [-] が表示されます。 Thin Image の場合 ◦ [W]: セカンダリボリュームに書き込みがありました。 セカンダリボリュームのペア状態が PSUS で、セカンダリボリュームに書き込みがあった場合は [W] が表示されます。また、セカンダリボリュームに書き込みがなかった場合は [-] が表示されます。 ShadowImage for Mainframe の場合 ◦ [W]: セカンダリボリュームに書き込みがありました。

項目	説明
	◦ [Protect] : Business Continuity Manager から Protect 設定がされています。 セカンダリボリュームのペア状態が V-Split/SUSPVS または Split/SUSPOP で、ホストがセカンダリボリュームに書き込みした場合に、[W] が表示されます。また、セカンダリボリュームのペア状態が Split/SUSPOP、SP-Pend/TRANS および V-Split/SUSPVS で Protect 設定がされている場合は、[Protect]が表示されます。セカンダリボリュームに書き込みがなく、かつ Protect 設定がされていない場合は [-] が表示されます。 • [T10 PI] : セカンダリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効] : セカンダリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効] : セカンダリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 • [仮想ストレージマシン] : セカンダリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [仮想 LDEV ID] : セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 • [仮想デバイス名] : セカンダリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 • [仮想 SSID] : セカンダリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
コピー速度	コピー速度が表示されます。 Thin Image ペアの場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 • [有効] : カスケードペアを作成できます。 • [無効] : カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 • [スナップショット] : スナップショット属性のペアです。 • [クローン] : クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

関連タスク

- [6.1.2 ShadowImage ペアのプロパティを参照する](#)

B.4 [ペア一致率参照] 画面



[ペア] テーブル

- テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。 ・ [仮想ストレージマシン] : プライマリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [仮想 LDEV ID] : プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 ・ [仮想デバイス名] : プライマリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 ・ [仮想 SSID] : プライマリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。

項目	説明
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 • [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア • [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア • [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア Thin Image ペアの場合は、この項目は表示されません。
スナップショットグループ	スナップショットグループの名称が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、この項目は表示されません。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「(1) ShadowImage ペア状態の定義」を参照してください。
一致率(%)	ShadowImage ペアの場合は、ペアの状態によって次の情報が表示されます。 • ペアの状態が COPY(PD)/COPY、COPY(SP)/COPY、または PSUS(SP)/PSUS の場合 コピーの進捗率が表示されます。 • ペアの状態が PAIR、PSUS、COPY(RS-R)/RCPY、または PSUE の場合 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの一致率が表示されます。 • ペアの状態が COPY(RS)/COPY の場合 PSUE 状態のペアを再同期した場合は、コピーの進捗率が表示されます。それ以外の場合は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの一致率が表示されます。 • ペアの状態が SMPL(PD)の場合 [-] が表示されます。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、ペアの状態によって次の情報が表示されます。 • ペアの状態が PENDING、SP-Pend/TRANS、または V-Split/SUSPVS の場合 コピーの進捗率が表示されます。 • ペアの状態が DUPLEX、Split/SUSPOP、Resync-R/REVRSY、または Suspend/SUSPER の場合 プライマリボリュームとセカンダリボリュームの一致率が表示されます。 • ペアの状態が Resync/PENDING の場合 Suspend/SUSPER 状態のペアを再同期した場合は、コピーの進捗率が表示されます。それ以外の場合は、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの一致率が表示されます。 • ペアの状態が Deleting/TRANS の場合 [-] が表示されます。 カスケード属性が無効な Thin Image ペアの場合は、現在のセカンダリボリュームと 1 つ新しい世代のセカンダリボリュームとを比較したときの一致率が表示されます。最新世代の場合は、セカンダリボリュームとプライマリボリュームを比較した一致率が表示されます。カスケード属性が有効な Thin Image ペアの場合は、ペアの状態によって次の情報が表示されます。 • ペアの状態が PAIR、PSUS、または PSUE の場合 現在のセカンダリボリュームと 1 つ新しい世代のセカンダリボリュームとを比較したときの一致率が表示されます。最新世代の場合は、セカンダリボリュームとプライマリボリュームを比較した一致率が表示されます。 • ペアの状態が COPY、PSUS(SP)、RCPY、または SMPL(PD)の場合 それぞれの処理の進捗率が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。

項目	説明
	• [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [CLPR] : セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [仮想ストレージマシン] : セカンダリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [仮想 LDEV ID] : セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 • [仮想デバイス名] : セカンダリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 • [仮想 SSID] : セカンダリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
コピー速度	コピー速度が表示されます。 Thin Image ペアの場合は、この項目は表示されません。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 • [有効] : カスケードペアを作成できます。 • [無効] : カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 • [スナップショット] スナップショット属性のペアです。 • [クローン] : クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

- ボタン

項目	説明
更新	[ペア] テーブルの情報を更新します。

関連タスク

- [6.1.3 ShadowImage ペアの一貫性を参照する](#)

B.5 [操作履歴] 画面

操作履歴

コピータイプ: SI

1 / 1

SI操作履歴 (ページ.1)

日時	プライマリボリューム		セカンダリボリューム		説明コード	説明
	LDEV ID	プロビジョニングタイプ	LDEV ID	プロビジョニングタイプ		
2014/10/22 14:58:29	00:00:41	Basic	00:00:51	Basic	4740	PSUS END
2014/10/22 14:58:29	00:00:41	Basic	00:00:51	Basic	4730	PSUS START
2014/10/22 14:50:12	00:00:46	Basic	00:00:56	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:12	00:00:48	Basic	00:00:58	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:12	00:00:43	Basic	00:00:53	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:12	00:00:47	Basic	00:00:57	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:11	00:00:45	Basic	00:00:55	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:11	00:00:44	Basic	00:00:54	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:11	00:00:49	Basic	00:00:59	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:10	00:00:42	Basic	00:00:52	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:10	00:00:40	Basic	00:00:50	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:10	00:00:41	Basic	00:00:51	Basic	4720	PAIR END
2014/10/22 14:50:03	00:00:49	Basic	00:00:59	Basic	4710	PAIR START
2014/10/22 14:50:03	00:00:48	Basic	00:00:58	Basic	4710	PAIR START
2014/10/22 14:50:03	00:00:47	Basic	00:00:57	Basic	4710	PAIR START
2014/10/22 14:50:03	00:00:46	Basic	00:00:56	Basic	4710	PAIR START
2014/10/22 14:50:03	00:00:45	Basic	00:00:55	Basic	4710	PAIR START
2014/10/22 14:50:03	00:00:44	Basic	00:00:54	Basic	4710	PAIR START
2014/10/22 14:50:03	00:00:43	Basic	00:00:53	Basic	4710	PAIR START

テーブル情報出力

合計: 24

閉じる ?

情報設定エリア

項目	説明
コピータイプ	コピーの種類を選択します。 ・ [SI] : ShadowImage の操作履歴を表示します。 ・ [TI] : Thin Image の操作履歴を表示します。 ・ [SIMF] : ShadowImage for Mainframe の操作履歴を表示します。 ・ [FCv2/FCSE] : Compatible FlashCopy® V2 および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE の操作履歴を表示します。

[操作履歴] テーブル (ShadowImage または ShadowImage for Mainframe の場合)

各ユーザにプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが割り当てられているペアに対する操作だけ表示されます。この画面では、1 ページ当たり 16,384 件の操作履歴を表示します。ストレージシステムには、最新の操作履歴が最大で 1,024,000 件保存されています。

- ・ テーブル

項目	説明
日時	操作した日時が表示されます。
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [プロビジョニングタイプ] : プライマリボリュームの種別が表示されます。

項目	説明
	プロビジョニングの種類 ・ [Basic] : 内部ボリュームです。 ・ [DP] : DP-VOL です。 ・ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。 ・ [External MF] : マイグレーションボリュームです。ShadowImage for Mainframe ペアの場合だけ表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [プロビジョニングタイプ]:セカンダリボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 ・ [Basic] : 内部ボリュームです。 ・ [DP] : DP-VOL です。 ・ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。
説明コード	説明コードが表示されます。
説明	操作の概要が表示されます。 表示される文言の詳細については「 6.3 ShadowImage ペア操作の履歴を参照する 」を参照してください。

- ・ ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

【操作履歴】 テーブル (Thin Image の場合)

各ユーザにプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームが割り当てられているペアに対する操作だけ表示されます。この画面では、1 ページ当たり 16,384 件の操作履歴を表示します。ストレージシステムには、最新の操作履歴が最大で 1,024,000 件保存されています。

- ・ テーブル

項目	説明
日時	操作した日時が表示されます。
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [プロビジョニングタイプ]:プライマリボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 ・ [Basic] : 内部ボリュームです。 ・ [DP] : DP-VOL です。 ・ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [プロビジョニングタイプ]:セカンダリボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 ・ [DP] : DP-VOL です。 ・ [Snapshot] : Thin Image のボリュームです。

項目	説明
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
プール ID	プール ID が表示されます。
説明コード	説明コードが表示されます。
説明	操作の概要が表示されます。

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。 表示される文言の詳細については『Thin Image ユーザガイド』の、操作履歴について説明している章を参照してください。

【操作履歴】テーブル (Compatible FlashCopy® V2 または Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE の場合)

各ユーザーにソースボリュームまたはターゲットボリュームが割り当てられているペアに対する操作だけ表示されます。この画面では、1 ページ当たり 16,384 件の操作履歴を表示します。ストレージシステムには、最新の操作履歴が最大で 1,024,000 件保存されています。

- テーブル

項目	説明
日時	操作した日時が表示されます。
ソースボリューム	ソースボリュームに関する情報が表示されます。 [LDEV ID] : ソースボリュームの LDEV ID が表示されます。 [プロビジョニングタイプ] : ソースボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 [Basic] : 内部ボリュームです。 [DP] : DP-VOL です。 [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。
ターゲットボリューム	ターゲットボリュームに関する情報が表示されます。 [LDEV ID] : ターゲットボリュームの LDEV ID が表示されます。 [プロビジョニングタイプ] : ターゲットボリュームの種別が表示されます。 プロビジョニングの種類 [Basic] : 内部ボリュームです。 [DP] : DP-VOL です。 [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。
リレーションシップ ID	リレーションシップ ID が表示されます。
説明コード	説明コードが表示されます。
説明	操作の概要が表示されます。 表示される文言の詳細については『Compatible FlashCopy® ユーザガイド (Compatible FlashCopy® V2, Compatible FlashCopy® SE)』の、操作履歴について説明している章を参照してください。

- ボタン

項目	説明
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

関連タスク

- 6.3 ShadowImage ペア操作の履歴を参照する

B.6 [コンシステンシーグループプロパティ] 画面

[コンシステンシーグループプロパティ] テーブル

項目	説明
CTG ID	コンシステンシーグループ ID が表示されます。
状態	コンシステンシーグループの状態が表示されます。 〔SI 使用中〕: ShadowImage が使用しているコンシステンシーグループです。 〔SIMF 使用中 (RAID Manager)〕: RAID Manager によって ShadowImage for Mainframe で使用されているコンシステンシーグループです。 〔SIMF 使用中 (PPRC/BCM)〕: RAID Manager 以外によって ShadowImage for Mainframe で使用されているコンシステンシーグループです。PPRC および Business Continuity Manager の場合も同様の表示となります。 〔TI 使用中〕: Thin Image が使用しているコンシステンシーグループです。 〔メインフレーム予約〕: PPRC および Business Continuity Manager で使用するため予約されているコンシステンシーグループです。 〔空き〕: 使用および予約されていないコンシステンシーグループです。

項目	説明
	[(変更中...)]: コンシステンシーグループの状態が変更中であることを表します。
ペア数	コンシステンシーグループのペア数が表示されます。

【ペア】 テーブル

各ユーザにプライマリボリュームおよび/またはセカンダリボリュームが割り当てられているペアだけ表示されます。

- テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID]: プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名]: プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [エミュレーションタイプ]: プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量]: プライマリボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR]: プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [仮想ストレージマシン]: プライマリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [仮想 LDEV ID]: プライマリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 • [仮想デバイス名]: プライマリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 • [仮想 SSID]: プライマリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 • [SI-L1]: ShadowImage の L1 ペア • [SI-L2]: ShadowImage の L2 ペア • [TI]: Thin Image ペア • [SIMF]: ShadowImage for Mainframe ペア
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「(1) ShadowImage ペア状態の定義」を参照してください。
スナップショット取得時刻	スナップショットデータを取得した日時が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。

項目	説明
	• [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [エミュレーションタイプ] : セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量] : セカンダリボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] : セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。 • [仮想ストレージマシン] : セカンダリボリュームの、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 • [仮想 LDEV ID] : セカンダリボリュームの仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合は、空白が表示されます。 • [仮想デバイス名] : セカンダリボリュームの仮想デバイス名が表示されます。 仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 • [仮想 SSID] : セカンダリボリュームの仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。
プール名(ID)	プール名と ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
コピー速度	コピー速度が表示されます。 Thin Image ペアの場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 • [有効] : カスケードペアを作成できます。 • [無効] : カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 • [スナップショット] スナップショット属性のペアです。 • [クローン] : クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

- ボタン

項目	説明
詳細	行を選択してクリックすると、[ペアプロパティ参照] 画面が表示されます。

関連タスク

- [6.2.3 ShadowImage のコンシステンシーグループのプロパティを参照する](#)

B.7 SI ペア作成ウィザード

関連タスク

- 5.3 ShadowImage ペアを作成する

関連参照

- 付録 B.7.1 [ペア構成選択] 画面
- 付録 B.7.2 [プライマリボリューム選択] 画面
- 付録 B.7.3 [セカンダリボリューム選択] 画面
- 付録 B.7.4 [設定確認] 画面

B.7.1 [ペア構成選択] 画面

ペア作成

1. ペア構成選択 > 2. プライマリボリューム選択 > 3. セカンダリボリューム選択 > 4. 確認

このウィザードで、ペアを作成します。作成したいペアの構成を入力するか、ペアトポロジ詳細を設定してください。[次へ]をクリックしてプライマリボリュームを選択します。

コピータイプ: ShadowImage

エミュレーションタイプ: OPEN-V

ペアトポロジタイプ:

分割タイプ: Non Split

コピー速度: 中速

全選択

戻る 次へ 完了 キャンセル ?

情報設定エリア

項目	説明
コピータイプ	コピーの種類を指定します。 [ShadowImage] [ShadowImage for Mainframe]
エミュレーションタイプ	エミュレーションタイプを指定します。

項目	説明
ペアトポロジタイプ	ShadowImage のペア構成を指定します。既存のペアを選択してこの画面を起動した場合は、そのペア構成をペアトポロジタイプで表現します。 各チェックボックスの状態が示す意味を下記に示します。 ・ 未チェックで、チェックボックスが活性：ペアの設定ができます。 ・ チェック済みで、チェックボックスが非活性：ShadowImage のペアがあります。 ・ 未チェックで、チェックボックスが非活性：ペアの設定できません。 [全選択] をクリックすると、すべてのチェックボックスが選択された状態になります。 [コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合だけ、表示されます。
セカンダリボリューム数	1 つのプライマリボリュームに対するセカンダリボリュームの総数(すでに構成されているペアも含む)を指定します。[コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合は、表示されません。
開始 MU 番号	開始 MU 番号を指定します。 [コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合は、表示されません。
分割タイプ	分割タイプを指定します。 ・ [Non Split]：ペアを分割しません。 ・ [Quick Split]：すぐにペアを分割します。ペアの分割が指示されてからすぐにセカンダリボリュームに対して書き込みまたは読み取りを実施したい場合に指定します。残りの差分データは、分割後にバックグラウンドでセカンダリボリュームにコピーされます。 ・ [Steady Split]：すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。
コピー速度	コピー速度を指定します。 ・ [高速] ・ [中速] ・ [低速]

関連参照

- ・ [付録 B.7 SI ペア作成ウィザード](#)

B.7.2 [プライマリボリューム選択] 画面

SIバア作成

1. バア構成選択 > 2. プライマリボリューム選択 > 3. セカンダリボリューム選択 > 4. 確認

利用可能なLDEVリストから、プライマリボリュームとしてLDEVを選択し「追加」をクリックしてください。「次へ」をクリックしてセカンダリボリュームを選択します。

ポート名: CL1-A
ホストグループ名: 任意

利用可能なLDEV

LDEV ID	LDEV 名	ポート名	ホストグループ名 / iSCSI ターゲットエイリアス	iSCSIターゲット名	LUN ID
00:00:00		CL1-A	GP0003 (03)	-	0
00:00:05		CL1-A	1A-G00 (00)	-	0
00:00:06		CL1-A	1A-G00 (00)	-	1
00:00:07		CL1-A	1A-G00 (00)	-	2
00:00:08		CL1-A	1A-G00 (00)	-	3

追加 ▶

◀ 削除

選択したLDEV

LDEV ID	LDEV 名	ポート名	ホストグループ名 / iSCSI ターゲットエイリアス	iSCSIターゲット名	LUN ID
---------	--------	------	-----------------------------	-------------	--------

No Data

選択数: 0 / 5

選択数: 0 / 0

戻る 次へ 完了 キャンセル ?

[ポート名]

[利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV をポート名でフィルタします。

[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

[ホストグループ名]

[ポート名] でファイバチャネルポートを選択したときに表示されます。[利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV をホストグループ名でフィルタします。デフォルトでは [任意] が選択されています。

[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

[iSCSI ターゲットエイリアス]

[ポート名] で iSCSI ポートを選択したときに表示されます。[利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV を iSCSI ターゲットエイリアスでフィルタします。デフォルトでは [任意] が選択されています。

[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

[利用可能な LDEV] テーブル

項目	説明
LDEV ID	プライマリボリュームに指定できる LDEV の LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。

項目	説明
ポート名	LDEV に設定された LUN バスのポート名が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
ホストグループ名／ iSCSI ターゲットエイリアス	LDEV に設定された LUN バスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
iSCSI ターゲット名	iSCSI ターゲット名が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
LUN ID	LDEV に設定された LUN バスの LUN ID が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
プロビジョニングタイプ	LDEV の種別が表示されます。 ・ [Basic] : 内部ボリュームです。 ・ [DP] : DP-VOL です。 ・ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。 ・ [ALU] : ALU 属性のボリュームです。
属性	LDEV の属性が表示されます。 ・ [ALU] : ALU 属性が設定されています。 ・ [SLU] : SLU 属性が設定されています。 ・ [データダイレクトマップ] : データダイレクトマップ属性が設定されています。 ・ [-] : 属性は設定されていません。 [コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
エミュレーションタイプ	LDEV のエミュレーションタイプが表示されます。
容量	LDEV の容量が表示されます。
CLPR	LDEV の CLPR ID が表示されます。
暗号化	LDEV の暗号化の情報が表示されます。 ・ [有効] : LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [無効] : LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [混在] : LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意：混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。
容量削減	LDEV の容量削減機能の情報が表示されます。

項目	説明
	・ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ・ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ・ [無効] : 容量削減機能を使用しません。
T10 PI	LDEV の T10 PI 属性の情報が表示されます。 ・ [有効] : LDEV の T10 PI 属性が有効になっています。 ・ [無効] : LDEV の T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム数	セカンダリボリュームの数が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合、L1 のプライマリボリュームのセカンダリボリューム数には L2 のセカンダリボリュームは含まれません。

【追加】 ボタン

[利用可能な LDEV] テーブルで選択した LDEV を [選択した LDEV] テーブルに追加します。

【削除】 ボタン

[選択した LDEV] テーブルで選択した LDEV を [利用可能な LDEV] テーブルに戻します。

【選択した LDEV】 テーブル

項目	説明
LDEV ID	プライマリボリュームとして選択した LDEV の LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
ポート名	LDEV に設定された LUN パスのポート名が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
ホストグループ名／ iSCSI ターゲットエイリアス	LDEV に設定された LUN パスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
iSCSI ターゲット名	iSCSI ターゲット名が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
LUN ID	LDEV に設定された LUN パスの LUN ID が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
プロビジョニングタイプ	LDEV の種別が表示されます。 ・ [Basic] : 内部ボリュームです。 ・ [DP] : DP-VOL です。 ・ [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。 ・ [ALU] : ALU 属性のボリュームです。
属性	LDEV の属性が表示されます。 ・ [ALU] : ALU 属性が設定されています。 ・ [SLU] : SLU 属性が設定されています。 ・ [データダイレクトマップ] : データダイレクトマップ属性が設定されています。 ・ [-] : 属性は設定されていません。 [コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

項目	説明
エミュレーションタイプ	LDEV のエミュレーションタイプが表示されます。
容量	LDEV の容量が表示されます。
CLPR	LDEV の CLPR ID が表示されます。
暗号化	LDEV の暗号化の情報が表示されます。 ・ [有効] : LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [無効] : LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ・ [混在] : LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意：混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。
容量削減	LDEV の容量削減機能の情報が表示されます。 ・ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ・ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ・ [無効] : 容量削減機能を使用しません。
T10 PI	LDEV の T10 PI 属性の情報が表示されます。 ・ [有効] : LDEV の T10 PI 属性が有効になっています。 ・ [無効] : LDEV の T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム数	セカンダリボリュームの数が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合、L1 のプライマリボリュームのセカンダリボリューム数には L2 のセカンダリボリュームは含まれません。

関連参照

- ・ [付録 B.7 SI ペア作成ウィザード](#)

B.7.3 [セカンダリボリューム選択] 画面

SIペア作成

1. ペア構成選択 > 2. プライマリボリューム選択 > 3. セカンダリボリューム選択 > 4. 確認

利用可能なLDEVリストから、セカンダリボリュームとしたLDEVを選択し[セット]をクリックしてください。選択必須残数が0になるまでLDEVをセットし、[完了]をクリックして内容を確認してください。

容量: 全て - 残り: 1 選択必須残数: 1

☒ ペアボリュームを除く ポート名: CL1-C ホストグループ名: 任意

利用可能なLDEV

LDEV ID	LDEV名	ポート名	ホストグループ名 / iSCSI ターゲットエイリアス	iSCSIターゲット名	LUN ID	エミュレーションタイプ	容量	プロビジョニングタイプ	属性	CLPR	暗号化	容量削減
00:00:04		CL1-C	1C-G00 (00)	-	1	OPEN-V CVS	8.00 GB	Basic	-	0:CLPR0	無効	-
00:00:05		CL1-C	1C-G00 (00)	-	2	OPEN-V CVS	8.00 GB	Basic	-	0:CLPR0	無効	-
00:00:06		CL1-C	1C-G00 (00)	-	3	OPEN-V CVS	8.00 GB	Basic	-	0:CLPR0	無効	-

選択したペア

LDEV ID	LDEV名	ポート名	ホストグループ名 / iSCSI ターゲットエイリアス	iSCSIターゲット名	LUN ID	属性	エミュレーションタイプ	容量	暗号化	容量削減
00:00:03		CL1-C	1C-G00 (00)	-	0	-	OPEN-V CVS	8.00 GB	無効	-

[容量]

テーブルに表示する LDEV の容量を指定します。

[選択必須残数]

選択しなければならないセカンダリボリュームの数が表示されます。

[ペアボリュームを除く]

チェックすると、ペアが組まれているボリュームはテーブルに表示されません。

[コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合だけ表示されます。

[ポート名]

[利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV をポート名でフィルタします。

[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

[ホストグループ名]

[ポート名] でファイバチャネルポートを選択したときに表示されます。[利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV をホストグループ名でフィルタします。デフォルトでは [任意] が選択されています。

[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

[iSCSI ターゲットエイリアス]

[ポート名] で iSCSI ポートを選択したときに表示されます。[利用可能な LDEV] テーブルに表示する LDEV を iSCSI ターゲットエイリアスでフィルタします。デフォルトでは [任意] が選択されています。

[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。

[利用可能な LDEV] テーブル

- テーブル

項目	説明
LDEV ID	セカンダリボリュームに指定できる LDEV の LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
ポート名	LDEV に設定された LUN パスのポート名が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
ホストグループ名／ iSCSI ターゲットエイリアス	LDEV に設定された LUN パスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
iSCSI ターゲット名	iSCSI ターゲット名が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
LUN ID	LDEV に設定された LUN パスの LUN ID が表示されます。[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
エミュレーションタイプ	LDEV のエミュレーションタイプが表示されます。
容量	LDEV の容量が表示されます。
プロビジョニングタイプ	LDEV の種別が表示されます。 • [Basic] : 内部ボリュームです。 • [DP] : DP-VOL です。 • [外部ボリューム] : 外部ボリュームです。 • [Snapshot] : Thin Image のボリュームです。 • [ALU] : ALU 属性のボリュームです。
属性	LDEV の属性が表示されます。 • [ALU] : ALU 属性が設定されています。 • [SLU] : SLU 属性が設定されています。 • [データダイレクトマップ] : データダイレクトマップ属性が設定されています。 • [-] : 属性は設定されていません。 [コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、表示されません。
CLPR	LDEV の CLPR ID が表示されます。
暗号化	LDEV の暗号化の情報が表示されます。 • [有効] : LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 • [無効] : LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。

項目	説明
	・ [混在] : LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ◦ 暗号化が有効なボリューム ◦ 暗号化が無効なボリューム ◦ 外部ボリューム 注意 : 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ・ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。
容量削減	LDEV の容量削減機能の情報が表示されます。 ・ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ・ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ・ [無効] : 容量削減機能を使用しません。
T10 PI	LDEV の T10 PI 属性の情報が表示されます。 ・ [有効] : LDEV の T10 PI 属性が有効になっています。 ・ [無効] : LDEV の T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム数	セカンダリボリュームの数が表示されます。 [コピータイプ] で [ShadowImage] を選択した場合だけ表示されます。

- ・ ボタン

項目	説明
詳細	行を選択してクリックすると、[LDEV プロパティ] 画面が表示されます。

【セット】 ボタン

[利用可能な LDEV] テーブルで選択した LDEV を、[選択したペア] テーブルのセカンダリボリュームに設定します。

【クリア】 ボタン

[選択したペア] テーブルで選択したペアのセカンダリボリュームを、[利用可能な LDEV] テーブルに戻します。

【ペアソート】

ソートの種類を指定します。

- ・ [ミラーユニットで整列] : ミラーユニット番号順に表示します。
- ・ [トポロジで整列] : トポロジ順に表示します。

[コピータイプ] で [ShadowImage] 以外を選択した場合は、表示されません。

【選択したペア】 テーブル

- テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。LDEV が未割り当ての場合、[-] が表示されます。 • [ポート名] : プライマリボリュームに設定された LUN パスのポート名が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : プライマリボリュームに設定された LUN パスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : プライマリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 • [LUN ID] : プライマリボリュームに設定された LUN パスの LUN ID が表示されます。 • [属性] : プライマリボリュームの属性が表示されます。 • [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 • [暗号化] : プライマリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効] : プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効] : プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在] : プライマリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [容量削減] : プライマリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効] : 容量削減機能を使用しません。 • [T10 PI] : プライマリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効] : プライマリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。

項目	説明
	[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、[ポート名]、[ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]、[iSCSI ターゲット名]、[LUN ID]、および [属性] は表示されません。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。LDEV が未割り当ての場合、空白が表示されます。 • [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。LDEV が未割り当ての場合、[-] が表示されます。 • [ポート名] : セカンダリボリュームに設定された LUN パスのポート名が表示されます。 • [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス] : セカンダリボリュームに設定された LUN パスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 • [iSCSI ターゲット名] : セカンダリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 • [LUN ID] : セカンダリボリュームに設定された LUN パスの LUN ID が表示されます。 • [属性] : セカンダリボリュームの属性が表示されます。 • [エミュレーションタイプ] : セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量] : セカンダリボリュームの容量が表示されます。 • [暗号化] : セカンダリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効] : セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効] : セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在] : セカンダリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 • 暗号化が有効なボリューム • 暗号化が無効なボリューム • 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 • [容量削減] : セカンダリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効] : 容量削減機能を使用しません。 • [T10 PI] : セカンダリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効] : セカンダリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効] : セカンダリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。

項目	説明
	[コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、[ポート名]、[ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]、[iSCSI ターゲット名]、[LUN ID]、および [属性] は表示されません。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 • [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア • [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア • [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
分割タイプ	分割タイプを指定します。 • [Non Split] : ペアを分割しません。 • [Quick Split] : すぐにペアを分割します。ペアの分割が指示されてからすぐにセカンダリボリュームに対して書き込みまたは読み取りを実施したい場合に指定します。残りの差分データは、分割後にバックグラウンドでセカンダリボリュームにコピーされます。 • [Steady Split] : すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。
コピー速度	コピー速度を指定します。

- ボタン

項目	説明
オプション変更	クリックすると、[オプション変更] 画面が表示されます。 [オプション変更] 画面で変更した内容は、新規に作成するすべてのペアに適用されます。
ミラーユニット編集	行を選択してクリックすると、[ミラーユニット編集] 画面が表示されます。
削除	選択した行をテーブルから削除します。コピータイプで [ShadowImage] を選択した場合、L2 ペアが設定されている L1 ペアは削除できません。

関連参照

- [付録 B.7 SI ペア作成ウィザード](#)

B.7.4 [設定確認] 画面

[illegible]

〔選択したペア〕 テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID]: プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名]: プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [ポート名]: プライマリボリュームに設定された LUN パスのポート名が表示されます。 ・ [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]: プライマリボリュームに設定された LUN パスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 ・ [iSCSI ターゲット名]: プライマリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 ・ [LUN ID]: プライマリボリュームに設定された LUN パスの LUN ID が表示されます。 ・ [属性]: プライマリボリュームの属性が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ]: プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量]: プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR]: プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。 ・ [暗号化]: プライマリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効]: プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なブールボリュームのブールに関連づけられた仮想ボリュームです。

項目	説明
	◦ [無効]: プライマリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在]: プライマリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・ 暗号化が有効なボリューム ・ 暗号化が無効なボリューム ・ 外部ボリューム 注意: 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [-]: 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 ・ [容量削減]: プライマリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮]: 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮]: 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効]: 容量削減機能を使用しません。 ・ [T10 PI]: プライマリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効]: プライマリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効]: プライマリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 [コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、[ポート名]、[ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]、[iSCSI ターゲット名]、[LUN ID]、および [属性] は表示されません。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 ・ [SI-L1]: ShadowImage の L1 ペア ・ [SI-L2]: ShadowImage の L2 ペア ・ [SIMF]: ShadowImage for Mainframe ペア
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID]: セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名]: セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [ポート名]: セカンダリボリュームに設定された LUN パスのポート名が表示されます。 ・ [ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]: セカンダリボリュームに設定された LUN パスのホストグループ名および iSCSI ターゲットエイリアスと、それぞれの ID が表示されます。 ・ [iSCSI ターゲット名]: セカンダリボリュームの iSCSI ターゲット名が表示されます。 ・ [LUN ID]: セカンダリボリュームに設定された LUN パスの LUN ID が表示されます。 ・ [属性]: セカンダリボリュームの属性が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ]: セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量]: セカンダリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR]: セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。

項目	説明
	・ [暗号化] : セカンダリボリュームの暗号化の情報が表示されます。 ◦ [有効] : セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が有効になっています。または、暗号化が有効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [無効] : セカンダリボリュームの LDEV が属するパリティグループの暗号化が無効になっています。または、暗号化が無効なプールボリュームのプールに関連づけられた仮想ボリュームです。 ◦ [混在] : セカンダリボリュームの LDEV が属するプールに、次のどれか 2 つ以上が含まれている場合に表示されます。 ・ 暗号化が有効なボリューム ・ 暗号化が無効なボリューム ・ 外部ボリューム 注意 : 混在している状態の LDEV ではデータの暗号化が保証されません。データの暗号化を管理したい場合は、[暗号化] が [有効] または [無効] の LDEV を使用してください。 ◦ [-] : 外部ボリュームまたはマイグレーションボリュームです。 Dynamic Provisioning または Dynamic Provisioning for Mainframe の仮想ボリュームの場合は、LDEV が属するプールが外部ボリュームまたは閉塞しています。 ・ [容量削減] : セカンダリボリュームの容量削減機能の情報が表示されます。 ◦ [圧縮] : 圧縮機能を使用します。 ◦ [重複排除および圧縮] : 重複排除機能および圧縮機能を使用します。 ◦ [無効] : 容量削減機能を使用しません。 ・ [T10 PI] : セカンダリボリュームの、T10 PI 属性の情報が表示されます。 ◦ [有効] : セカンダリボリュームの T10 PI 属性が有効になっています。 ◦ [無効] : セカンダリボリュームの T10 PI 属性が無効になっています。 ShadowImage for Mainframe ペアの場合は、[-] が表示されます。 [コピータイプ] で [ShadowImage for Mainframe] を選択した場合は、[ポート名]、[ホストグループ名/iSCSI ターゲットエイリアス]、[iSCSI ターゲット名]、[LUN ID]、および [属性] は表示されません。
分割タイプ	分割タイプが表示されます。 ・ [Non Split] : ペアを分割しません。 ・ [Quick Split] : すぐにペアを分割します。 ・ [Steady Split] : すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。
コピー速度	コピー速度が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。

関連参照

- ・ [付録 B.7 SI ペア作成ウィザード](#)

B.8 ペア分割ウィザード

関連タスク

- ・ [5.4 ShadowImage ペアを分割する](#)

- 付録 B.8.1 [ペア分割] 画面
- 付録 B.8.2 [設定確認] 画面

B.8.1 [ペア分割] 画面

ベア分割

1.ベア分割

> 2.確認

このウィザードで、ベアを分割できます。分割タイプ、コピー速度を選択してください。「完了」をクリックして内容を確認・終了してください。

ベア:

選択したベア

全フィルタ

ON

OFF

オプション

1 / 1

プライマリボリューム

LDEV ID

LDEV名

エミュレーションタイプ

容量

CLPR

コピータイプ

スナップショットグループ

状態

セカンダリボリューム

LDEV ID

LDEV名

00:00:40		OPEN-V CVS	0.10 GB	0:CLPR0	SI-L1	-	PAIR	00:00:50	

合計: 1

分割タイプ: Quick Split

コピー速度: 中速

戻る

次へ

完了

キャンセル

?

[選択したペア] テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 ・ [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア ・ [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア ・ [TI] : Thin Image ペア ・ [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「(1) ShadowImage ペア状態の定義」を参照してください。

項目	説明
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : セカンダリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。
プール名(ID)	プール名と ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 ・ [有効] : カスケードペアを作成できます。 ・ [無効] : カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 ・ [スナップショット] スナップショット属性のペアです。 ・ [クローン] : クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

[分割タイプ]

分割タイプを指定します。

- ・ [Quick Split] : すぐにペアを分割します。ペアの分割が指示されてからすぐにセカンダリボリュームに対して書き込みまたは読み取りを実施したい場合に指定します。残りの差分データは、分割後にバックグラウンドでセカンダリボリュームにコピーされます。
- ・ [Steady Split] : すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。

Thin Image ペアの場合は、[Steady Split] だけ選択できます。

[コピー速度]

コピー速度を指定します。

- ・ [高速]
- ・ [中速]
- ・ [低速]

スナップショット属性の Thin Image ペアの場合は、コピー速度を選択できません。[-] が表示されます。

関連参照

- ・ [付録 B.8 ペア分割ウィザード](#)

B.8.2 [設定確認] 画面

[illegible]

〔選択したペア〕 テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 ・ [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア ・ [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア ・ [TI] : Thin Image ペア ・ [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「(1) ShadowImage ペア状態の定義」を参照してください。
分割タイプ	分割タイプが表示されます。 ・ [Quick Split] : すぐにペアを分割します。 ・ [Steady Split] : すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。

項目	説明
コピー速度	コピー速度が表示されます。 Thin Image ペアの場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 [エミュレーションタイプ] : セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 [容量] : セカンダリボリュームの容量が表示されます。 [CLPR] : セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。
プール名(ID)	プール名と ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 [有効] : カスケードペアを作成できます。 [無効] : カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 [スナップショット] : スナップショット属性のペアです。 [クローン] : クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

関連参照

- [付録 B.7 SI ペア作成ウィザード](#)

B.9 ペア再同期ウィザード

関連タスク

- [5.6 ShadowImage ペアを再同期する](#)

関連参照

- [付録 B.9.1 \[ペア再同期\] 画面](#)
- [付録 B.9.2 \[設定確認\] 画面](#)

B.9.1 [ペア再同期] 画面

ペア再同期

1.ペア再同期

> 2.確認

このウィザードで、ペアを再同期できます。再同期タイプ、コピー速度を選択してください。「完了」をクリックして内容を確認・終了してください。

ペア:

選択したペア

全フィルタ

ON

OFF

オプション

1 / 1

LDEV ID	LDEV名	エミュレーションタイプ	容量	CLPR	コピータイプ	スナップショットグループ	状態	スナップショット取得時刻	セカ
00:00:41		OPEN-V CVS	0.10 GB	0:CLPR0	SI-L1	-	PSUS	-	00

合計: 1

再同期タイプ:

Normal Copy (プライマリ > セカンダリ)

コピー速度:

中速

戻る

次へ

完了

キャンセル

?

「選択したペア」テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 ・ [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア ・ [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア ・ [TI] : Thin Image ペア ・ [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「 (1) ShadowImage ペア状態の定義 」を参照してください。
スナップショット取得時刻	スナップショットを取得した日時が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。

項目	説明
	・ [LDEV 名]: セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ]: セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量]: セカンダリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR]: セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。
プール名(ID)	プール名と ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 ・ [有効]: カスケードペアを作成できます。 ・ [無効]: カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 ・ [スナップショット] スナップショット属性のペアです。 ・ [クローン]: クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

[再同期タイプ]

再同期タイプを指定します。

- ・ [Normal Copy (プライマリ > セカンダリ)]: ペアをプライマリボリュームからセカンダリボリュームに再同期します。すべての差分データはセカンダリボリュームに更新されます。
- ・ [Reverse Copy (セカンダリ > プライマリ)]: ペアをセカンダリボリュームからプライマリボリュームに再同期します。すべての差分データはプライマリボリュームに更新されます。また、次のペアには使用できません。
 - ShadowImage の L2 ペア
 - FCv2/FCSE ペアとプライマリボリュームを共有している ShadowImage for Mainframe ペア
- ・ [Quick Resync (プライマリ > セカンダリ)]: ペアをプライマリボリュームからセカンダリボリュームに再同期します。ペアの状態をすぐに PAIR に変更します。差分データは、更新コピー中にコピーされます。ShadowImage ペアまたは ShadowImage for Mainframe ペアの場合だけ選択できます。
- ・ [Quick Restore (セカンダリ > プライマリ)]: プライマリボリュームとセカンダリボリュームが交替します。ボリューム間にある差分データは、更新コピー中にコピーされます。ShadowImage ペアまたは ShadowImage for Mainframe ペアの場合だけ選択できます。また、次のペアには使用できません。
 - ShadowImage の L2 ペア
 - プライマリボリュームまたはセカンダリボリュームのどちらか一方だけが DP-VOL のペア
 - プライマリボリュームまたは/およびセカンダリボリュームに Thin Image ペアがある ShadowImage ペア

- ・ FCv2/FCSE ペアとプライマリボリュームを共有している ShadowImage for Mainframe ペア

【コピー速度】

コピー速度を指定します。

- ・ [高速]
- ・ [中速]
- ・ [低速]

Thin Image ペアの場合は、コピー速度を選択できません。[-] が表示されます。

関連参照

- ・ [付録 B.9 ペア再同期ウィザード](#)

B.9.2 【設定確認】 画面

【選択したペア】 テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。

項目	説明
	・ [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア ・ [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア ・ [TI] : Thin Image ペア ・ [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「(1) ShadowImage ペア状態の定義」を参照してください。
再同期タイプ	再同期タイプが表示されます。 ・ [Normal Copy (プライマリ > セカンダリ)] : ペアをプライマリボリュームからセカンダリボリュームに再同期します。 ・ [Reverse Copy (セカンダリ > プライマリ)] : ペアをセカンダリボリュームからプライマリボリュームに再同期します。 ・ [Quick Resync (プライマリ > セカンダリ)] : ペアをプライマリボリュームからセカンダリボリュームに再同期します。ペアの状態をすぐに PAIR に変更します。 ・ [Quick Restore (セカンダリ > プライマリ)] : プライマリボリュームとセカンダリボリュームが交替します。
コピー速度	コピー速度が表示されます。 Thin Image ペアの場合は、[-] が表示されます。
スナップショット取得時刻	スナップショットデータを取得した日時が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : セカンダリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。
プール名(ID)	プール名と ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 ・ [有効] : カスケードペアを作成できます。 ・ [無効] : カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 ・ [スナップショット] : スナップショット属性のペアです。 ・ [クローン] : クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリュ

項目	説明
	ーム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

関連概念

- (1) [ShadowImage ペア状態の定義](#)

B.10 [ペア中断] 画面

[選択したペア] テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 • [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 • [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 • [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 • [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア • [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア • [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「(1) ShadowImage ペア状態の定義」を参照してください。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 • [LDEV ID] : セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 • [LDEV 名] : セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。

項目	説明
	・ [エミュレーションタイプ] : セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : セカンダリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。

関連タスク

- ・ [5.7 ShadowImage ペアを中断する](#)

B.11 [ペア削除] 画面

ペア削除

1.確認

選択したペアを削除します。操作を続けますか？

タスク名:

141028-DeletePairs

(最大32文字)

選択したペア

プライマリボリューム					コピータイプ	スナップショットグループ
LDEV ID	LDEV名	エミュレーションタイプ	容量	CLPR		
00:00:40		OPEN-V CVS	0.10 GB	0:CLPR0	SI-L1	-

合計: 1

☐ 「適用」をクリックした後にタスク画面を表示

戻る

次へ

適用

キャンセル

?

[選択したペア] テーブル

項目	説明
プライマリボリューム	プライマリボリュームに関する情報が表示されます。 ・ [LDEV ID] : プライマリボリュームの LDEV ID が表示されます。 ・ [LDEV 名] : プライマリボリュームの LDEV 名が表示されます。 ・ [エミュレーションタイプ] : プライマリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 ・ [容量] : プライマリボリュームの容量が表示されます。 ・ [CLPR] : プライマリボリュームの CLPR ID が表示されます。
コピータイプ	コピーの種類が表示されます。 ・ [SI-L1] : ShadowImage の L1 ペア ・ [SI-L2] : ShadowImage の L2 ペア ・ [TI] : Thin Image ペア ・ [SIMF] : ShadowImage for Mainframe ペア
スナップショットグループ	スナップショットグループ名が表示されます。Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。Thin Image ペアでスナップショットグループが設定されていない場合は、空白が表示されます。

項目	説明
状態	ペアの状態が表示されます。 各ペアの状態については「 (1) ShadowImage ペア状態の定義 」を参照してください。
スナップショット取得時刻	スナップショットデータを取得した日時が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
セカンダリボリューム	セカンダリボリュームに関する情報が表示されます。 [LDEV ID]: セカンダリボリュームの LDEV ID が表示されます。 [LDEV 名]: セカンダリボリュームの LDEV 名が表示されます。 [エミュレーションタイプ]: セカンダリボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。 [容量]: セカンダリボリュームの容量が表示されます。 [CLPR]: セカンダリボリュームの CLPR ID が表示されます。
プール名(ID)	プール名と ID が表示されます。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
ミラーユニット	ミラーユニット番号が表示されます。
カスケード	カスケードペアを作成できるかどうかが表示されます。 [有効]: カスケードペアを作成できます。 [無効]: カスケードペアを作成できません。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
タイプ	ペアタイプが表示されます。 [スナップショット]: スナップショット属性のペアです。 [クローン]: クローン属性のペアです。 Thin Image ペア以外の場合は、[-] が表示されます。
トポロジ ID	トポロジ ID が表示されます。トポロジ ID では、ミラーユニットを基点にしたペアの階層を表示しています。トポロジ ID は、対象となるペアの基点となるボリューム (Thin Image ペアの場合はルートボリューム) の LDEV ID とミラーユニットを組み合わせた形式で表示されます。

関連タスク

- [5.8 ShadowImage ペアを削除する](#)

B.12 [ミラーユニット編集] 画面

ミラーユニット編集

MU番号を入力して[OK]をクリックしてください。

ミラーユニット: L1 L2

1 (0-2) -

OK キャンセル ?

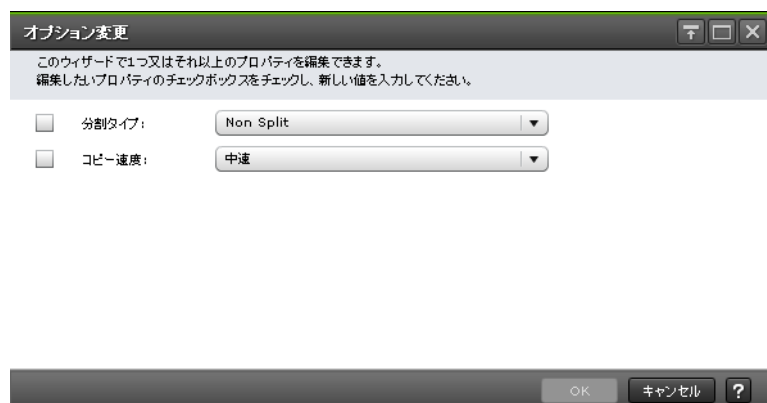
情報設定エリア

項目	説明
ミラーユニット	ミラーユニット番号を指定します。

関連タスク

- ・ [5.3 ShadowImage ペアを作成する](#)

B.13 [オプション変更] 画面



情報設定エリア

項目	説明
分割タイプ	分割タイプを指定します。 ・ [Non Split] : ペアを分割しません。 ・ [Quick Split] : すぐにペアを分割します。ペアの分割が指示されてからすぐにセカンダリボリュームに対して書き込みまたは読み取りを実施したい場合に指定します。残りの差分データは、分割後にバックグラウンドでセカンダリボリュームにコピーされます。 ・ [Steady Split] : すべての差分データのコピーが完了後、ペアを分割します。
コピー速度	コピー速度を指定します。 ・ [高速] ・ [中速] ・ [低速]

関連タスク

- ・ [5.3 ShadowImage ペアを作成する](#)

B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード

関連参照

- ・ [付録 B.14.1 \[ローカルレプリカオプション編集\] 画面](#)
- ・ [付録 B.14.2 \[設定確認\] 画面](#)

B.14.1 [ローカルレプリカオプション編集] 画面



[システムタイプ : オープン]

ShadowImage および Thin Image のシステムオプションを変更する場合に選択します。

[SI/TI システムオプション] テーブル

- テーブル

項目	説明
システムオプション	システムオプションが表示されます。システムオプションの横の数字はシステムオプション番号を示します。 • [Swap & Freeze] (#1) : Quick Restore 直後のデータをそのままの状態に保存したいときに使用します。このオプションを有効にして Quick Restore を実行すると、Quick Restore を実行したあとの更新コピーが抑止され、ペア状態が PAIR になったペアのセカンダリボリュームが更新されないでそのままの状態に保存されます。 • [Host I/O Performance] (#2) : ボリュームのコピー時間よりもホスト I/O のレスポンスを重視したい場合に使用します。このオプションを有効にすると、コピー処理の実行が抑えられ、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。 • [HOST I/O 優先モード] (#9～#13) : ShadowImage のコピー処理を伴うホスト I/O に対して、Write ペンディング率が下がらず、オプションで指定した時間内にホスト I/O が完了しない場合に、ShadowImage のコピー

項目	説明																				
	処理を失敗させ、ホスト I/O を優先します。コピー処理が失敗した後の再同期は全コピーになります。 コピー処理を失敗させるまでの時間が、ホスト I/O のタイムアウト時間よりも短くなるように設定してください。極端に短い時間を設定すると、一時的な過負荷でも、コピー処理が失敗する可能性があります。 例えば、ホスト I/O のタイムアウト時間が 60 秒以上の場合は、目安として、コピー処理を失敗させるまでの時間を 30 秒程度に設定してください。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>システムオプション</th><th>コピー処理失敗までの時間（秒）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 1(#9)</td><td>1</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 2(#10)</td><td>2</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 3(#11)</td><td>4</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 4(#12)</td><td>8</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 5(#13)</td><td>16</td></tr> </tbody> </table> #9～#13 のシステムオプションを組み合わせて、コピー処理を失敗させるまでの時間を設定してください。例えば、#12 と #13 を有効にすると、コピー処理を失敗させるまでの時間が 24 秒になります。 [注意事項] コピー失敗までの時間について、構成によって次の差異があります。 - ShadowImage 単体 1～31 秒の範囲で設定できます。 - 他プログラムプロダクトと ShadowImage のプライマリボリュームを連携した構成では、次のようになります。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>構成</th><th>コピー失敗までの時間の設定可能な範囲（秒）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携</td><td>1～31</td></tr> <tr> <td>他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と S-VOL の両方と連携</td><td>ShadowImage の P-VOL へホスト I/O を実施 1～31</td></tr> <tr> <td></td><td>他プログラムプロダクト※1 の P-VOL へホスト I/O を実施※2 1～14</td></tr> </tbody> </table> 注※1 TrueCopy、Universal Replicator、global-active device のみ対象となります。その他プログラムプロダクトについては ShadowImage 単体に準じます。 注※2 Universal Replicator の P-VOL へホスト I/O を実施した場合は、このオプションの機能が有効になりません。 [Nondisruptive Migration Data Consistency] (#16) : データ移行中に最新データが移行先ストレージシステムと移行元ストレージシステムに分散することなく、移行元ストレージシステムに最新のデータを保持できます。 [進捗率表示] (#17) : カスケード属性が無効な Thin Image ペアにおいて、Storage Navigator ([ペア一致率参照] 画面の [一致率(%)]) または RAID	システムオプション	コピー処理失敗までの時間（秒）	HOST I/O 優先モード 1(#9)	1	HOST I/O 優先モード 2(#10)	2	HOST I/O 優先モード 3(#11)	4	HOST I/O 優先モード 4(#12)	8	HOST I/O 優先モード 5(#13)	16	構成	コピー失敗までの時間の設定可能な範囲（秒）	他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携	1～31	他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と S-VOL の両方と連携	ShadowImage の P-VOL へホスト I/O を実施 1～31		他プログラムプロダクト※1 の P-VOL へホスト I/O を実施※2 1～14
システムオプション	コピー処理失敗までの時間（秒）																				
HOST I/O 優先モード 1(#9)	1																				
HOST I/O 優先モード 2(#10)	2																				
HOST I/O 優先モード 3(#11)	4																				
HOST I/O 優先モード 4(#12)	8																				
HOST I/O 優先モード 5(#13)	16																				
構成	コピー失敗までの時間の設定可能な範囲（秒）																				
他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携	1～31																				
他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と S-VOL の両方と連携	ShadowImage の P-VOL へホスト I/O を実施 1～31																				
	他プログラムプロダクト※1 の P-VOL へホスト I/O を実施※2 1～14																				

項目	説明
	Manager のペア一致率に表示される内容を、一致率から進捗率に切り替えます。ただし、このオプションを有効にしても進捗率が表示されるのは、ペア状態が COPY、RCPY、または SMPL(PD)の場合に限ります。このオプションが有効時に表示される内容をペア状態により次に示します。 - ペアの状態が COPY、RCPY、または SMPL(PD)の場合 それぞれの処理の進捗率が表示されます。 - ペアの状態が PAIR、PSUS、または PSUE の場合 現在のセカンダリボリュームと 1 つ新しい世代のセカンダリボリュームとを比較したときの一致率が表示されます。最新世代の場合は、セカンダリボリュームとプライマリボリュームを比較した一致率が表示されます。 [Copy Pace Ext. Slower1] (#20) [Copy Pace Ext. Slower2] (#21) [Copy Pace Ext. None] (#22) ペア状態が PAIR になった状態でのコピー量を抑えることで、ホストサーバの I/O 性能への影響を抑えます。このオプションは、ペア状態が PAIR になっているすべてのペアに対して有効です。ホストサーバの I/O 性能への影響を抑える効果は、Copy Pace Ext. Slower1、Copy Pace Ext. Slower2、Copy Pace Ext. None の順で大きくなります。 [Quick/Steady Split 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)] (#24) : ShadowImage ペアの分割を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度 (同時にコピーを実行できるジョブ数) が 1 から 24 になります。 [Reverse Copy 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)] (#25) : ShadowImage ペアの再同期(セカンダリ > プライマリ)を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度 (同時にコピーを実行できるジョブ数) が 1 から 24 になります。 [Normal Resync 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)] (#26) : ShadowImage ペアの再同期(プライマリ > セカンダリ)を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度 (同時にコピーを実行できるジョブ数) が 1 から最大 24 になります。 [シェアドメモリ空き容量警告のアラート通知を抑止] (#30) : SIM コード 603000 のアラート通知を抑止します。
状態	システムオプションの状態が表示されます。 [有効] : システムオプションは有効です。 [無効] : システムオプションは無効です。

- ボタン

項目	説明
有効	有効にしたいシステムオプションを選択してクリックすると、[状態] 列が [有効] になります。
無効	無効にしたいシステムオプションを選択してクリックすると、[状態] 列が [無効] になります。

[システムタイプ：メインフレーム]

ShadowImage for Mainframe、Compatible FlashCopy® V2、および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE のシステムオプションを変更する場合に選択します。

[SIMF/FCv2/FCSE システムオプション] テーブル

- テーブル

項目	説明												
システムオプション	システムオプションが表示されます。システムオプションの横の数字はシステムオプション番号を示します。 • [Swap & Freeze] (#1) : Quick Restore 直後のデータをそのままの状態に保存したいときに使用します。このオプションを有効にして Quick Restore を実行すると、Quick Restore 後の更新コピーが抑止され、DUPLEX 状態になったペアのセカンダリボリューム (FCv2 リレーションシップまたは FCSE リレーションシップの場合はターゲットボリューム) が更新されないでそのままの状態に保存されます。 • [Host I/O Performance] (#2) : ボリュームのコピー時間よりもホスト I/O のレスポンスを重視したい場合に使用します。このオプションを有効にすると、コピー処理の実行が抑えられ、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。 • [FC Slower Copy1] (#3) : FCv2 または FCSE リレーションシップのバックグラウンドコピーの多重度 (同時にバックグラウンドコピーを実行できるリレーションシップの数) がオプションを指定しない場合の 2 分の 1 に抑えられ、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。 • [FC Slower Copy2] (#4) : FCv2 または FCSE リレーションシップのバックグラウンドコピーの多重度 (同時にバックグラウンドコピーを実行できるリレーションシップの数) がオプションを指定しない場合の 4 分の 1 に抑えられ、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。 • [HOST I/O 優先モード] (#9~#13) : ShadowImage for Mainframe のコピー処理を伴うホスト I/O に対して、Write ペンディング率が下がらず、オプションで指定した時間内にホスト I/O が完了しない場合に、ShadowImage for Mainframe のコピー処理を失敗させ、ホスト I/O を優先します。コピー処理が失敗した後の再同期は全コピーになります。コピー処理を失敗させるまでの時間が、ホスト I/O のタイムアウト時間よりも短くなるように設定してください。極端に短い時間を設定すると、一時的な過負荷でも、コピー処理が失敗する可能性があります。例えば、ホスト I/O のタイムアウト時間が 60 秒以上の場合は、目安として、コピー処理を失敗させるまでの時間を 30 秒程度に設定してください。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>システムオプション</th><th>コピー処理失敗までの時間 (秒)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 1(#9)</td><td>1</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 2(#10)</td><td>2</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 3(#11)</td><td>4</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 4(#12)</td><td>8</td></tr> <tr> <td>HOST I/O 優先モード 5(#13)</td><td>16</td></tr> </tbody> </table> #9~#13 のシステムオプションを組み合わせて、コピー処理を失敗させるまでの時間を設定してください。例えば、#12 と #13 を有効にすると、コピー処理を失敗させるまでの時間が 24 秒になります。 [注意事項] コピー失敗までの時間について、構成によって次の差異があります。	システムオプション	コピー処理失敗までの時間 (秒)	HOST I/O 優先モード 1(#9)	1	HOST I/O 優先モード 2(#10)	2	HOST I/O 優先モード 3(#11)	4	HOST I/O 優先モード 4(#12)	8	HOST I/O 優先モード 5(#13)	16
システムオプション	コピー処理失敗までの時間 (秒)												
HOST I/O 優先モード 1(#9)	1												
HOST I/O 優先モード 2(#10)	2												
HOST I/O 優先モード 3(#11)	4												
HOST I/O 優先モード 4(#12)	8												
HOST I/O 優先モード 5(#13)	16												

項目	説明											
	- ShadowImage for Mainframe 単体 1〜31 秒の範囲で設定できます。 - 他プログラムプロダクトと ShadowImage for Mainframe のプライマリボリュームを連携した構成では、次のようになります。 <table><tr><th colspan="2">構成</th><th>コピー失敗までの時間の設定可能な範囲 (秒)</th></tr><tr><td colspan="2">他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携</td><td>1〜31</td></tr><tr><td rowspan="2">他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と S-VOL の両方と連携</td><td>ShadowImage for Mainframe の P-VOL へホスト I/O を実施</td><td>1〜31</td></tr><tr><td>他プログラムプロダクト※1 の P-VOL へホスト I/O を実施</td><td>設定不可※2</td></tr></table> 注※1 TrueCopy for Mainframe、Universal Replicator for Mainframe のみ対象となります。その他プログラムプロダクトについては ShadowImage for Mainframe 単体に準じます。 注※2 このオプションの機能が有効になりません。 [Nondisruptive Migration Data Consistency] (#16) : データ移行中に最新データが移行先ストレージシステムと移行元ストレージシステムに分散することなく、移行元ストレージシステムに最新のデータを保持できます。 [FC Ext. Slower Copy1](#17) : FCv2 または FCSE リレーションシップのソースボリュームまたはターゲットボリュームが割り当てられた MP ブレードの MP 稼働率が 65%を超えている場合、FCv2 または FCSE リレーションシップのバックグラウンドコピーが制限され、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。 [FC Ext. Slower Copy2] (#18): FCv2 または FCSE リレーションシップのソースボリュームまたはターゲットボリュームが割り当てられた MP ブレードの MP 稼働率が 50%を超えている場合、FCv2 または FCSE リレーションシップのバックグラウンドコピーが制限され、ホスト I/O のレスポンスが改善されます。 [Copy Pace Ext. Slower1] (#20) [Copy Pace Ext. Slower2] (#21) [Copy Pace Ext. None] (#22) DUPLEX 状態でのコピー量を抑えることで、ホストサーバの I/O 性能への影響を抑えます。このオプションは、DUPLEX 状態のすべてのペアに対して有効です。ホストサーバの I/O 性能への影響を抑える効果は、Copy Pace Ext. Slower1、Copy Pace Ext. Slower2、Copy Pace Ext. None の順で大きくなります。 [Quick/Steady Split 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)] (#24) : ShadowImage for Mainframe ペアの分割を高速化します。	構成		コピー失敗までの時間の設定可能な範囲 (秒)	他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携		1〜31	他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と S-VOL の両方と連携	ShadowImage for Mainframe の P-VOL へホスト I/O を実施	1〜31	他プログラムプロダクト※1 の P-VOL へホスト I/O を実施	設定不可※2
構成		コピー失敗までの時間の設定可能な範囲 (秒)										
他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と連携		1〜31										
他プログラムプロダクト※1 の S-VOL と連携、または他プログラムプロダクト※1 の P-VOL と S-VOL の両方と連携	ShadowImage for Mainframe の P-VOL へホスト I/O を実施	1〜31										
	他プログラムプロダクト※1 の P-VOL へホスト I/O を実施	設定不可※2										

項目	説明
	1 ペア当たりのコピー処理の多重度 (同時にコピーを実行できるジョブ数) が 1 から 24 になります。 • [Reverse Copy 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)] (#25) : ShadowImage for Mainframe ペアの再同期(セカンダリ > プライマリ)を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度 (同時にコピーを実行できるジョブ数) が 1 から 24 になります。 • [Normal Resync 多重化(ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)] (#26) : ShadowImage for Mainframe ペアの再同期(プライマリ > セカンダリ)を高速化します。 1 ペア当たりのコピー処理の多重度 (同時にコピーを実行できるジョブ数) が 1 から最大 24 になります。
状態	システムオプションの状態が表示されます。 • [有効] : システムオプションは有効です。 • [無効] : システムオプションは無効です。

- ボタン

項目	説明
有効	有効にしたいシステムオプションを選択してクリックすると、[状態] 列が [有効] になります。
無効	無効にしたいシステムオプションを選択してクリックすると、[状態] 列が [無効] になります。

関連参照

- [付録 B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード](#)

B.14.2 [設定確認] 画面

ローカルレプリカオプション編集

1. ローカルレプリカオプション編集 > 2. 確認

タスク名を入力してください。リストの設定を確認し、「適用」をクリックするとタスクがタスクキュー(実行待ちタスク)に追加されます。

タスク名: 220506-EditLocalReplicaOptions (最大32文字)

SI/TI システムオプション	
システムオプション	状態
Swap & Freeze	無効
HOST I/O Performance	無効
Reserve03	無効
Reserve04	無効
Reserve05	無効
Reserve06	無効
Reserve07	無効
Reserve08	無効
HOST I/O優先モード1	無効
HOST I/O優先モード2	無効
HOST I/O優先モード3	無効
HOST I/O優先モード4	無効
HOST I/O優先モード5	無効
Reserve14	無効
Reserve15	無効
Nondisruptive Migration Data Consistency	無効
進捗率表示	無効
Reserve18	無効
Reserve19	無効
Copy Pace Ext. Slower1	無効
Copy Pace Ext. Slower2	無効
Copy Pace Ext. None	無効
Reserve23	無効
Quick/Steady Split多重化 (ShadowImage/ShadowImage for Mainframe)	無効

合計: 32

☐ 「適用」をクリックした後にタスク画面を表示

戻る 次へ 適用 キャンセル ?

[SI/TI システムオプション] テーブル

項目	説明
システムオプション	システムオプションが表示されます。
状態	システムオプションの状態が表示されます。 ・ [有効]: システムオプションは有効です。 ・ [無効]: システムオプションは無効です。

[SIMF/FCv2/FCSE システムオプション] テーブル

項目	説明
システムオプション	システムオプションが表示されます。
状態	システムオプションの状態が表示されます。 ・ [有効]: システムオプションは有効です。 ・ [無効]: システムオプションは無効です。

関連参照

- ・ [付録 B.14 ローカルレプリカオプション編集ウィザード](#)



このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- [C.1 操作対象リソースについて](#)
- [C.2 マニュアルで使用する用語について](#)
- [C.3 このマニュアルでの表記](#)
- [C.4 このマニュアルで使用している略語](#)
- [C.5 KB（キロバイト）などの単位表記について](#)

C.1 操作対象リソースについて

Storage Navigator のメイン画面には、ログインしているユーザ自身に割り当てられているリソースだけが表示されます。ただし、割り当てられているリソースの管理に必要とされる関連のリソースも表示される場合があります。

また、このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『オープンシステム構築ガイド』を参照してください。

C.2 マニュアルで使用する用語について

このマニュアルでは、Storage Navigator が動作しているコンピュータを便宜上「Storage Navigator 動作 PC」と呼びます。また、論理ボリュームは特に断りがない場合、「ボリューム」と呼びます。

C.3 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
GAD	global-active device
SI	ShadowImage
Storage Navigator	Hitachi Device Manager - Storage Navigator
TC	TrueCopy
TI	Thin Image
UR	Universal Replicator

C.4 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
CLPR	Cache Logical Partition
CTG	Consistency Group
CU	Control Unit
FMD	Flash Module Drive
GUI	Graphical User Interface
I/O	Input/Output
ID	Identifier
iSCSI	Internet Small Computer System Interface

略語	フルスペル
LBA	Logical Block Address
LDEV	Logical DEvice
LU	Logical Unit
LUN	Logical Unit Number
PV	Physical Volume
SSD	Solid-State Drive
WWN	World Wide Name

C.5 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）は 1,024 バイト、1MB（メガバイト）は 1,024KB、1GB（ギガバイト）は 1,024MB、1TB（テラバイト）は 1,024GB、1PB（ペタバイト）は 1,024TB です。

1block（ブロック）は 512 バイトです。

1Cyl（シリンダ）を KB に換算した値は、ボリュームのエミュレーションタイプによって異なります。オープンシステムの場合、OPEN-V の 1Cyl は 960KB で、OPEN-V 以外のエミュレーションタイプの 1Cyl は 720KB です。メインフレームシステムの場合、1Cyl は 870KB です。3380-xx、6586-xx について、CLI および GUI の LDEV 容量の表示は、ユーザがデータを格納できるユーザ領域の容量を表示するため、1Cyl を 720KB としています。xx は任意の数字または文字を示します。



用語解説

(英字)

ALU

(Administrative Logical Unit)

SCSI アーキテクチャモデルである Conglomerate LUN structure に使われる LU です。

Conglomerate LUN structure では、ホストからのアクセスはすべて ALU を介して行われ、

ALU はバインドされた SLU に I/O を振り分けるゲートウェイとなります。

ホストは、ALU と ALU にバインドされた SLU を SCSI コマンドで指定して、I/O を発行します。

vSphere では、Protocol Endpoint (PE) と呼ばれます。

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

CC

(Concurrent Copy)

IBM 社の Concurrent Copy 機能のことです。

CHA

(Channel Adapter)

詳しくは「チャネルアダプタ」を参照してください。

CLPR

(Cache Logical Partition)

キャッシュメモリを論理的に分割すると作成されるパーティション (区画) です。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CPEX

(Cache Path control adapter and PCI EXpress path switch)

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CSV

(Comma Separate Values)

データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの 1 つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)

詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))

主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)

固定ボリューム (FV) を任意のサイズに分割した可変ボリュームです。

CYL

(Cylinder (シリンダ))

複数枚の磁気ディスクから構成される磁気ディスク装置で、磁気ディスクの回転軸から等距離にあるトラックが磁気ディスクの枚数分だけ垂直に並び、この集合を指します。

DKC

(Disk Controller)

ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ (筐体) です。

DKU

(Disk Unit)

各種ドライブを搭載するためのシャーシ (筐体) です。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

EAV

(Extended Address Volume)

IBM 社のストレージシステムが提供している、従来の 3390 型ボリュームではサポートできない大容量のボリュームを定義するための機能です。最大で、1,182,006 シリンダ/ボリュームまで定義できます。

ECC

(Error Check and Correct)

ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ExG

(External Group)

外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

External MF

詳しくは「マイグレーションボリューム」を参照してください。

External ポート

外部ストレージシステムを接続するために使用する、ストレージシステムのポートです。

FCF

(Fibre Channel Forwarder)
FCoE スイッチです。

FCoE

(Fibre Channel over Ethernet)
ファイバチャネルのフレームを IEEE DCB (Data Center Bridging) などの拡張された Ethernet 上で動作させるための規格です。

FIBARC

(Fibre Connection Architecture)
メインフレームシステム用の光チャネルの一種です。高速データ転送を実現します。

FICON

(Fibre Connection)
メインフレームシステム用の光チャネルの一種です。FICON では、ファイバチャネルの標準に基づいて ESCON[®]の機能が拡張されており、全二重データによる高速データ転送がサポートされています。

FM

(Flash Memory (フラッシュメモリ))
詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

FMD

(Flash Module Drive)
ストレージシステムにオプションの記憶媒体として搭載される大容量フラッシュモジュールです。SSD よりも大容量のドライブです。FMD を利用するには専用のドライブボックスが必要になります。FMD と専用のドライブボックスをあわせて HAF (Hitachi Accelerated Flash) と呼びます。

FV

(Fixed Volume)
容量が固定されたボリュームです。

GID

(Group ID)
ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

HCS

(Hitachi Command Suite)
ストレージ管理ソフトウェアです。

HDEV

(Host Device)
ホストに提供されるボリュームです。

Hyper PAV

IBM OS の機能で、PAV の発展機能です。あるベースデバイスに割り当てたエイリアスデバイスが、同一 CU 内のベースデバイスすべてのエイリアスデバイスとして共有化されます。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 で Compatible Hyper PAV 機能を使用することにより、IBM OS から VSP G1000, G1500 および VSP F1500 上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

I/O モード

global-active device ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator ポート

RCU Target ポートと接続します。Initiator ポートは、ホストのポートとは通信できません。

LCU

(Logical Control Unit)
主に磁気ディスク制御装置を指します。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))
RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。
このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)
複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN

(Logical Unit Number)
論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

LUSE ボリューム

オープンシステム用のボリュームが複数連結して構成されている、1 つの大きな拡張ボリュームのことです。ボリュームを拡張することで、ポート当たりのボリューム数が制限されているホストからもアクセスできるようになります。

MPB1

VSP G1000 専用の MP ブレードです。

MPB2

VSP G1500 および VSP F1500 用の MP ブレードです。VSP G1000 にも搭載できます。

MP ブレード

(Micro Processor Blade)

チャネルアダプタとディスクアダプタの制御、PCI-express インタフェースの制御、ローカルメモリの制御、およびイーサネットで SVP 間の通信を制御するプロセッサを含んだブレードです。データ入出力に関連するリソース（LDEV、外部ボリューム、ジャーナル）ごとに特定の MP ブレードを割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ブレードを割り当てる方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ブレードを割り当てる方法があります。MP ブレードに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ブレードがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ブレードとして使用できます。MPB1 と MPB2 の、2 種類の MP ブレードがあります。

MTIR

(Multi-Target Internal Relationship)

IBM 社の Multiple Target PPRC 機能で、2 つの副サイト間で作成されるペアです。

MU

(Mirror Unit)

1 つのプライマリボリュームと 1 つのセカンダリボリュームを関連づける情報です。

MVS

(Multiple Virtual Storage)

IBM 社のメインフレームシステム用 OS です。

Open/MF コンシステンシーグループ

Open/MF コンシステンシー維持機能を使用した、コンシステンシーグループのことです。

Open/MF コンシステンシーグループ内の TrueCopy ペアおよび TrueCopy for Mainframe ペアを、同時に分割したり再同期したりできます。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で SVP の中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

PAV

IBM OS の機能で、一つのデバイスに対して複数の I/O 操作を平行して発行できるようにする機能です。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 で Compatible PAV 機能を使用することにより、IBM OS から VSP G1000, G1500 および VSP F1500 上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、チャンネルアダプタやディスクアダプタなどのボードを指しています。

PIN

(Personal Identification Number)

暗号 FMD 用の認証鍵のことです。

PPRC

(Peer-to-Peer Remote Copy)

IBM 社のリモートコピー機能です。

Quorum ディスク

パスやストレージシステムに障害が発生したときに、global-active device ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを決めるために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU Target ポート

Initiator ポートと接続します。RCU Target ポートは、ホストのポートとも通信できます。

RDEV

(Real Device)

IBM 用語です。DASD の実装置アドレスを意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

Real Time OS

RISC プロセッサを制御する基本 OS で、主に、メインタスクや SVP 通信タスクのタスクスイッチを制御します。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。原因となるエラーを解決し、Storage Navigator 画面上で SIM が解決したことを報告することを、「SIM をコンプリートする」と言います。

SLU

(Subsidiary Logical Unit)

SCSI アーキテクチャモデルである Conglomerate LUN structure に使われる LU です。

SLU は実データを格納した LU であり、DP-VOL またはスナップショットデータ（あるいはスナップショットデータに割り当てられた仮想ボリューム）を SLU として使用できます。

ホストから SLU へのアクセスは、すべて ALU を介して行われます。

vSphere では、Virtual Volume (VVol) と呼ばれます。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「共用メモリ」を参照してください。

SMS

(Storage Management Subsystem)

IBM 社のメインフレームの OS が提供するツールで、データセットを容易かつ効率的に割り当てることができます。

SSID

ストレージシステムの ID です。ストレージシステムでは、搭載される LDEV のアドレスごと (64、128、256) に 1 つの SSID が設定されます。

Super PAV

IBM OS の機能で、Hyper PAV の拡張機能です。あるベースデバイスに割り当てたエイリアスデバイスが、複数 CU 内のすべてのベースデバイスのエイリアスデバイスとして共有化されます。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 で Super PAV 機能を有効にすれば、IBM OS から VSP G1000, G1500 および VSP F1500 上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

SVP

(Service Processor)

ストレージシステムに内蔵されているコンピュータです。SVP は、保守員が障害情報を解析したり装置診断をするときに利用します。ユーザーは Storage Navigator を使用して SVP にアクセスし、ストレージシステムの設定や参照ができます。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

TSE-VOL

(Track Space - Efficient Volume)

DP-VOL 同様の仮想ボリュームですが、IBM 製品の FlashCopy、および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE のターゲットボリュームとしてのみ使用できます。IBM ホストから認識できるよう互換を保持しています。DP-VOL とプールを共用するため、TSE-VOL を使

用するためには、Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE だけではなく、Dynamic Provisioning for Mainframe のライセンスもインストールする必要があります。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

Vary Offline

メインフレームシステム用ホストとオンライン接続しているデバイスを、オフライン状態に切り替える操作です。Vary Offline の操作をするには、メインフレームシステム用ホストからコマンドを実行します。

Vary Online

デバイスをメインフレームシステム用ホストとオンライン接続するための操作です。Vary Online の操作をするには、メインフレームシステム用ホストからコマンドを実行します。

VDEV

(Virtual Device)

IBM 用語です。DASD の仮想アドレスを意味します。

または、Hitachi 用語でパリティグループ内にある論理ボリュームのグループを意味します。VDEV は固定サイズのボリューム (FV) と剰余ボリューム (フリースペース) から構成されます。VDEV 内に任意のサイズのボリューム (CV) を作成することもできます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

VOS

(Virtual storage Operating System)

日立のメインフレームシステム用の OS です。

VSN

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VOLSER とも呼びます。

VTOC

(Volume Table of Contents)

ディスク上の複数データセットのアドレスや空き領域を管理するための情報を格納するディスク領域です。

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

XRC

(eXtended Remote Copy)

IBM 社のリモートコピー機能です。

zHyperWrite 機能

IBM 社の DS シリーズ ディスクアレイ装置でサポートしている zHyperWrite の互換機能です。上位アプリケーションである DB2 のログを書き込むときに行われる二重化処理で、TrueCopy for Mainframe の更新コピーを使用して二重化処理を行うのではなく、ホストから TrueCopy for Mainframe のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームに対して書き込みを行います。zHyperWrite の詳細については、IBM のマニュアルを参照してください。

(ア行)

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内におけるデータとコマンドの転送経路です。

インクリメンタルリシンク

IBM 社の Multiple Target PPRC 機能で、MTIR ペア間で実行される差分コピーです。

エクステント

IBM 社のストレージシステム内で定義された論理デバイスは、ある一定のサイズに分割されて管理されます。この、分割された最小管理単位の名称です。

エクステントプール

エクステントを 1 個以上まとめた物理領域です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェアのシステムと同じ動作をすること（または同等に見えるようにすること）です。一般的には、過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われます。

(カ行)

外部ストレージシステム

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 に接続されているストレージシステムです。

外部パス

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 と外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定することで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 のボリュームとしてマッピングされた、外部ストレージシステム内のボリュームです。

外部ボリュームグループ

マッピングされた外部ボリュームのグループです。外部ボリュームをマッピングするときに、ユーザが外部ボリュームを任意の外部ボリュームグループに登録します。外部ボリュームグループは、外部ボリュームを管理しやすくするためのグループで、パリティ情報は含みませんが、管理上はパリティグループと同じように取り扱います。

鍵管理サーバ

暗号化鍵を管理するサーバです。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 では、暗号化鍵を管理するための規格である KMIP (Key Management Interoperability Protocol) に準じた鍵管理サーバに暗号化鍵をバックアップでき、また、鍵管理サーバにバックアップした暗号化鍵から暗号化鍵をリストアできます。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合を示します。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、または active flash for mainframe で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。Thin Image では、仮想ボリュームをセカンダリボリュームとして使用します。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。監査ログは、SVP から Storage Navigator 動作 PC にダウンロードしたり、FTP サーバや syslog サーバに転送したりできます。

キャッシュ

チャネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報（ディレクトリ）などを記憶します。これらの情報を基に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報も共用メモリで管理されており、コピーペアを作成する場合に共用メモリを利用します。なお、共用メモリは 2 面管理になっていて、停電等の障害時にはバッテリーを利用して共用メモリの情報を SSD へ退避します。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

コピー系プログラムプロダクト

このストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コマンドデバイス

ホストから RAID Manager コマンドまたは Business Continuity Manager コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから RAID Manager コマンドまたは Business Continuity Manager コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

RAID Manager 用のコマンドデバイスは Storage Navigator から、Business Continuity Manager 用のコマンドデバイスは Business Continuity Manager から設定します。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

(サ行)

サイドファイル

非同期のリモートコピーで使用している内部のテーブルです。C/T グループ内のレコードの更新順序を正しく保つために使用されます。

サイドファイルキャッシュ

非同期コピーの処理時に生成されるレコードセットを格納する領域で、キャッシュ内に一時的に確保されます。

サブ画面

Java 実行環境 (JRE) で動作する画面で、メイン画面のメニューを選択して起動します。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクト、global-active device、および Volume Migration で共有するリソースです。Volume Migration 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリューム（ソースボリューム）とセカンダリボリューム（ターゲットボリューム）のデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。Volume Migration では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

システムプール VOL

プールを構成するプール VOL のうち、1 つのプール VOL がシステムプール VOL として定義されます。システムプール VOL は、プールを作成したとき、またはシステムプール VOL を削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプール VOL で使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

システムプールボリューム

プールを構成するプールボリュームのうち、1 つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、シ

ステムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Universal Replicator と Universal Replicator for Mainframe の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

シュレディング

ダミーデータを繰り返し上書きすることで、ボリューム内のデータを消去する処理です。

冗長パス

チャネルプロセッサの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。交替パスとも言います。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

スナップショットグループ

Thin Image で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Thin Image の用語で、更新直前のプライマリボリュームのデータを指します。Thin Image を使用すると、プライマリボリュームに格納されているデータのうち、更新される部分の更新前のデータだけが、スナップショットデータとしてプールにコピーされます。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。副ボリュームとも言います。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリボリュームと呼びますが、Thin Image では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータがコピーされます。

センス情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、MCU または RCU が、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

専用 DASD

IBM 用語です。z/VM 上の任意のゲスト OS のみ利用可能な DASD を意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。

ソースボリューム

Compatible FlashCopy[®]、および Volume Migration の用語で、Compatible FlashCopy[®]の場合はボリュームのコピー元となるボリュームを、Volume Migration の場合は別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

(タ行)

ターゲットボリューム

Compatible FlashCopy[®]、および Volume Migration の用語で、Compatible FlashCopy[®]の場合はボリュームのコピー先となるボリュームを、Volume Migration の場合はボリュームの移動先となる領域を指します。

ダンプツール

Storage Navigator 動作 PC 上で使用するツールです。障害が発生した場合は、SVP から Storage Navigator 動作 PC に障害解析用のダンプファイルをダウンロードできます。

チャネルアダプタ

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。チャネルアダプタは、データリカバリ・再構築回路 (DRR) を内蔵しています。

チャネルエクステンダ

遠隔地にあるメインフレームホストをストレージシステムと接続するために使われるハードウェアです。

重複排除用システムデータボリューム

同一プール内の重複データを検索するための検索テーブルを格納するボリュームです。プールに重複排除用システムデータボリュームを割り当てれば、重複排除が利用できます。

ディスクアダプタ

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。ディスクアダプタは、データリカバリ・再構築回路 (DRR) を内蔵しています。

データリカバリ・再構築回路

RAID-5 または RAID-6 のパリティグループのパリティデータを生成するためのマイクロプロセッサです。ディスクアダプタに内蔵されています。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位のリアルタイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

(ナ行)

内部ボリューム

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 が管理するボリュームを指します。

(ハ行)

パリティグループ

同じ容量を持ち、1 つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の 1 つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

非対称アクセス

global-active device でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の冗長パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

ファイバチャネルアダプタ

(Fibre Channel Adapter)

ファイバチャネルを制御します。

ファイバチャネルオーバーサネット

詳しくは、「FCoE」を参照してください。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、Thin Image、active flash、および active flash for mainframe がプールを使用します。

プールボリューム、プール VOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、および active

flash for mainframe ではプールボリュームに通常のデータを格納し、Thin Image ではスナップショットデータをプールボリュームに格納します。

副VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、マイクロコードを格納している不揮発性のメモリです。

ブロック

ボリューム容量の単位の一つです。1 ブロックは 512 バイトです。

分散パリティグループ

複数のパリティグループを連結させた集合体です。分散パリティグループを利用すると、ボリュームが複数のドライブにわたるようになるので、データのアクセス（特にシーケンシャルアクセス）にかかる時間が短縮されます。

ペアテーブル

ペアまたは移動プランを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DP の領域を管理する単位です。Dynamic Provisioning の場合、1 ページは 42MB、Dynamic Provisioning for Mainframe の場合、1 ページは 38MB です。

ホストグループ

ストレージシステムの同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループを LDEV に結び付けます。この結び付ける操作のことを、LUN パスを追加するとも呼びます。

ホストグループ 0（ゼロ）

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストバスアダプタ、HBA

(Host Bus Adapter)

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16 桁の 16 進数による ID が付いています。ホストバスアダプタに付いている ID を WWN (Worldwide Name) と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム（通常は OS）を示すモードです。

(マ行)

マイグレーションボリューム

VSP などの異なる機種のストレージシステムからデータを移行させる場合に使用するボリュームです。

マッピング

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 から外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当ててことです。

ミニディスク DASD

IBM 用語です。z/VM 上で定義される仮想 DASD を意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。

メイン画面

Storage Navigator にログイン後、最初に表示される画面です。

(ラ行)

リザーブボリューム

ShadowImage または ShadowImage for Mainframe のセカンダリボリュームに使用するために確保されているボリューム、または Volume Migration の移動プランの移動先として確保されているボリュームを指します。

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 の内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

レコードセット

非同期コピーの更新コピーモードでは、正 VOL の更新情報と制御情報をキャッシュに保存します。これらの情報をレコードセットといいます。ホストの I/O 処理とは別に、RCU に送信されます。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。または、エクスポートツールで指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

Storage Navigator 動作 PC を接続しているストレージシステムを指します。

索引

A

AIX ホストサーバ
注意事項 31

C

Cache Residency Manager 42
Copy Pace Ext. オプション 36
Host I/O Performance オプションとの違い 37

D

Data Retention Utility 42
Dynamic Provisioning 53

G

global-active device 58

H

Host I/O Performance オプション 35
Copy Pace Ext. オプションとの違い 37

L

LUN Manager 42

N

Normal Copy 82

Q

Quick Restore 82
制限事項 70
性能への影響 32

注意事項 70

Quick Resync 82

Quick Split 66

R

RAID Manager
コンシステンシーグループ作成 20
ペア操作 20
RAID レベル 24
Resource Partition Manager 58
Reverse Copy 82
制限事項 70

S

Steady Split 66
Storage Navigator 20
Swap&Freeze オプション 35

T

Thin Image 55
TrueCopy 46

U

Universal Volume Manager 46

V

Volume Migration 45

う

運用設計 30

え

エミュレーションタイプ 24

か

概要 16
カスケードペア 18

き

共用メモリ 27

こ

更新コピー 21
 ペアの状態 21
構成要素 16
コピーしきい値オプション 32
コピー速度
 性能への影響 31
コンシステンシーグループ
 一覧の参照 93
 グループ数の参照 92
 作成 20
 プロパティの参照 93
 要件 24
コンシステンシーグループ指定ペア分割 66
コンシステンシーグループ指定ペア分割機能 77, 78
 概要 78
 実行可否 81
 操作手順 80
 操作の流れ 80
 トラブルシューティング 118
 ペアの状態 81

さ

最大ペア数を計算する 29
差分テーブル数 27

し

システムオプション 32
 Copy Pace Ext.オプション 36
 Host I/O Performance オプション 35
 Swap&Freeze オプション 35
 コピーしきい値オプション 32
 変更 96
システムボリューム数 27
システム要件 24
初期コピー 20
 ペアの状態 20

せ

セカンダリボリューム 16
 要件 24

て

データコピー率
 性能への影響 31

と

トラブルシューティング 105
 RAID Manager エラーコード一覧 108
 RAID Manager エラーログ 107
 エラーメッセージ 106
 コピー処理時間 106
 コンシステンシーグループ指定ペア分割機能 118
 ペアの操作 106

は

パリティグループの負荷分散 31

ふ

プライマリボリューム 16
 要件 24

へ

ペア数
 参照 86
 性能への影響 31
ペア数を計算する 27
ペア操作
 RAID Manager 20
ペアテーブル数 27
ペアの一覧
 参照 86
ペアの一致率
 参照 92
ペアの最大数 27
ペアの状態 74
 更新コピー 21
 初期コピー 20
 定義 86
ペアの操作 74
 概要 74
 デバイスの保守 97
 ペアの再同期 82
 ペアの削除 83
 ペアの作成 74
 ペアの中断 83

- ペアの分割 76, 77
- 履歴 94
- ペアのプロパティ
 - 参照 91
- ペアボリューム 24
 - 計画 26
 - 要件 24
- ペアを再同期する 82
 - Normal Copy 82
 - Quick Restore 82
 - Quick Resync 82
 - Reverse Copy 82
- 種類 68
- 制限事項 70
- 注意事項 70
- ペアを削除する 83
 - 注意事項 71
- ペアを作成する 74
- ペアを中断する 83
 - 注意事項 67
- ペアを分割する 76
 - 種類 66
 - 注意事項 68

ほ

- ボリュームの種類 24
- ボリュームの準備 29
- ボリュームペア 18
- ボリューム併用 4, 41
 - Cache Residency Manager 42
 - Data Retention Utility 42
 - Dynamic Provisioning 53
 - global-active device 58
 - LUN Manager 42
 - Resource Partition Manager 58
 - Thin Image 55
 - TrueCopy 46
 - Universal Volume Manager 46
 - Volume Migration 45

ら

- ライセンス容量
 - 参照 95
 - 要件 25

り

- 利用法 16

